

遠野市教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価報告書
(平成30年度実施事業)



遠野市教育委員会関係機関 共通ロゴマーク
(平成27年7月10日制定)

令和2年3月
遠野市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動	2
1	遠野市教育委員会の構成	2
2	教育委員会の会議の招集状況	2
3	教育委員会の会議の審議及び協議の状況	2
(1)	教育委員会定例会及び臨時会	2
(2)	総合教育会議	5
4	教育委員会の会議以外の活動状況	6
III	教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況と点検・評価の結果	12
1	ふるさと教育の推進	15
(1)	就学前教育の充実	15
(2)	学校教育の充実	20
(3)	高等学校への支援	35
2	生涯学習の推進	37
(1)	社会教育の充実	37
(2)	芸術文化活動の推進	42
3	ふるさとの文化の継承・創造	44
(1)	郷土文化の保存と活用	44
(2)	文化財の保護と継承	49
(3)	郷土の文化を生かした地域創生	54
4	健康づくりの推進	59
(1)	健康づくり活動の推進	59
5	子育て支援の推進	63
(1)	少子化対策・子育て支援	63
IV	外部評価の実施	66

掲載事務事業一覧

ページ	基本方針	方向	展開	事業費の名称	担当課
15	1	(1)	①	わらすっこプラン推進事業費	こども政策課
16	1	(1)	②	わらすっこの育ち療育支援事業費	こども政策課
17	1	(1)	②	障害児通所支援事業費	こども政策課
17	1	(1)	②	保育所等運営事業費	こども政策課
18	1	(1)	②	幼稚園応援事業費	こども政策課
20	1	(2)	①	体育・文化行事奨励費	学校教育課
21	1	(2)	①	外国語指導助手招へい事業費	学校教育課
21	1	(2)	①	特色ある学校づくり事業費	学校教育課
22	1	(2)	①	平成・南部藩寺子屋交流事業費	学校教育課
22	1	(2)	①	特別支援教育推進事業費	学校教育課
23	1	(2)	①	遠野わらすっこ「夢の教室」事業費	学校教育課
24	1	(2)	①	学力向上対策事業費	学校教育課
24	1	(2)	①	特定教科集中対策事業費	学校教育課
26	1	(2)	②	通学対策費（小学校）	学校教育課
27	1	(2)	②	教材整備費（小学校）	学校教育課
27	1	(2)	②	就学援助費（小学校）	学校教育課
28	1	(2)	②	小学校大規模改造整備事業費（繰越明許）	総務企画部財政担当
29	1	(2)	②	小学校大規模改造整備事業費	総務企画部財政担当
30	1	(2)	②	通学対策費（中学校）	学校教育課
30	1	(2)	②	教材整備費（中学校）	学校教育課
31	1	(2)	②	就学援助費（中学校）	学校教育課
31	1	(2)	②	中学校屋内運動場整備事業費（繰越明許費）	学校教育課
32	1	(2)	③	学校給食事業費	学校給食センター
34	1	(2)	④	地域教育文化振興事業費	生涯学習スポーツ課
35	1	(3)	①	高校魅力化サポート事業費	学校教育課
36	1	(3)	①	育英事業費	学校教育課
37	2	(1)	①	みらい創りカレッジ推進事業費	生涯学習スポーツ課
38	2	(1)	①	学びのまちづくり推進事業費	生涯学習スポーツ課
39	2	(1)	③	若者と女性の活躍推進事業費	生涯学習スポーツ課
40	2	(1)	④	高齢者元気アップ活動事業費	生涯学習スポーツ課
40	2	(1)	⑤	放課後子どもプラン推進事業費	生涯学習スポーツ課
42	2	(2)	①	芸術文化振興事業費	生涯学習スポーツ課
44	3	(1)	①	博物館費	文化課
45	3	(1)	①	博物館映像等整備事業費	文化課
46	3	(1)	②	図書館費	文化課

ページ	基本方針	方向	展開	事業費の名称	担当課
47	3	(1)	②	視聴覚教育振興費	文化課
48	3	(1)	②	ブックスタート事業費	文化課
49	3	(2)	①	文化財調査保護費	文化課
50	3	(2)	①	埋蔵文化財発掘調査費	文化課
51	3	(2)	①	重要文化財千葉家住宅整備事業費	文化課
52	3	(2)	①	文化的景観保存事業費	文化課
52	3	(2)	①	歴史文化基本構想策定事業費	文化課
53	3	(2)	③	遠野遺産認定事業費	文化課
55	3	(3)	①	遠野文化調査研究費	文化課
56	3	(3)	②	遠野「語り部」1000人プロジェクト事業費	文化課
56	3	(3)	③	「遠野市史」編さん事業費	文化課
59	4	(1)	①	健康スポーツプログラム推進事業費	生涯学習スポーツ課
59	4	(1)	①	子どもの体力づくりプログラム推進事業費	生涯学習スポーツ課
60	4	(1)	②	競技・イベントスポーツプログラム推進事業費	生涯学習スポーツ課
61	4	(1)	③	ぱすぼる推進事業費	学校給食センター
63	5	(1)	①	看護保育安心サポート事業費	こども政策課
64	5	(1)	①	わらすっこの居場所事業費	こども政策課
64	5	(1)	②	子育て応援宣言のまち推進事業費	こども政策課

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第 162号）第26条第1項の規定に基づき、すべての教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について毎年点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

また、この点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

この報告書は、遠野市教育委員会（一部の事業にあっては、首長部局）が平成30年度に実施した施策、事業等の管理及び執行の状況を、第2期 遠野市教育振興基本計画（計画年度：平成28年度から平成37年度まで）の施策体系ごとにまとめ、点検及び評価を実施し、その結果を公表するものです。

また、附属資料として、第2次遠野市総合計画 前期基本計画のまちづくり指標に関する実績資料を掲載しています。

II 教育委員会の活動

1 遠野市教育委員会の構成

(令和2年3月1日現在)

職名	氏名	任期
教育長	菊池 広親	平成31年4月1日から令和4年3月31日まで
委員 (教育長職務代理者)	角田 直樹	平成28年11月26日から令和2年11月25日まで
委員	千田 由美子	令和元年11月26日から令和5年11月25日まで
委員	菊池 崇	平成28年4月1日から令和2年3月31日まで
委員	菊池 和子	平成30年11月26日から令和4年11月25日まで

2 教育委員会の会議の招集状況

平成30年度は、定例会を毎月1回(計12回)、臨時会を2回(11月に1回、2月に1回)、計14回会議を招集しました。

3 教育委員会の会議の審議及び協議の状況

(1) 教育委員会定例会及び臨時会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条及び遠野市教育長に対する事務委任規則(平成17年遠野市教育委員会規則第7号)第2条に規定する事項のうち、平成30年度に教育委員会定例会及び臨時会において審議した案件は、26件です。

【議案の性質別件数】

分類	項目	件数
1	教育行政の運営に関する基本方針を定めること	1
2	教育委員会の規則及び訓令の制定又は改廃に関する事	6
3	学校その他の教育機関の施設、設備、組織編制、教育課程、教材の取扱いその他管理運営の基本方針を定めること	5
4	教育事務に係る議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	4

5	職員の人事異動の方針を定めること	1
6	職員の分限、懲戒、任免、給与その他の人事を行うこと（県費負担教職員の任免その他の進退に関する内申を含む。）	3
7	附属機関の委員の任免に関すること	4
8	文化財の指定及び解除並びに修理又は復旧の勧告及び現状変更の許可に関すること	0
9	表彰に関すること	1
10	教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検及び評価に関すること	1
計		

【平成30年度 教育委員会会議 提出議案一覧】

議案番号	件名	提出日	決議	分類
平成30年4月定例会				
24	遠野市就学指導委員会委員の任免の臨時専決処理に関し承認を求めることについて	平成30年4月27日	承認	7
25	遠野市奨学生選考委員会委員の委嘱の臨時専決処理に関し承認を求めることについて	平成30年4月27日	承認	7
平成30年5月定例会				
26	遠野市民センター運営協議会委員の委嘱及び任命に関し議決を求めることについて	平成30年5月29日	承認	7
平成30年6月定例会				
27	遠野市総合食育センター運営審議会委員の解嘱及び委嘱に関し議決を求めることについて	平成30年6月28日	可決	7
平成30年7月定例会				
28	平成31年度使用中学校教科用図書の採択に関し議決を求めることについて	平成30年7月20日	可決	3
29	平成31年度使用中学校教科用図書の採択に関し議決を求めることについて	平成30年7月20日	可決	3
30	平成31年度使用小学校教科用図書の採択に関し議決を求めることについて	平成30年7月20日	可決	3
31	平成31年度使用中学校教科用図書（道徳）の採択に関し議決を求めることについて	平成30年7月20日	可決	3

議案 番号	件 名	提出日	決議	分類
平成30年 8 月定例会				
32	平成30年度遠野市教育委員会表彰の受賞者に関し議決を求めることについて	平成30年 8月24日	可決	9
平成30年 9 月定例会				
33	教育委員会事務局職員の人事に関し議決を求めることについて	平成30年 9月27日	可決	6
平成30年11月定例会				
34	平成31年度遠野市立小中学校教職員の定期人事異動方針に関し議決を求めることについて	平成30年 11月21日	可決	5
平成30年12月定例会				
35	遠野市教育委員会教育長の海外渡航に伴う職務代理者の設置に関する基準を定める規程の制定について	平成30年 12月21日	可決	2
36	議会の議決を経るべき議案の原案の決定について	平成30年 12月21日	可決	2
平成31年 1 月定例会				
1	教育事務に係る議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について	平成31年 1月23日	可決	4
2	教育事務に係る議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について	平成31年 1月23日	可決	4
3	教育事務に係る議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について	平成31年 1月23日	可決	4
平成31年 2 月定例会				
4	遠野市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行に関する点検及び評価に関し議決を求めることについて	平成31年 2月14日	可決	10
5	平成31年度遠野市教育行政推進の基本方針に関し議決を求めることについて	平成31年 2月14日	可決	1
6	教育事務に係る議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について	平成31年 2月14日	可決	4
7	平成31年度の学校給食費の額の決定に関し議決を求めることについて	平成31年 2月14日	可決	3
平成31年 2 月臨時会				
8	平成31年度教職員定期人事異動の内申に関し議決を求めることについて	平成31年 2月25日	可決	6
平成31年 3 月定例会				
9	教育委員会事務局職員等の人事に関し議決を求めることについて	平成31年 3月22日	可決	6

議案 番号	件 名	提出日	決議	分類
10	遠野市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について	平成31年 3月23日	可決	2
11	遠野市立小中学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について	平成31年 3月23日	可決	2
12	遠野市教育研究所条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	平成31年 3月23日	可決	2
13	遠野市教育委員会安全衛生管理規程の制定について	平成31年 3月23日	可決	2

(2) 総合教育会議

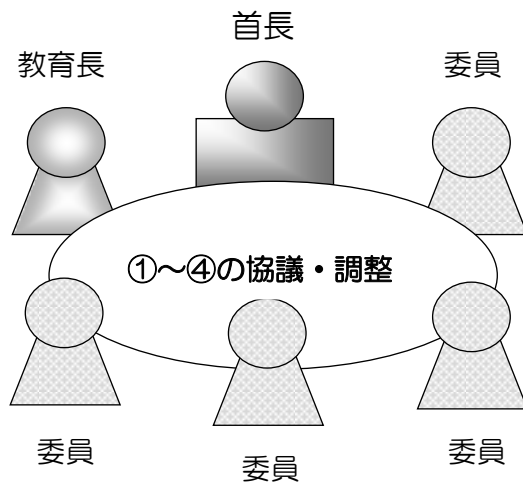
地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正（平成27年4月1日施行）により、首長は、首長及び教育委員会で構成する「総合教育会議」を設けることとされています。

総合教育会議は、首長と教育委員会とが、対等な執行機関として相互の十分な意思疎通を図るため、下の図に掲げる協議や調整を行い、地域における教育に関する課題やあるべき姿を共有することにより、より一層の民意を反映した教育行政を推進することを目的としています。

平成30年度は1回招集され、以下の内容に関する協議が行われました。

開催期日等	協議内容
第1回 平成30年9月18日	(1) 臨床心理士の配置拡充について (2) 市内保育施設の整備について～子育てするなら遠野～

【総合教育会議の概要】



- 首長が招集する。
- 会議は原則として公開する。
- 構成員は首長と教育委員会。
(必要に応じて、意見聴取者の出席を要請する。)

- 「協議」とは・・・
幅広く行われる、首長と教育委員会相互の自由な意見交換。
- 「調整」とは・・・
教育委員会の権限に属する事務と、首長の権限に属する事務の調和を図ること。

※ 市長の諮問を受けて調査・研究・審議を行う「附属機関」には当たらないとされている。

- ① 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定に関する協議
- ② 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議
- ③ 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置についての協議
- ④ ①から③までの事項に関する構成員の事務の調整



- 首長が教育行政に果たす責任や役割を明確にするとともに、
首長が公の場で教育政策について議論することが可能に
- 首長と教育委員会が上記①～④の協議・調整を行うことにより、
両者が教育政策の方向性を共有し、一致して事務の執行に当たることが可能に

4 教育委員会の会議以外の活動状況

教育委員会の構成員（教育長及び教育委員）は、上記に掲げる会議のほか、以下のとおり各種行事、会議等に出席しました。

【遠野市議会】（教育長のみ）

月	会議名等
6月	本会議、予算等審査特別委員会、議員全員協議会
9月	本会議、予算等審査特別委員会、決算特別委員会、議員全員協議会

11月	本会議、議員全員協議会
12月	本会議、予算等審査特別委員会、議員全員協議会
3月	本会議、予算等審査特別委員会、議員全員協議会

【学校訪問】

月	行 事 名 等
6月	学校懇談会（宮守小学校）
9月	学校懇談会（遠野中学校）
10月	学校公開研究会（達曾部小学校） 学校公開研究会（遠野北小学校）
11月	学校懇談会（上郷小学校） 学校公開研究会（遠野中学校：文部科学省指定）

【各種行事、会議等】（教育長、教育委員が出席したものを列記）

月	行 事 名 等
4月	平成30年4月1日付け教育委員会事務局定期人事異動辞令交付式 新採用教職員辞令交付式 遠野市立小中学校転入教職員等着任式 特別支援教育支援員研修会・特定教科支援員研修会 小学校入学式 中学校入学式 県立高等学校入学式 校長・副校長会議 市無形文化財指定書交付式 東北都市教育長協議会定期総会・研修会（宮城県石巻市） 遠野市奨学生選考委員会 管内教育長会議 岩手県教育委員会と市町村教育委員会との意見交換 遠野さくらまつり「南部氏遠野入部行列」
5月	元気わらすっこセンターリニューアルオープンセレモニー 全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会 遠野市総合計画審議会 学力向上対策会議 遠野市生徒指導推進協議会 高校再編を考える市民会議 小学校運動会 中学校体育祭 釜石・遠野地区教科用図書採択協議会

月	行 事 名 等
5月	「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」開校式（遠野高校） チャタヌーガ市への職員派遣に係る辞令交付式 遠野市教育研究会研修会 岩手県市町村教育委員協議会定期総会 遠野市P T A連合会定期総会 「いっぽいっぽの会」総会 遠野市消防演習 遠野市学校・家庭・地域の連携による子どもの学び推進委員会 遠野市交通安全対策協議会総会 遠野市区長連絡協議会定期総会
6月	釜石地区租税教育推進協議会 各町町民運動会 遠野納涼花火まつり実行委員会 遠野まつり実行委員会 岩手県民体育大会遠野市選手団結団式 遠野市緑化祭「里山フェスタ2018」 遠野市中学校総合体育大会 チャタヌーガ市高校生表敬訪問 消防操法協議会 生徒指導主事会議 総合教育会議 遠野ロータリークラブ創立60周年記念式典・祝賀会 遠野風の丘20周年感謝祭オープニング
7月	放課後デイサービス「ぐんぐんはうす」開所式 総合食育センター運営審議会 釜石・遠野地区教科用図書採択協議会 兵庫県福崎町議会による教育長表敬訪問 ブラジルスポーツ連盟視察対応（遠野中で交流給食） 東北六県市町村教育委員会連合会研修会（山形） 社会を明るくする運動遠野地区大会 皇后陛下御歌碑除幕式 遠野市防災会議 さわやかスポーツ大会 平成・南部藩寺子屋交流事業「八戸市との児童交流」八戸市児童受入れ チャレンジ防災スクールTONO2018 市内小学校水泳記録会 日本教育会遠野地区会総会 早稲田塾「グローバル企業経営塾」発表会

月	行 事 名 等
8月	教育研究所全体研修会 平成・南部藩寺子屋交流事業「八戸市との児童交流」 遠野市児童派遣 山桃忌（兵庫県福崎町） 遠野市名誉市民墓参 遠野高校同窓会総会 i.clubサマープログラム2018発表会 遠野納涼花火まつり 遠野市戦没者追悼・平和記念式 愛知県大府市小学生都市間交流事業 大府市児童受入れ 兵庫県福崎町小学生交流事業 福崎町児童受入れ 特別支援教育支援員研修会 遠野市中学校駅伝競走大会 遠野市少年消防クラブ防火野球大会 遠野ホップ収穫祭2018 遠野じんぎすかんマラソン 千葉家保存調査委員会 市原発放射線影響対策本部会議
9月	遠野高校鍋城祭（遠野高等学校文化祭） 遠野市防災訓練 遠野市中学校新人大会 遠野市防災訓練 遠野わらすっこまつり・消防フェア 日本のふるさと遠野まつり 北日本還暦軟式野球大会岩手県予選開会式 めざましクラシックス 教育委員会永年勤続功労者表彰式 市内小学校陸上記録会 佐々木喜善祭 ばすぼる食育まつり 市制施行13周年記念功労者表彰式・市民栄誉賞表彰式
10月	岩手県公立学校退職校長会第45回県研修・親睦会「遠野大会」 達曽部小学校学校公開研究会 遠野北小学校学校公開研究会 武蔵野市・大府市・福崎町来訪歓迎会 遠野地区児童・生徒歌ごえ発表会 生徒指導主事会議 岩手県市町村教育委員会協議会 教育長部会 大府市教育委員教育長表敬訪問 遠野小学校学習発表会「遠野の里の物語」

月	行 事 名 等
10月	遠野西中学校吹奏楽部演奏会「Smileコンサート」 遠野市就学指導委員会 遠野市いじめ防止等対策委員会 市内小学校音楽祭 遠野中学校文化祭 平成30年度緑峰祭（遠野緑峰高校文化祭）
11月	平成30年度「いわて教育の日」のつどい 遠野緑峰高校創立70周年記念式典 土淵保育園創立50周年記念式典 チャタヌーガ市訪問団結団式 遠野地区中学校総合文化祭 遠野市生徒指導推進協議会 遠野ふるさと公社設立30周年記念式典 みちのくALER T 2018 岩手県教職員表彰式 チャタヌーガ訪問団報告会 遠野中学校公開研究会 社会福祉法人睦会設立並びに遠野コロニー開所40周年記念式典
12月	ハートフルステージ～音楽で育む「人権」の集い～ 放課後デイサービス「こむこむはうす」開所式 中学生の「税についての作文」特別賞表彰式 東北選抜クラブ学童野球選手権優勝 西米良中学校修学旅行歓迎式 遠野物語ファンタジー旗揚げ会 チャタヌーガ市公式訪問団報告会 全国高等学校サッカー選手権大会出場激励会 遠野市少年少女空手道選手権大会 教科用図書採択協議会 赤羽根スキー場安全祈願祭 高校再編後期計画の策定に向けた地域検討会議
1月	中学生海外派遣交流事業出発式 チャタヌーガ市訪問 遠野市教育研究所教育研究発表会 消防出初式 成人式「はたちのつどい」 地域で子どもを育てる学習発表会 遠野文化まちづくりネットワーク交流会 環境・科学研究発表会運営委員会

月	行 事 名 等
2月	環境・科学研究発表会 保育のつどい 清養園氷上まつり 外部評価会議 県教委と市町村教育委員会との意見交換会 岩手県教育研究発表会 市町村教育委員協議会研修会 遠野市学校保健会研究大会 藤澤前教育長の叙勲を祝う祝賀会 総合教育センター運営審議会 遠野市特別支援教育研究会交流発表会 ことばの教室・きこえの学級 校外学習発表会 第45回遠野市教育文化振興財団顕賞式 遠野市学校・家庭・地域の学び推進委員会 遠野市の部活動の在り方に関する方針説明会 小友町裸参り 市民の舞台遠野物語ファンタジー 教職員の多忙・負担軽減対策等検討会議
3月	県立高等学校卒業式 イーハトープ養育センター卒園を祝う会 小・中学校卒業証書授与式 防災の集い～災害に負けない遠野を創る～ 日本郵便(株)との包括連携協定締結式 新しい『遠野物語』を創るプロジェクト発表会 (遠野高等学校) 退職・市外転出教職員辞令交付式 教育委員会退職者等辞令交付式

Ⅲ 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況と点検・評価の結果

平成30年度において、遠野市教育委員会は、

- ・第2次 遠野市総合計画 前期基本計画（計画期間：平成28年度～平成32年度）
- ・第2期 遠野市教育振興基本計画（計画期間：平成28年度～平成37年度）

に基づき、教育行政を推進しました。

第2次 遠野市総合計画 前期基本計画においては、教育委員会は、下図に示す2つの大綱及び5つの政策にかかわっています。

【第2次遠野市総合計画 前期基本計画 体系図】

○ 基本理念 「遠野スタイルの創造・発展」

○ 将来像 「永遠の日本のふるさと遠野」

大 綱	政 策	施 策
1 自然を愛し共生するまちづくり	1 自然と共生する環境づくり 2 快適な居住環境の形成 3 道路交通基盤の充実 4 安心安全な地域づくり	
2 健やかに人が輝くまちづくり	1 健康づくりの推進	1 健康づくり活動の推進 2 医療体制の充実
	2 地域福祉の充実	
	3 子育て支援の推進	1 少子化対策・子育て支援 2 児童・母子等福祉の充実
3 活力を創意で築くまちづくり	1 農畜林業の振興 2 商工業の振興 3 観光と交流のまちづくり	
4 ふるさとの文化を育むまちづくり	1 ふるさと教育の推進	1 就学前教育の充実 2 学校教育の充実
	2 生涯学習の推進	1 社会教育の充実 2 芸術文化活動の推進
	3 ふるさとの文化の継承・創造	1 郷土文化の保存と活用 2 文化財の保護と継承 3 郷土の文化を生かした地域創造
5 みんなで考え支えあうまちづくり	1 住民主体のふるさとづくり 2 行財政基盤の強化 3 行政サービスの向上	

また、第2期 遠野市教育振興基本計画においては、5つの基本方針と、基本方針を推進するための施策の方向及び展開を明確化し、これらに沿って、各種の具体的事業を実施し、教育行政を推進しました。

【第2期 遠野市教育振興基本計画 体系図】

○ 基本理念

「ふるさとの文化を生かし、「夢」と「誇り」を育む学びのまちづくり」

基本方針	施策の方向	施策の展開
1 ふるさと教育の推進	(1) 就学前教育の充実	①家庭や地域での教育 ②教育・保育の充実
	(2) 学校教育の充実	①教育内容の充実 ②教育環境の充実 ③学校給食の充実 ④学校と家庭、地域との連携の充実
	(3) 高等学校への支援	①魅力ある高校づくり応援事業の推進
2 生涯学習の推進	(1) 社会教育の充実	①総合推進体制の整備 ②家庭や地域教育の充実 ③成人教育の充実 ④高齢者教育の充実 ⑤青少年の健全育成と指導者の養成
	(2) 芸術文化活動の推進	①芸術文化団体の育成と支援 ②創作芸術文化活動の振興
3 ふるさとの文化の継承・創造	(1) 郷土文化の保存と活用	①博物館活動の推進 ②図書館活動の推進
	(2) 文化財の保護と継承	①文化財調査・保護 ②郷土芸能活動の推進 ③遠野遺産の認定と保護活動及び活用の推進
	(3) 郷土の文化を生かした地域創生	①郷土文化の調査・研究の推進 ②次世代へのふるさと文化の継承 ③市史編さん事業の推進
4 健康づくりの推進	(1) 健康づくり活動の推進	①健康づくり総合プログラムの推進 ②スポーツの振興 ③食育の推進
5 子育て支援の推進	(1) 少子化対策・子育て支援	①少子化対策・子育て支援総合プランの推進 ②子育て支援の充実

【主な事務事業の管理及び執行の状況の点検】

次の表により、平成30年度に実施した主な事務事業を、第2期 遠野市教育振興基本計画に定める「基本方針」「施策の方向」「施策の展開」ごとに区分し、その取組状況、成果及び課題を整理しました。

施策の展開に係る全体総括	「施策の展開」に基づき実施した事務事業全体の成果など、総括的事項を記載しています。
課題	「施策の展開」に基づき実施した事務事業全体の課題を記載しています。

事業費名	「平成30年度遠野市一般会計歳入歳出決算書」に記載している事業費の名称を記載しています。	平成30年度 決算額	事務事業の決算額を記載しています。(単位：円)	
令和元年度事業所管課	令和元年度における当該事務事業を所管する課の名称を記載しています。			
取組状況	事務事業の概要、取組状況等を記載しています。		評価	※
成果	事務事業の実施による成果を記載しています。 (具体的な数値等による成果がある場合は、その内容についても記載しています。)			

【主な事務事業の管理及び執行の状況の評価】

担当課において、各事務事業の取組の成果について、下記により自己評価を行い、その結果（「達成」「概ね達成」「未達成」の3つの区分のうち、該当する区分）を、前ページの表の「評価」欄（※）に記載しています。

区分	担当課による自己評価の判断
達成	事務事業の目的が十分に達成されたと考えられる場合 ※計画及び実績を数値により示すことができる場合は、その達成率が100パーセント以上となる場合
概ね達成	事務事業の目的が概ね達成されたと考えられる場合 ※計画及び実績を数値により示すことができる場合は、その達成率が90パーセント以上100パーセント未満となる場合
未達成	課題が生じた等の理由により、事務事業の目的が概ね達成されたとまではいえないと考えられる場合 ※計画及び実績を数値により示すことができる場合は、その達成率が90パーセント未満となる場合

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(1) 就学前教育の充実
施策の展開	① 家庭、地域での教育

施策の展開に係る 全体総括	<p>遠野市少子化対策・子育て支援総合計画（通称：遠野わらすっこプラン）に基づき、家庭や子育てを社会で支えていく地域社会づくりを目指し、地域や事業所との連携のもと子育て支援施策を展開した。</p> <p>平成30年度は「わらすっこまつり」と「消防フェア」の合同開催、わらすっこ条例応援事業者の認定、遠野テレビを活用した「子育て情報ガイドわらすっこナビ！」の放送、わらすっこ支援委員会による事業の検討並びに評価等の取組を行った。</p>
課題	<p>遠野わらすっこプランは平成31年度が最終年となるため、平成32年度から5年間を対象とした「第2次遠野わらすっこプラン」を策定する。計画の策定と併せ、制定10周年を迎える「遠野市わらすっこ条例」の改正、「わらすっこ基金」の新たな仕組みづくりを検討し、子ども・子育て支援の3本柱として総合的に見直しを図る。</p>

事業費名	わらすっこプラン推進事業費	平成30年度 決算額	5,082,309円	
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課			
取組状況	<p>遠野市少子化対策・子育て支援総合計画「遠野わらすっこプラン」に基づき、子どもだけでなく子どもの権利を保障する大人（保護者、地域、学校、事業者等）も対象とした子育て支援事業を普及する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 遠野市わらすっこ条例普及啓発事業 2 遠野市わらすっこ支援委員会運営事業 3 遠野市わらすっこ基金事業 	評価	達成	
成果	<p>○遠野市わらすっこ条例普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を積極的に実施している事業者をわらすっこ条例応援認定事業者として認定し、地域全体で子育てを応援する環境をさらに促進した。 ・毎月遠野テレビで「子育て情報ガイドわらすっこナビ！」を放送し、子育て支援関連事業を広く周知するとともに、わらすっこまつりについては消防フェアと合同開催し、子どもたちが家族と一緒に様々な遊びや体験ができる機会を提供した。 <p>○遠野市わらすっこ支援委員会運営事業</p> <p>わらすっこプラン事業や関連事業の評価等を審議するため、遠野市わらすっこ支援委員会を4回開催した。</p> <p>○遠野市わらすっこ基金事業</p> <p>わらすっこ基金への寄附金6件 642,487円、運用利子12,259円、ふるさと納税分1,650,000円（わらすっこプラン事業への寄附金のうち経費等を除く）を積み立てるとともに、子育て支援事業に活用した。</p>			

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(1) 就学前教育の充実
施策の展開	② 教育・保育の充実

施策の展開に係る 全体総括	<p>これまで実施してきた療育教室、日中一時支援事業、障害児通所利用者負担助成（のびのび子育て応援事業）のほか、平成30年度は、市外特別支援学校へのスクールバス運行、NPO法人による放課後等デイサービス事業所の市内2カ所新設により、支援を必要とする子どもとその家族に対する支援を拡大した。</p> <p>また、保育所13カ所、認定こども園2カ所、幼稚園1カ所の運営費を負担するとともに、保護者のニーズに応じた特別保育の実施、社会福祉法人への運営費補助を行い、就学前教育・保育環境の充実を図った。</p>
課題	<p>難聴児補聴器購入費助成金の対象拡大、幼児ことばの教室の通級機会拡大、療育教室通級児童にかかる学校との連携等、支援を必要とする子どもとその家族に対する福祉の更なる向上を推進する。</p> <p>平成31年10月からは幼児教育・保育無償化が始まることから、確実な情報収集と保護者・保育所等への周知と併せ、市独自施策の取組について検討する。</p>

事業費名	わらすっこの育ち療育支援事業費	平成30年度 決算額	9,088,292円	
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課			
取組状況	<p>○心身において発達の遅れが認められる、又は発達の遅れが生じるおそれのある児童に対し、個別プログラムを取り入れた療育教室を開催した。</p> <p>○発音等ことばの発達が気になる幼児に対し、就学に向けてことばの教室を開催した。</p> <p>○軽度・中等度の難聴児に対する補聴器の購入について一部助成を行った。</p> <p>○日中一時支援事業、放課後等デイサービス事業を利用した小学生又は特別支援学校小学部児童の保護者に対し、その自己負担分を助成した。</p> <p>○市外特別支援学校の寄宿舎で生活する生徒の交通手段として、スクールバスを運行し、保護者の負担軽減を図った。</p>	評価	達成	

成果	<p>○発達の遅れ等のある幼児に対し、個別プログラム及び臨床心理士からの助言を生かした療育教室を開催した。</p> <p>○発音や吃音などのことばの発達が気になる年長児に対して、幼児ことばの教室を開催し、就学後の生活が円滑に進むよう指導を行った。</p> <p>○軽度・中等度難聴児補聴器助成制度について周知を図った。</p> <p>○日中一時支援事業、放課後等デイサービス事業を利用した小学生又は特別支援学校小学部児童の保護者に対し、利用者自己負担分を助成し経済的負担を軽減した。</p> <p>○花巻清風支援学校本校の寄宿舎で生活する生徒の交通手段として、スクールバスを運行し、保護者の送迎に係る負担軽減に寄与した。</p>
----	--

事業費名	障害児通所支援事業費	平成30年度 決算額	11,919,167円		
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課				
取組状況	障がいのある子どもの生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進、その他の療育支援を行う障害児通所支援事業所に対し、児童福祉法に基づき障害児通所給付費を支給した。	評価	達成		
成果	<p>平成30年7月、12月に市内に開所した放課後等デイサービス事業所をはじめ、市外の児童発達支援事業所等に対し、児童福祉法に基づく障害児通所給付費を支給することにより、障がいのある子どもの生活能力の向上、社会との交流を支援した。</p> <p>障害児通所給付費 11,752,320円</p> <p>障害児通所給付支払業務委託料 28,880円</p> <p>平成29年度障害児通所給付費負担金返還金 137,967円</p>				

事業費名	保育所等運営事業費	平成30年度 決算額	1,020,989,362円		
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課				
取組状況	<p>○ライフワークが多様化するなか、保護者の就労や出産等の理由により、保育所の利用を希望する子育て世代が増加していることから、保育の受け皿として市内12箇所の保育所の運営を委託し、2箇所の認定こども園の運営費を国の定める基準により負担することで、安心して子育てができる環境を提供し、児童の健全な育成を図った。</p> <p>○地域の実情や、子育て世代における生活・就労形態の多様化に応じた保育サービスを提供するため、特別保育事業として「障害児保育事業」「保育所地域活動事業」「延長保育事業」「一時預かり事業」及び「地域子育て支援拠点事業」を実施する事業者に対し運営費を補助する。</p> <p>また、従業員のために事業所内に保育施設を設置し運営を行う事業</p>	評価	達成		

	者に対し、管理運営に要する経費を助成し、保育環境の充実を図った。		
成果	<p>○市内12箇所の保育所の運営を委託し、2箇所の認定こども園の運営費を負担することにより、安心して充実した子育て環境の提供を実現し、児童の健全な育成を推進した。</p> <p>○平成30年度末における入所児童数 遠野 101人（91.8%）、神明 76人（84.4%）、綾織 48人（80.0%）、岩滝 31人（103.3%）、附馬牛 34人（85.0%）、白岩 102人（92.7%）、松崎 49人（81.7%）、土淵 65人（92.9%）、青笹 99人（99.0%）、上郷 52人（104.0%）、宮守 52人（69.3%）、達曾部 35人（87.5%）、鱒沢 12人（60.0%）、聖光 91人（86.6%） 合計 847人（88.2%） ※ 括弧内記載の割合は、定員に対する充足率。</p> <p>○平成30年度末における年齢別入所児童数 0歳児 111人 1歳児 108人 2歳児 139人 3歳児 144人 4歳児 167人 5歳児 178人 合計 847人</p> <p>○生活・就労形態の多様化に応じた特別保育事業を実施することにより、子育て環境の充実を図った。 ・特別保育事業（障害児保育事業、保育所地域活動事業、延長保育事業、一時預かり事業）（利用者 延べ866人） 7,748,360円 ・地域子育て支援拠点事業（利用者 延べ3,469人） 7,171,640円 ・平成29年度子ども・子育て支援交付金返還金 2,740,000円</p> <p>○社会福祉法人遠野市保育協会に対し運営費補助金を交付し、保育所及び認定こども園の円滑な運営を推進した。 ・運営費補助金 37,829,000円</p> <p>○企業内託児保育施設設置者に対して管理運営に要する経費の一部を助成し、職場の子育て環境の充実を図った。 ・子育て環境育成事業助成金 500,000円</p>		

事業費名	幼稚園応援事業費	平成30年度 決算額	34,115,628円
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課		
取組状況	<p>市内に設置する私立幼稚園を運営する法人に対し、施設の運営経費に対し負担金及び補助金を交付し、幼児教育の振興を図った。</p> <p>また、子育て世代における生活・就労形態の多様化に応じた保育サービスを提供するため、特別保育事業として「一時預かり事業」の実施を私立幼稚園に委託した。</p>	評価	達成

<p>成果</p>	<p>○私立幼稚園運営費負担金 私立幼稚園の運営費を負担することによって、充実した幼児教育環境の提供及び園の円滑な運営を支援した。</p> <p>○平成30年度末における入所児童数 2歳児 4人、3歳児 12人、4歳児 17人、5歳児 11人 合計 44人</p> <p>○私立幼稚園就園奨励費補助金 私立幼稚園に就園する園児の保護者の所得状況に応じて就園費用を助成し、保護者の経済的負担を軽減した。</p> <p>○特別保育事業 保護者の就労形態に応じた「一時預かり事業」を実施し、子育て環境の充実を図った。</p>
-----------	---

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(2) 学校教育の充実
施策の展開	① 教育内容の充実

施策の展開に係る 全体総括	平成30年度に実施した事業については、ほぼすべての事業において目標を達成することができた。特に、学力向上対策事業については、継続的な取組の成果が各種の学力調査等の成果として表れている。
課題	小学校の外国語の教科化に向けて、ALTの増員を図っているが、小学校でのALTの活用等において、学校間やALTによる差があるため、解消を図っていきたい。

事業費名	体育・文化行事奨励費	平成30年度 決算額	4,188,100円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○次代を担う児童・生徒に対し、「ふるさと遠野」のよさ、自分の将来や地域の未来について考える機会をつくり、文章に表現することや読むことを通して、言語能力を養い豊かな人間性を育むことを目的に、遠野市内小中学校児童・生徒文集「遠野」を発刊した。</p> <p>○文化創造活動の能力を育み、もって豊かな情操を養うことを目的に遠野市内小中学校児童生徒作品展を開催した。</p> <p>○体育活動及び文化活動の振興を通して市内小中学校の児童生徒の健全な育成を図る事業を行う団体に対して補助金を交付した。</p> <p>○地方公共団体等が主催する各種大会（県、東北、全国）に児童生徒が出場するために要する経費の一部について助成を行った。</p>	評価	達成	
成果	<p>児童生徒作品展の開催 1回</p> <p>児童生徒文集の印刷 250冊</p> <p>事業補助団体 4団体</p>			

事業費名	外国語指導助手招へい事業費	平成30年度 決算額	12,170,840円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」の「知」に位置付けて事業を実施した。</p> <p>○グローバル化が進む中、国際社会に対応することができる英語教育が求められている。</p> <p>○英語教育は、小学校では、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験しながら、コミュニケーション能力の素地を養うこと、中学校では身近な事柄を中心としたコミュニケーションを図ることが目標となっている。これらの目標達成に向け、教員の確保や指導力向上だけでは十分対応することができない部分に外部の人材を活用した。</p> <p>○平成30年度は、A L Tを1人から3人に増員し、小中学校の英語教育の充実を図った。</p>	評価	達成	
成果	<p>○A L Tを3人にしたことにより、小学校にも定期的に派遣することが可能となり、小学校段階から生きた英語に触れることができた。</p> <p>○児童生徒が英語力の4技能のうち、「聞く」「話す」のコミュニケーションに関する能力を養い、英語による表現力を育み、英語力の向上を図ることができた。</p> <p>派遣回数 533回（小学校176回 中学校357回）</p>			

事業費名	特色ある学校づくり事業費	平成30年度 決算額	1,268,970円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」の全てに位置付けて事業を実施した。</p> <p>○児童生徒一人一人の学習・生活の基礎力の充実及び個性と能力の伸長に努め、生命と体と心を育む教育の具現化を図るため、各小中学校それぞれで企画・立案した事業計画をもとに、地域の歴史・文化・伝統・特徴を生かして農業体験、伝統芸能の継承などの地域理解学習に取り組んだ。</p>	評価	達成	
成果	<p>○全ての小・中学校が事業に取り組み、各校の教育目標や地域の特色に応じて歴史、文化、自然等を学ぶ活動を積極的に展開し、多くの学校で郷土芸能の伝承活動や農業を通じた食育活動に取り組んだ。</p> <p>○事業を通じて、遠野に伝わる伝統や文化に触れることで、児童生徒のふるさとへの愛着と誇りをもつ心が育まれるとともに、地域に開かれた学校づくりの一助となった。</p>			

事業費名	平成・南部藩寺子屋交流事業費	平成30年度 決算額	566,100円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」の「徳」に位置付けて事業を実施した。</p> <p>○根城南部氏の縁でつながる青森県八戸市児童との交流の中で、日常生活と異なる集団生活を通じてコミュニケーション能力や、リーダーシップを高めるとともに、八戸市の歴史や文化の学びから「遠野」の歴史や自然のよさについて見つめ直すことを通して、郷土を愛する心や態度を育て、遠野市の将来を担う人材の育成を図った。</p> <p>○楽しいだけの交流で終わることなく、交流を通して学んだことを、今後の学校生活で発揮することができる内容とした。</p>		評価	達成
成果	<p>○遠野市内小学校11校の代表児童が八戸市の児童と交流活動を行う中で、互いの郷土の歴史や両市の文化について学ぶことができた。</p> <p>○学校とは異なる集団の中でのコミュニケーションの取り方やリーダーとしてのあり方を学ぶとともに、ふるさと遠野の良さを自ら振り返り、事業の目的とする人材の育成を図ることができた。</p> <p>1 受入交流 7月25日から7月27日まで 八戸市児童42人が来遠 遠野市児童26人が交流</p> <p>2 派遣交流 8月3日から8月4日まで 遠野市児童25人が八戸市を訪問</p>			

事業費名	特別支援教育推進事業費	平成30年度 決算額	20,934,730円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」の「知」に位置付けて事業を実施した。</p> <p>○小・中学校の通常学級に在籍し、個別に特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活における介助及び学習活動における支援を行うため、担任教諭の補助等を行う特別支援教育支援員を配置した。</p> <p>○要支援児童生徒に対する指導の充実を図るため、巡回指導を行う学習指導講師を配置した。</p> <p>○市内小中学校に在籍する外国人児童生徒への個別の日本語指導を行うため、日本語指導講師を配置した。</p>		評価	達成

成果	<p>○特別支援教育支援員が児童生徒の学習や生活面において適切な指導と必要な支援を行うことで、「知・徳・体」のバランスのとれた児童生徒を育成するとともに、特別支援教育の充実を図ることができた。</p> <p>○学習指導講師の巡回指導により、児童のニーズに応じて適切な「ことば」の指導が実施され、児童7人がことばの教室を退級することができた。</p> <p>○外国人児童生徒が在籍する小中学校に、日本語指導講師を配置し、日本語の習熟指導を行うとともに、学校生活でのコミュニケーション支援を行うことで、児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。</p> <p>○補聴器や人工内耳を装用しても騒音下での聞き取りが難しい児童がいる学校にロジャータッチスクリーンマイク（補聴援助システム）を支給することにより、安心して授業を受けることができる環境づくりに努めた。</p>
----	--

事業費名	遠野わらすっこ「夢の教室」事業費	平成30年度 決算額	2,050,000円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」の「徳」に位置付けて事業を実施した。</p> <p>○心身の健全な発達に向けて、公益財団法人日本サッカー協会が取り組んでいるところのプロジェクト「夢の教室」を活用し、現役スポーツ選手、その他OB等が「夢先生」として、フェアプレー精神や助け合いの重要性を児童に伝えるとともに、夢を持つことの素晴らしさ、夢に向かって努力することの大切さを語り合う授業を行う。</p> <p>○平成30年度は、遠野市での事業実施10年目となることから、記念事業として中学2年生を対象に加え授業を行った。</p>	評価	達成	
成果	<p>○各小中学校では、「夢の教室」をキャリア教育の一環と位置付け、児童生徒が自分の将来を考えるきっかけづくりの一つとなるよう取り組んだ。</p> <p>○平成21年度より市内小学校の5・6年生を対象として事業を実施してきたが、今年度は、事業開始から10年目を迎えたことを契機として、中学校2年生を対象に加え「夢の教室」を実施した。</p> <p>○自分の夢や目標を持つこと、夢に向かって努力することの大切さを学び、将来を考えるきっかけとなった。</p> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠野小学校（5・6年生）、遠野北小学校（5・6年生） 青笹小学校（5年生） ・遠野中学校、遠野東中学校、遠野西中学校（2年生） 			

事業費名	学力向上対策事業費	平成30年度 決算額	17,233,725円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」のうち「知・徳」に位置付けて事業を実施した。</p> <p>○児童生徒等の学校生活に関する教育相談等の担当として、教育相談員を配置した。</p> <p>○市内小中学生を対象に、標準学力検査（NRT）（小2～中3）及び知能検査（小2・4・6、中2）を実施し、その結果をもとに、各中学校区で研究部会を開催し、課題に向けての調査、研究及び発表を行い、各学校に還元した。</p> <p>○教育課程に関する実践研究を行い、その成果を学校公開の場で発表し、研究成果を市内小中学校に還元した。</p>	評価	概ね達成	
成果	<p>○標準学力検査及び知能検査の分析結果によって明らかとなった児童生徒個々の実態をもとに、中学校区ごとの授業改善のための「2つの視点」を設定し、小中学校の連携による授業改善を図り、教員の「一人一授業」の評価研修等に取り組んだ。</p> <p>○平成30年度は、これまでの成果や課題、児童生徒の現状を踏まえながら「遠野市学力向上アクションプラン」を作成し、市内小中学校の全教員で情報共有を図った。また、先進的に研究を進め、実践している県内小中学校の授業の様子を視察したり、外部講師を招へいた研修を実施するなどして、授業の質の向上につなげた。</p> <p>○遠野市教育研究所及び市内3中学校に教育相談員を配置し、生徒や保護者の教育相談を通して不安や悩みの解消に努めるとともに、市内中学校の教員への支援を行った。また、適応指導教室を設置し、学校への登校が困難な生徒に対して、学校復帰に向けた支援を行うとともに、卒業に向けての進路指導等を行った。</p>			

事業費名	特定教科集中対策事業費	平成30年度 決算額	5,123,299円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「知・徳・体」の「知」に位置付けて事業を実施した。</p> <p>○市内中学校に特定教科学習支援員を配置し、教育委員会が指定する特定教科（数学）について、教科担当教諭と協力してティームティーチング又は個別指導等の充実による学力の向上を図った。</p> <p>○中学3年生に対し、日本英語検定協会が実施する「実用英語検定」の受検料を全額補助し、目標を持って英語の学習に取り組む環境を構築したほか、英検対策講座の実施を通じて、英語の学習支援を行った。</p>	評価	達成	

<p>成果</p>	<p>○特定教科学習支援員を学校規模に応じて配置し、数学の授業においてティームティーチングや家庭学習支援を行うことで、生徒一人ひとりの理解度に応じた指導・支援が実践された。</p> <p>○実用英語検定の受検費用を全額補助することで、多くの中学3年生が英検に取り組むことができた。また、休日の開催であるにもかかわらず、多くの生徒が対策講座に参加し、英語の学習に取り組んだ。</p> <p>・実用英語検定受検者 200人</p>
-----------	---

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(2) 学校教育の充実
施策の展開	② 教育環境の充実

施策の展開に係る 全体総括	児童生徒が安全に安心して学校施設等を使用できるよう、維持管理等に努めた。 また、老朽化したスクールバス1台を更新し、児童生徒の通学の安全確保を図った。
課題	建築後相当の年数が経過している学校施設等については、長寿命化を考慮しながら、適宜メンテナンスを実施する必要がある。 また、近年の猛暑に対応するため、市内小中学校の普通教室に空調設備を整備することとなった（平成31年度へ事業を繰越）が、真夏（夏休み期間中）に勤務する教職員のために、まだ、職員室、校長室に空調設備がない学校への整備について、検討が必要となっている

事業費名	通学対策費（小学校）	平成30年度 決算額	18,648,324円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○遠距離から小学校に通学する児童のため、必要な通学対策を講じ、教育環境の充実を図った。</p> <p>○遠距離から小友小、附馬牛小、土淵小、宮守小、達曾部小、鱒沢小に通学する児童を対象に、スクールバス等を運行した。また、路線バスで遠野北小に通学する松崎地区の児童を対象に、定期券を購入し配付するとともに、青笹小に通学する瀬内地区の児童の一部を対象にタクシーを運行した。</p> <p>○遠距離（片道4 km以上）から通学する児童を対象に、通学費を助成した。</p> <p>○教育課程における児童の移動のため、スクールバスの特別運行を行った。</p>	評価	達成	

成果	<p>○スクールバス等の運行により、遠距離から小学校に通学する児童の負担の軽減と通学時の安全を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス5台、ワゴン3台、タクシー1台の運行及び路線バス、タクシー運行委託 <p>○遠距離通学児童のうちスクールバス等の利用対象とならない児童に対して遠距離通学費補助金を支給し、保護者の負担の軽減を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給児童数 25人 <p>○学校運営上必要な行事や市主催の各種事業等における児童の送迎のため、スクールバス等の特別運行を行い、有効活用を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別運行許可件数 274件
----	---

事業費名	教材整備費（小学校）	平成30年度 決算額	22,181,688円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○小学校における教育活動に必要な教材備品及び図書を購入するとともに、パーソナルコンピュータの借上げを行った。</p> <p>○国の補助事業を活用し、実験、観察等を通じた効果的な教育活動に資するため、理科及び算数に係る教材備品を整備した。</p>	評価	達成	
成果	<p>○教育活動に必要となる教材備品の購入、読書による言語活動の充実を図るための図書の購入、情報教育の推進を図るためパーソナルコンピュータの借上げを行った。平成30年度から新たに借上げ期間が始まった5校において、パソコン教室にタブレット端末を導入した。</p> <p>○理科・算数教材備品を整備し、観察、実験等を通じた実践的な教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>【主な理科・算数教材備品の整備内容】</p> <p>土淵小学校：薬品庫、大型作図用具セット、さんすうタイル 等</p> <p>青笹小学校：小型人体骨格模型、デジタルCO2・O2チェッカー 等</p> <p>上郷小学校：電気のはたらき回路実験セット、流水の動き実験器 等</p> <p>宮守小学校：デジタル生物顕微鏡、内臓の大きさ体感モデル 等</p>			

事業費名	就学援助費（小学校）	平成30年度 決算額	13,604,100円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			

取組状況	<p>○経済的理由により就学が困難な児童の保護者に対して、学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学用品費、修学旅行費、通学費、P T A会費、学校病医療費、学校病医療通院費及び学校給食費を支給し、義務教育の円滑な実施を図った。</p> <p>○経済的理由を有する次年度新入学予定児童の保護者に対して、申請に基づき新入学学用品費の入学前支給を行った。</p>	評価	達成																								
成果	<p>就学が困難な児童の保護者に対して必要な援助を行い、義務教育の円滑な実施を図った。 なお、下記のうち被災児童9人分の就学援助費については、国補助金(10/10)の対象として交付された。</p> <p>・支給児童数 162人</p> <p>【支給項目及び支給対象在学児童数の内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>学用品費 (159人)</td> <td>1,758,678円</td> <td>通学用品費 (129人)</td> <td>276,522円</td> </tr> <tr> <td>校外活動費 (159人)</td> <td>292,315円</td> <td>新入学用品費 (4人)</td> <td>162,400円</td> </tr> <tr> <td>修学旅行費 (30人)</td> <td>777,529円</td> <td>通学費 (2人)</td> <td>16,000円</td> </tr> <tr> <td>クラブ活動費 (4人)</td> <td>2,330円</td> <td>P T A会費 (112人)</td> <td>369,160円</td> </tr> <tr> <td>学校病医療費 (380人)</td> <td>343,291円</td> <td>学校病医療通院費(23人)</td> <td>41,610円</td> </tr> <tr> <td>学校給食費 (156人)</td> <td>6,482,865円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○経済的理由を有する翌年度新入学予定児童の保護者に対して、新入学学用品費（小学校28人分1,416,800円、中学校29人分1,664,600円、合計57人分3,081,400円）の入学前支給を行い、義務教育の円滑な実施を図った。</p>	学用品費 (159人)	1,758,678円	通学用品費 (129人)	276,522円	校外活動費 (159人)	292,315円	新入学用品費 (4人)	162,400円	修学旅行費 (30人)	777,529円	通学費 (2人)	16,000円	クラブ活動費 (4人)	2,330円	P T A会費 (112人)	369,160円	学校病医療費 (380人)	343,291円	学校病医療通院費(23人)	41,610円	学校給食費 (156人)	6,482,865円				
学用品費 (159人)	1,758,678円	通学用品費 (129人)	276,522円																								
校外活動費 (159人)	292,315円	新入学用品費 (4人)	162,400円																								
修学旅行費 (30人)	777,529円	通学費 (2人)	16,000円																								
クラブ活動費 (4人)	2,330円	P T A会費 (112人)	369,160円																								
学校病医療費 (380人)	343,291円	学校病医療通院費(23人)	41,610円																								
学校給食費 (156人)	6,482,865円																										

事業費名	小学校大規模改造整備事業費（繰越明許）	平成30年度 決算額	147,970,066円
令和元年度 事業所管課	総務企画部財政担当		
取組状況	<p>○昭和53年3月に建築された土淵小学校校舎は、築後39年を経過していることから、大規模改造工事を実施し、施設の長寿命化を図った。</p> <p>○大規模改造（第1期）工事の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室（職員室、校長室、印刷室、保健室、教具室、昇降口、会議室、普通教室2室、職員更衣室、理科室、家庭科室、図工室、廊下）の床、壁、天井の改修 ・照明のLED化、防災盤の新設 ・低学年用トイレの新設、合併処理浄化槽の新設、FF暖房機器の更新 ・給食荷受室増築及び児童用昇降口増築工事 ・渡り廊下改築工事 ・昇降口前外構整備 ・業務委託（工事監理業務） 	評価	達成

成果	<p>○校舎大規模改造工事、給食荷受室増築工事、児童用昇降口増築工事及び渡り廊下改築工事を実施し、学習環境の整備を図った。ただし、校舎大規模改造工事で、電気設備工事を優先することにし、特別教室（理科室、家庭科室、図工室）の改修を第2期工事に見送ったほか、昇降口前外構整備工事は、屋内運動場からの雨水等の処理が未決定であったことから仕上げを第2期工事に見送った。</p> <p>1 土淵小学校校舎大規模改造（第1期）工事 工期 平成30年7月24日から平成31年3月8日まで 完成年月日 平成31年3月8日 建築工事 50,198,400円 機械設備工事 29,890,080円 電気設備工事 18,880,560円</p> <p>2 土淵小学校校舎大規模改造（増築・外構）工事 ※大規模改造第1期（建築）工事と合併入札、分離契約 工期 平成30年7月24日から平成31年3月22日まで 完成年月日 平成31年3月11日 建築工事 43,272,360円</p> <p>3 仮設電気設備工事等 2,758,666円</p> <p>4 工事監理業務委託 委託期間 平成30年7月24日から平成31年3月26日まで 完成年月日 平成31年3月20日 委託金額 2,970,000円</p>
----	---

事業費名	小学校大規模改造整備事業費	平成30年度 決算額	11,065,032円	
令和元年度 事業所管課	総務企画部財政担当			
取組状況	○土淵小学校大規模改造工事の進捗状況に合わせて、教室等で必要な備品を整備した。	評価	達成	
成果	<p>○土淵小学校校舎大規模改造工事に合わせて、下記教室等に備品を購入し学習環境の充実を図った。</p> <p>○当初予定されていた特別教室の工事を令和元年度に見送ったため、特別教室の調理台や実験台の購入を令和元年度に繰り越した。</p> <p>【主な購入品】 昇降口：下足入れ、傘立て、 給湯室：IHコンロ、食器棚 印刷室：吊戸棚、キャビネット、作業テーブル 職員室：机、椅子、キャビネット、ホワイトボード、カーテン 校長室：机、椅子、会議テーブル、応接セット、書棚、ブラインド 保健室：机、椅子、診察台、収納式ベッド、カーテン、薬品庫 相談室：衝立</p>			

	教具室：カーテン 会議室：会議用机、椅子、カーテン 普通教室：教師用机、椅子、教卓、給食台
--	---

事業費名	通学対策費（中学校）	平成30年度 決算額	53,756,478円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○遠距離から中学校に通学する生徒のため、必要な通学対策を講じ、教育環境の充実を図った。</p> <p>○遠距離から通学する以下の生徒を対象に、スクールバス等を運行した。</p> <p>遠野中のうち綾織小及び附馬牛小の区域の生徒 遠野東中のうち土淵小及び上郷小の区域の生徒 遠野西中のうち小友小、達曾部小及び鱒沢小の区域の生徒</p> <p>○教育課程における生徒の移動のため、スクールバスの特別運行を行った。</p> <p>○スクールバスを計画的に更新し、生徒のより安全な通学に務めた。</p>	評価	達成	
成果	<p>○スクールバス等の運行により、遠距離から中学校に通学する生徒の負担の軽減と通学時の安全を図った。</p> <p>・運行台数 18台（バス10台、ワゴン8台）</p> <p>○学校運営上必要な行事やクラブ活動等における生徒の送迎のため、スクールバス等の特別運行を行い、有効活用を図った。</p> <p>・特別運行許可件数 168件</p> <p>○遠野西中で使用するスクールバスを更新し、より安全な通学手段を確保することができた。</p>			

事業費名	教材整備費（中学校）	平成30年度 決算額	9,880,414円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○中学校における教育活動に必要な教材備品及び図書を購入するとともに、パーソナルコンピュータの借上げを行った。</p> <p>○国の補助事業を活用し、実験、観察等を通じた効果的な教育活動に資するため、理科及び数学に係る教材備品を整備した。</p>	評価	達成	

成果	<p>○教育活動に必要となる教材備品の購入、読書による言語活動の充実を図るための図書の購入、情報教育の推進を図るためのパーソナルコンピュータの借上げを行い、教育環境のさらなる充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材備品購入数 21品目 ・図書購入冊数 637冊 ・パーソナルコンピュータ借上げ 186台 <p>○理科・数学教材備品を整備し、観察、実験等を通じた実践的な教育活動の充実を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な整備内容 <ul style="list-style-type: none"> 遠野中学校：生物顕微鏡、正多面体展開説明器 等 遠野東中学校：真空落下実験器、電気分解・燃料電池セット 等 遠野西中学校：生物顕微鏡、すい体の退席説明教具 等
----	---

事業費名	就学援助費（中学校）	平成30年度 決算額	15,443,955円																									
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課																											
取組状況	<p>○経済的理由により就学が困難な生徒の保護者に対して、学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学用品費、修学旅行費、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費、学校病医療費、学校病医療通院費及び学校給食費を支給し、義務教育の円滑な実施を図った。</p>	評価	達成																									
成果	<p>○就学が困難な生徒の保護者に対して必要な援助を行い、義務教育の円滑な実施を図ることができた。なお、下記のうち被災生徒4人分の就学援助費については、国補助金(10/10)の対象として交付された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給対象在学生徒数 120人 <p>○支給項目及び支給対象在学生徒数の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">学用品費（116人）</td> <td style="width: 25%;">2,525,880円</td> <td style="width: 25%;">通学用品費（82人）</td> <td style="width: 25%;">179,887円</td> </tr> <tr> <td>校外活動費（116人）</td> <td>265,745円</td> <td>新入学用品費（13人）</td> <td>616,200円</td> </tr> <tr> <td>修学旅行費（48人）</td> <td>3,416,282円</td> <td>クラブ活動費(110人)</td> <td>2,082,661円</td> </tr> <tr> <td>生徒会費（113人）</td> <td>238,000円</td> <td>PTA会費（96人）</td> <td>244,200円</td> </tr> <tr> <td>学校病医療費（22人）</td> <td>279,514円</td> <td>学校病医療通院費(4人)</td> <td>2,370円</td> </tr> <tr> <td>学校給食費（114人）</td> <td>5,593,216円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	学用品費（116人）	2,525,880円	通学用品費（82人）	179,887円	校外活動費（116人）	265,745円	新入学用品費（13人）	616,200円	修学旅行費（48人）	3,416,282円	クラブ活動費(110人)	2,082,661円	生徒会費（113人）	238,000円	PTA会費（96人）	244,200円	学校病医療費（22人）	279,514円	学校病医療通院費(4人)	2,370円	学校給食費（114人）	5,593,216円					
学用品費（116人）	2,525,880円	通学用品費（82人）	179,887円																									
校外活動費（116人）	265,745円	新入学用品費（13人）	616,200円																									
修学旅行費（48人）	3,416,282円	クラブ活動費(110人)	2,082,661円																									
生徒会費（113人）	238,000円	PTA会費（96人）	244,200円																									
学校病医療費（22人）	279,514円	学校病医療通院費(4人)	2,370円																									
学校給食費（114人）	5,593,216円																											

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(2) 学校教育の充実
施策の展開	③ 学校給食の充実

施策の展開に係る 全体総括	学校給食における7つの目標を達成するために、安心安全な給食を提供した他、給食を通じて、望ましい食習慣が身につくよう、訪問指導等を行った。 また、交流すまいる給食などでは、郷土料理の他、海外の食文化にも触れることができた。
課題	地産地消を推進するため、地場産の野菜を積極的に使用しているが、野菜の種類や数量については、天候等の影響を受けるため安定的な供給が求められる。

事業費名	学校給食事業費	平成30年度 決算額	203,057,985円	
令和元年度 事業所管課	学校給食センター			
取組状況	<p>○市内の児童生徒に対し、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るとともに、日常生活における食事について正しい理解を深め、望ましい食習慣を育成することや、好ましい人間形成等を目標として学校給食を実施した。</p> <p>○学校給食衛生管理基準に基づき衛生管理の徹底を図りながら、遠野産食材を積極的に使用し、地産地消を推進するとともに、安全安心なおいしい給食の提供に努めた。</p>	評価	達成	

成果

○遠野産の食材を積極的に使用し、地産地消の推進と消費拡大を図るとともに、栄養バランスのとれたおいしい給食を提供することができたほか、衛生管理の一環として市内納品業者への衛生指導を行うなど、衛生管理の徹底を図った。

○給食だよりで旬の食材の知識や食に関する情報を発信し、望ましい食習慣の育成に努めた。

○平成28年度から実施している交流すまいる給食では、今年度も3回実施した。初回は東京2020パラリンピックの視覚障がい者5人制サッカーのブラジル代表チームの視察に合わせブラジル料理を提供し、海外の家庭料理に触れる機会とした。

○アレルギー専用設備と人員配置により、アレルギーを持つ児童生徒に対し、主菜の代替食を提供した。

・給食実施校数

小学校 12校（うち1校は県立特別支援学校）

中学校 4校（うち1校は県立特別支援学校）

・年間給食実施回数 168回

○学校給食に使用する遠野産食材の割合（まちづくり指標）

目標値 66.1% 実績 70.0% 達成率 105.9%

・遠野産の食材を積極的に活用し、地産地消の推進及び消費拡大を図った。今年度は地産地消率が70.0%と、目標を達成することができた。

・「交流すまいる給食」は、生産者や関係者等と共食することで感謝の気持ちと食の大切さを培う機会となったほか、郷土食の継承及び海外の食文化に触れる機会となった。

・今後も、産直連絡協議会等と連携し、遠野産野菜の消費拡大に努める。

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(2) 学校教育の充実
施策の展開	④ 学校と家庭、地域との連携の充実

施策の展開に係る 全体総括	各地域教育協議会による地域学校協働活動を実践するとともに、家庭教育ゼミナール等を通じて家庭教育の充実を図ることができた。
課題	各地域教育協議会では地域学校協働活動をより意識して取り組めるように、また、家庭教育ゼミナール等でより望ましい家庭教育のあり方を学ぶ機会を提供していく。

事業費名	地域教育文化振興事業費	平成30年度 決算額	119,039円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	子どもたちの学習環境の充実と家庭教育の向上を目的に、保護者、児童生徒、地域関係者等を対象に、地域課題に応じた家庭教育についての講演会や研修会等を開催し、子どもたちの健全育成や家庭・地域の教育力の向上に取り組んだ。	評価	達成	
成果	<p>○全ての市立小・中学校(14校)で家庭教育ゼミナールを開催した。平成30年度は、学校・家庭・地域において大きな課題となっている「情報モラル」をテーマとした講演を多くの学校で開催し、学校・家庭・地域が連携して、家庭・地域の教育力の向上と子どもの健やかな成長を促す環境づくりに向け取組を進めた。</p> <p>・家庭教育ゼミナール 開催回数 14回 参加者数 1,291人</p> <p>○学校・PTA・地域による実践活動についての事例発表を行う「地域で子どもを育てる活動発表会」と「学校と地域の連携に向けた取り組み」についての「家庭教育講演会」を同時開催し、地域全体で子どもたちを育てる機運を高めることができた。</p> <p>・家庭教育講演会 開催回数 1回 参加者数 約200人</p> <p>○家庭教育講座等の延べ参加者数（まちづくり指標） 目標値 1,200人 実績 1,291人 達成率 107.6%（達成）</p>			

基本方針	1 ふるさと教育の推進
施策の方向	(3) 高等学校への支援
施策の展開	④ 魅力ある高校づくり応援事業の推進

施策の展開に係る 全体総括	<p>子どもの数が減少する中で、遠野高等学校と遠野緑峰高等学校の存続に向けて、両校の魅力を発信する取組みを展開した。</p> <p>特にも、遠野緑峰高等学校情報処理科の入学者が前年に比べて増加したことは、同校の魅力を市内外に発信することができた。</p>
課題	<p>今後も子どもの数が減少することが見込まれる中で、両校存続に向けて、継続的に魅力の発信に努めていくことが必要である。</p> <p>県外からの入学者の受け入れに向けて、両校と連携して受入環境の充実を図ることが必要となる。</p>

事業費名	高校魅力化サポート事業費	平成30年度 決算額	6,825,652円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○「新たな県立高校再編計画」（平成28年3月岩手県教育委員会策定）の前期計画期間（平成28年～平成32年）において統合予定校とされた遠野高校と遠野緑峰高校の2校を存続させ、地域の高校教育の質の維持と中学生の多様な進路希望を実現させることを目的とした「高校魅力化アクションプラン」（平成29年3月策定）に基づき、両校の特徴的な取組に対する各種支援策を継続するとともに、両校の魅力を市内外の中学生、保護者、市民等にさらに広く周知することにより、両校の平成30年度入学者数の増加につなげることができた。</p> <p>○公共交通機関等を利用して両校へ通学する生徒の保護者を対象に、通学費の補助を行い、経済的な負担の軽減を図り、市内高校への入学者数の拡大を図った。</p>	評価	達成	

成果	<p>以下の取組を実施し、令和元年度の両校の入学者の増加につなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠野高校 普通科 124人 (対前年度 △16人) ・遠野緑峰高校 生産技術科 35人 (対前年度 ±0人) <li style="padding-left: 20px;">情報処理科 23人 (対前年度 +1人) <p>○高校魅力化推進事業費補助金を交付し、両校の教育振興会の活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠野高校教育振興会 <ul style="list-style-type: none"> 地域学習「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」活動支援 学校紹介パンフレット・ビデオ作成 ・遠野緑峰高校教育振興会 <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを活用した授業カリキュラムへの支援 各種資格取得支援に係る検定料の補助 農業クラブ活動（大会出場など）への支援 学校紹介パンフレット・ビデオ作成 <p>○一日体験入学への支援（中学生送迎バス特別運行）</p> <p>○小学校・中学校・高校教職員の授業交流会の実施</p> <p>○市内高校通学日支援補助金</p> <p style="padding-left: 20px;">JRや路線バスを利用する生徒への通学費助成 95人</p>
----	---

事業費名	育英事業費	平成30年度 決算額	36,149,568円	
令和元年度 事業所管課	教育委員会事務局学校教育課			
取組状況	<p>○遠野市奨学資金貸与条例に基づき、向学心に燃える優秀な学生であって、経済的事由により修学困難な者に対し学資の貸与を行った。</p> <p>○平成20年度から、遠野市少子化対策・子育て支援総合計画「遠野わらすっこプラン」の子育て支援策として大学生等の採用枠を23人から30人に拡大している。</p> <p>○貸与額</p> <p style="padding-left: 20px;">高校生 15,000円以内/月</p> <p style="padding-left: 20px;">大学生等 40,000円以内/月</p>		評価	達成
成果	<p>○新規奨学生の募集を行い、新たに26人の奨学生を決定し、継続奨学生53人と合わせて79人に奨学金を貸与した。なお、平成31年3月末で、継続奨学生のうち28人が貸与期間を満了した。</p> <p>○貸付状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規奨学生 <ul style="list-style-type: none"> 人数 26人（うち大学生等25人、高校生1人） 貸付額 12,180,000円 ・継続奨学生 <ul style="list-style-type: none"> 人数 53人（うち大学生等48人、高校生5人） 貸付額 23,885,000円 			

基本方針	2 生涯学習の推進
施策の方向	(1) 社会教育の充実
施策の展開	① 総合推進体制の整備 ② 家庭や地域教育の充実 ③ 成人教育の充実 ④ 高齢者教育の充実 ⑤ 青少年の健全育成と指導者の養成

施策の展開に係る全体総括	生涯学習講座の実施や社会教育関係団体の活動を支援することにより、市民の学びの充実に図った。
課題	生涯学習講座の受講者数や社会教育関係団体の構成員減少が課題となっており、受講者のニーズや地域課題の解決に向けたプログラムを企画・実施することで、受講者数の増や各構成員の確保につなげたい。

事業費名	みらい創りカレッジ推進事業費	平成30年度 決算額	7,997,400円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	○旧土淵中学校を活用した「遠野みらい創りカレッジ」において、交流・産業創造・人材育成を図るための各種プログラムを企画運営した。 ○遠野みらい創りカレッジ運営業務 ・遠野みらい創りカレッジを活用したプログラム ・産学官民連携による地域資源活用・人材育成・交流創出・情報発信プログラム ・市内学校の魅力化に資する総合学習等支援プログラム	評価	達成	
成果	○遠野みらい創りカレッジを交流人口拡大と地域活動の発信の場とすることを目指し、地域・企業・学校等と連携しイベントを実施した。また、市内及び県内外から企業・自治体・大学等を受入れ、ワークショップやフィールドワーク等を通じた学習事業のコーディネートを行うことで、新たな交流の場を提供することができた。 ・プログラム実施数 18事業 ・利用者数 6,106人 ○地域産食材を使用した食育カフェを改修整備し、地域の食育と六次産業化の拠点として新たな価値の創造を図った。			

事業費名	学びのまちづくり推進費	平成30年度 決算額	64,179,564円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	<p>○市民に学びの機会を提供する等、生涯学習の充実を図った。</p> <p>○生涯学習講座の一部や芸術振興に係る事業を一般財団法人遠野市教育文化振興財団に業務委託し、民間活力を活かした事業推進を図った。</p> <p>○地区センターを地域の社会教育の拠点として各種講座を開催した。</p> <p>○チャタヌーガ市との姉妹都市締結1周年を記念し、遠野の文化を発信するため公式訪問団を派遣した</p>		評価	達成
成果	<p>○生涯学習講座 国際理解講座、IT講座、郷土理解講座等や青少年活動サポート事業を開催した。 各地区センター分 開催 講座、受講者数 3,174人 外部委託分 開催 講座、受講者数 1,859人</p> <p>○芸術（一部再掲） 北海道歌旅座「昭和の歌コンサート」 開催 1回、鑑賞者 258人 めざましクラシックスin遠野 開催 1回、鑑賞者 596人 岩手県青少年劇場 開催 2回、鑑賞者 718人 遠野市民センターバレエスタジオ 第41回発表会 開催 1回、鑑賞者 677人 遠野少年少女合唱隊 第29回発表会 開催 1回、鑑賞者 122人</p> <p>○各地区センターにおいては、地域のニーズに応えた各種講座を開催し、生涯学習の推進を図った。</p> <p>○全講座における継続的講座数（まちづくり指標） 目標値 5講座 実績 10講座 達成率 200.0%（達成） ・10の講座を継続的に実施することができた。</p> <p>○市民センター・地区センター生涯学習講座の延べ受講者数（まちづくり指標） 目標値 4,800人 実績 5,033人 達成率 104.9%（達成） ・市民センターでは民間活力を活かした生涯学習を、各地区公民館ではそれぞれ特徴ある生涯学習講座を開催し、生涯学習の推進を図った。</p>			

	<p>○関係機関・団体とともに、遠野市姉妹都市等交流事業実行委員会を設立し、官民一体となり姉妹都市との交流事業を展開し、国際交流のさらなる推進を図った。</p> <p>○中学生の海外派遣数（まちづくり指標） 目標値 9人 実績 9人 達成率 100%（達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市であるアメリカ合衆国テネシー州チャタヌーガ市に中学生9人、高校生8人を派遣した。 ・現地でホームステイをし、学校生活を経験するなど国際的な感覚を養い、他文化や他者への理解を深める等。人材育成を図ることができた。 ・今後も受入先、各中学校や関係機関・団体と連携を図りながら事業を継続し、計画的に中学生を派遣者できるように努めていく。
--	---

事業費名	若者と女性の活躍推進事業費	平成30年度 決算額	1,209,556円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	<p>○青少年育成団体等に対する活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人式実行委員会 ・遠野わらすっこまつり実行委員会 ・遠野市青年団体協議会 <p>○遠野市地域婦人団体協議会青少年育成団体等及び女性団体の活動を支援した。</p>	評価	達成	
成果	<p>○青少年育成団体の活動支援</p> <p>①成人式実行委員会 新成人が主体的に式典を運営するために実行委員会を組織し、式典の企画・運営を自ら行うことで、新成人としての意識を高め、地域のために活動する意欲の醸成を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人式への新成人参加者数 215人 <p>②遠野わらすっこまつり実行委員会 遠野市保育協会ほか関係機関・団体と実行委員会を組織し、遠野わらすっこまつりを開催し、わらすっこの学び、活動体験を支援することができた。</p> <p>③遠野市青年団体協議会 遠野市青年団体協議会に補助金を交付し、スポーツ事業や出会い創出事業への取組を支援した。</p> <p>○女性団体の活動支援 女性の視点で地域と暮らしを支える活動に取り組む女性団体である遠野市地域婦人団体協議会に対し補助金の交付や助言・活動支援を行い、活動の活発化を図ることができた。</p>			

事業費名	高齢者元気アップ活動事業費	平成30年度 決算額	2,948,946円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	高齢者の健康保持増進と生きがいを高めるため、各種大会等の実施を支援した。	評価	概ね達成	
成果	<p>○高齢者が生きがいを持ち、健やかに生活することができるよう、老人クラブが行う自主的な活動等の支援を行った。</p> <p>○各種スポーツ大会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き生き高齢者体力測定 55人参加 ・ゲートボール・ベタンク大会 359人参加 ・女性部グラウンドゴルフ大会 約130人参加 ・さわやかスポーツ大会 約400人参加 ・壮年部グラウンドゴルフ大会 約190人参加 ・県民長寿体育祭 71人参加 ・健康ウォーキング 77人参加 ・シルバー室内競技大会 約380人参加 <p>○その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県老人クラブ大会（釜石会場） 23人参加 ・シルバー文化祭（舞台部門） 約500人参加 ・リーダー研修会 約180人参加 ・女性部事業 30人参加 ・シルバー室内競技大会（囲碁将棋部門） 16人参加 ・環境整備ボランティア 131人参加 <p>○老人クラブ加入者数（まちづくり指標）</p> <p>目標値 2,570人 実績 2,424人 達成率 94.3%（概ね達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全老連、県老連が推薦する会員増強運動と連動し、市老人クラブ連合会においても各種スポーツ大会や文化活動等を通じて会員拡大に取り組んだことにより、目標を概ね達成することができた。 ・今後も、老人クラブの活動を継続していくための支援を行い、市老人クラブ連合会とともに加入者数の増加に努める。 			

事業費名	放課後子どもプラン推進事業費	平成30年度 決算額	2,557,359円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			

取組状況	<p>○放課後の子ども達の安心安全な居場所づくり、家庭学習の習慣化を目的に、11小学校区で地域の方々の参画を得て自主学習の場を設け、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進した。</p> <p>○学習アドバイザー、安全管理員を配置し、放課後の宿題・自主学習の支援を行った。</p>	評価	達成
成果	<p>すべての小学校区（11教室）で放課後子ども教室を開催した。子ども達は学習アドバイザーと安全管理員に見守られながら、学校の宿題や自主学習等に取り組んだ。</p> <p>また、スタッフとコミュニケーションを取りながら教室に参加する様子が見られ、子どもたちが安心・安全に過ごせる場所として事業を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加のべ人数 9,607人 ・開設のべ日数 442日 ・参加した児童の満足度 90.6% 		

基本方針	2 生涯学習の推進
施策の方向	(2) 芸術文化活動の推進
施策の展開	① 芸術文化団体の育成と支援 ② 創作芸術文化活動の振興

施策の展開に係る 全体総括	遠野市芸術文化協会及び市民の舞台制作団体へ事業費を補助し、芸術活動を支援した。 芸術鑑賞事業を開催し、市民が芸術文化に触れる機会をつくることができた。
課題	より多くの市民が優れた芸術文化に触れることができるように、市民ニーズにあった事業を実施するとともに、市内の芸術文化団体を広く周知したり、団体を支援したりしていく。

事業費名	芸術文化振興事業費	平成30年度 決算額	2,100,000円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	○市民協働による活動発表の場（市民芸術祭、市民の舞台「遠野物語ファンタジー」）をつくり、市内の芸術文化活動の振興を図った。		評価	未達成
成果	<p>○芸術文化団体への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費を補助した団体 遠野市芸術文化協会、遠野物語ファンタジー制作委員会 <p>○市民協働による活動発表の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回遠野市民芸術祭 合同茶会、舞台合同発表会、総合展示会 合同茶会参加者 288人、舞台鑑賞者 624人、総合展示会鑑賞者 1,236人 ・第44回市民の舞台 遠野物語ファンタジー「天人子～まごころの贈り物～」 公演3回、スタッフ約300人、鑑賞者1,517人 <p>○自主事業の顧客満足度（まちづくり指標）</p> <p>目標値 85.0% 実績 98.6% 達成率 116.0%（達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した自主事業の鑑賞者を対象としたアンケート調査を実施した結果、多くが「自主事業に満足している」という回答であった。 ・今後も、市民が優れた文化芸術に触れる機会を確保しながら、鑑賞者に十分満足してもらえるような事業を展開できるよう、関係機関・団体と連携していく。 			

○市民協働の芸術文化事業の参加者数（まちづくり指標）

目標値 1,900人 実績 1,399人 達成率 73.6%（未達成）

- ・市民芸術祭や遠野物語ファンタジー等をはじめとする芸術文化事業の参加者数は目標値に及ばなかったが、市民協働の取組により、市民が芸術文化に親しみ、それぞれの成果を発表する機会を提供することができた。
- ・関係機関・団体と連携・協力しながら、参加者数増加に向けて検討していく。

○市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数（まちづくり指標）

目標値 8,770人 実績 6,929人 達成率 79.0%（未達成）

- ・市民センター等を会場とした芸術文化事業の鑑賞者は、6,929人で目標は達成できなかった。
- ・今後もより多くの市民に鑑賞いただけるような芸術文化事業を開催できるよう、芸術文化団体等の活動を支援していく。

基本方針	3 ふるさとの文化の継承・創造
施策の方向	(1) 郷土文化の保存と活用
施策の展開	① 博物館活動の推進

施策の展開に係る 全体総括	<p>特別展や講座等を開催し、市内外へ情報発信を行い交流人口の拡大に努めた。</p> <p>近年入館者数の減少傾向が続いていたが、特別展の入込が大幅に増加したことから通年で前年度比112%の入込となった。</p> <p>地区センターで初めて博物館移動展を開催し、地区のニーズに対応した。</p> <p>6カ国語に対応した多言語ガイドシステムを導入し、近年増加している外国人旅行者の受け入れ態勢の充実を図ることができた。</p>
課題	<p>博物館の入館者は前年度比で増加したが、まちづくり指標の目標値は未達成であることから、魅力的な特別展やイベントの開催、情報発信の強化などを行う必要がある。</p>

事業費名	博物館費	平成30年度 決算額	9,978,344円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○特別展「遠野物語と河童」や記念イベントを開催、市内外に情報を発信し、交流人口の拡大を図った。</p> <p>○企画展「厠・便所・トイレ～遠野のトイレの歴史～」、遠野町家のひな祭りに合わせた特別展「遠野のひな人形」を開催した。</p> <p>○児童生徒を対象とした博物館教室を開催し、郷土愛の醸成を図り、豊かな人間性を有する人材の育成に努めた。</p> <p>○市民対象の博物館講座を開催し、文化に親しむ機会を提供した。</p> <p>○博物館資料の充実を図りながら資料の収集・整理・保存に努めた。</p>	評価	概ね達成	

成果	<p>○特別展「遠野物語と河童」や企画展「厠・便所・トイレ～遠野のトイレの歴史～」を開催した。また、遠野町家のひなまつりに合わせた特別展「遠野のひな人形」を開催して、商工会と連携し中心市街地への集客に努めた。さらには、土淵地区センターで移動展「遠野領内図」を開催し、地区のニーズに対応した。</p> <p>○博物館教室、博物館講座等を開催し、郷土の歴史、文化、民俗などの学習機会を提供し、市民の学習ニーズに応えた。</p> <p>1 特別展「遠野物語と河童」（入館者数 6,720人） 会期 平成30年7月20日（金）～9月23日（日）</p> <p>2 企画展「厠・便所・トイレ～遠野のトイレの歴史～」（入館者数 1,432人） 会期 平成30年11月2日（金）～12月28日（金）</p> <p>3 特別展「遠野のひな人形」（入館者数 1,671人） 会期 平成31年2月8日（金）～3月10日（日）</p> <p>○博物館入館者数（まちづくり指標） 目標値 目標値 20,400人 実績 18,226人 達成率 89.3%（未達成）</p> <p>○博物館講座等の受講者数（まちづくり指標） 目標値 950人 実績 1,936人 達成率 203.8%（達成）</p>
----	--

事業費名	博物館映像等整備事業	平成30年度 決算額	30,531,600円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○近年の外国人旅行者の増加に対応するため、遠野市立博物館に多言語ガイドシステムを導入し、受入態勢の充実を図った。</p> <p>○博物館マルチスクリーンシアター用に新作ソフトを制作し、展示の充実を図った。</p>	評価	達成	
成果	<p>○遠野市立博物館に6カ国語（英語・中国語・台湾語・フランス語・ドイツ語・日本語）に対応した多言語ガイドシステムを導入し、平成31年1月から運用を開始して、外国からの旅行者の受入態勢の充実を図ることができた。</p> <p>○マルチスクリーンシアター用に新作アニメ「ザシキワラシ」を制作した。平成31年4月から公開を開始し、博物館の展示の目玉として今後の集客に活用する。</p>			

基本方針	3 ふるさとの文化の継承・創造
施策の方向	(1) 郷土文化の保存と活用
施策の展開	② 図書館活動の推進

施策の展開に係る 全体総括	<p>図書館の利用促進と読書の普及活動を図ることを目標に、館内、館外における事業を展開し、利用者の拡大と読書の普及活動に努めた。</p> <p>学校、児童館、福祉施設等との連携を図り、計画的な図書の貸出及び配架の充実に努めた。貴重な図書館資料、郷土資料の情報収集や、整理・保存の適正な管理に努めた。</p>
課題	<p>図書館における所蔵図書の利用者の拡大と、市民がより利用しやすく親しみやすい図書館としての環境づくりが必要。</p>

事業費名	図書館費	令和元年度 決算額	22,862,923円	
平成30年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○図書の貸出や図書館教室、企画展の開催などを通じて、利用者が本に親しむ読書の環境を提供した。</p> <p>○児童を対象にした図書館教室、総合学習のための参考図書の貸出し、児童を対象とした多読者表彰等を実施し、図書館の利用促進と読書の普及を図ることが出来た。</p> <p>○中学生、高校生の職場体験を受入れし、図書館の理解を深めた。</p> <p>○館内外活動への支援として、本の読み聞かせなどのボランティアグループによる夏休み期間を活用した「きいて・たのしい・ほんのせかい」をテーマにした紙芝居、大型絵本の読み聞かせ体験を実施した。</p> <p>○異文化の昔話を学ぶことを目的に、ポルトガル在住の影絵実演者「紅子さん」による影絵の実演に触れた。</p>	評価	達成	

成果	<p>○岩手の読書習慣の取組みとして、岩手県中部教育事務所と連携し図書館講座を開催、本の魅力を紹介しあう「ビブリオバトル」を実施、読書活動の推進を図った。</p> <p>○平成29年度に引き続き、水損被害を受けた図書資料を用いた講習会「図書レスキュー体験 in 岩手県立博物館」を開催し、資料救出活動を行う人材育成に努めた。</p> <p>○寄贈などによる貴重な図書館資料、郷土資料の情報収集や整理、保存の適正な管理に努めた。</p> <p>○図書館の利用者数（まちづくり指標） 目標値 15,800人 実積 17,018人 達成率 107.7%（達成） 市民がより本に親しむことを目的に、図書館内で季節ごとの図書の企画展、映画会、図書館講座及びボランティアグループ等による読み聞かせの活動を行いながら、利用者の拡大を図った。</p> <p>○市民への図書貸出冊数（まちづくり指標） 目標値 71,100人 実積 67,606人 達成率 95.1%（概ね達成） 利用者の声を反映させ、図書の充実と利用しやすい配架、展示案内を推進し、併せて広報遠野等の活用による図書の情報発信に努めた。</p> <p>○移動図書館車の貸出冊数（まちづくり指標） 目標値 11,300人 実積 11,864人 達成率 105.0%（達成） 移動図書館車の利用からの声を伺いながら、巡回場所、日程、回数のあり方に配慮し利用者の利便性を図った。</p> <p>○学校図書館・児童館への貸出冊数（まちづくり指標） 目標値 21,200人 実積 22,130冊 達成率 104.4%（達成） 学校及び児童館の職員との連携を図り、図書の充実、読書の推進を図ることが出来た。 小学校 13,250冊 中学校 2,880冊 児童館 6,000冊</p>
----	--

事業費名	視聴覚教育振興費	平成30年度 決算額	378,190円	
平成30年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	遠野市立図書館内の視聴覚ホール、児童館の施設を利用した映画界等の開催及び、学習教材としての映像での儒法を広く伝えた。		評価	達成
成果	<p>○遠野市立図書館内</p> <p>子ども映画会 12回 延数 50人</p> <p>特別子ども映画会 4回 延数 20人</p> <p>○市内児童館</p> <p>特別映画会 13回 延数 441人</p> <p>○教材利用数 59本</p>			

事業費名	ブックスタート事業費	平成30年度 決算額	270,467円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○遠野市に生まれた赤ちゃんとその親、家族が、本を通したふれあいの中からお互いに幸せを感じ、成長するための機会をつくった。</p> <p>○子どもが生まれたときから本に触れることで、本に興味をもってもらうための取組みを行った。</p>	評価	達成	
成果	<p>○遠野健康福祉の里において、1歳児健康相談時に本等の配布を実施した。参加できなかった対象者へは、後日、民生児童委員を通じて配布した。</p> <p>・対象者 139組（配布率 100%） 1歳児健康相談時に配布 138組 民生児童委員による配布 1組</p> <p>○1歳児健康相談時に、ボランティアグループによる絵本等の読み聞かせや本の紹介を行い図書館の利用の促進を図ることができた。本を手にとって身近に活用できることから、好評を得ている。</p> <p>・読み聞かせ回数 12回 ・対象者 139組</p>			

基本方針	3 ふるさとの文化の継承・創造
施策の方向	(2) 文化財の保護と継承
施策の展開	① 文化財調査・保護 ② 郷土芸能活動の推進 ③ 遠野遺産の認定と保護活動及び活用の推進

施策の展開に係る 全体総括	<p>指定・未指定を含めたこれまでの文化財の悉皆調査の結果を、長期的視点での文化財の保護活用方針となる「遠野市歴史文化基本構想」としてまとめた。また、国選定重要文化的景観の一部である土淵山口集落を次世代へ継承するための具体的な方針を定めた、「遠野土淵山口集落整備活用計画」を策定した。</p> <p>千葉家住宅では保存修理工事を引き続き実施したほか、同家旧蔵の家財資料や古文書資料等について整理を進めた。埋蔵文化財事業では、公開活用を視野にデータベース作成を推進した。</p> <p>このほか、新たに県指定文化財2件が指定、遠野遺産7件が認定されるなど、ハード・ソフト両面での各種事業の実施により、目標は概ね達成された。</p>
課題	このたび策定した「遠野市歴史文化基本構想」をベースに、文化財活用の目標や、具体的な事業を定める「文化財保存活用地域計画」を策定する必要がある。

事業費名	文化財調査保護費	平成30年度 決算額	3,114,721円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○法に基づき適正な文化財保護行政を継続するとともに、遠野の文化や歴史を物語る貴重な財産として文化財の調査・保護、啓発活動を推進し、市民の文化向上を図った。</p> <p>○郷土芸能の保存継承を推進するため備品整備や発表の場を提供するなど、必要な支援を継続した。</p>	評価	達成	

成果	<p>○国登録有形文化財 遠野ふるさと村にある国登録有形文化財「大野どん」「弥十郎どん」のクイムシ駆除を実施した。</p> <p>○県指定文化財 松崎観音の本尊、羽黒堂の掛仏の調査を実施し、それぞれ「木造観音菩薩立像（伝十一面観音菩薩）」「金銅聖観音坐像御正躰」という名称で県指定文化財として指定された。</p> <p>○市指定天然記念物 「会下家の十王堂のカツラ」の保存のための剪定に係る費用の一部を補助した。</p> <p>○上琴畑湿原の調査 昨年に引き続き上琴畑湿原の調査を実施し、測量などの作業を行い、必要な調査を概ね完了した。</p> <p>○郷土芸能 保存育成を目的として「佐比内しし踊り」「暮坪虎舞」「野崎神楽」「青笹しし踊り」の4団体に対し、備品整備費の補助を行った。また、郷土芸能共演会、神楽共演会への開催支援を行い、併せて、神楽共演会の映像を記録し、郷土芸能の保存継承を推進した。 ・ 民俗芸能の映像記録件数 26件（累計）</p>
----	--

事業費名	埋蔵文化財発掘調査費	平成30年度 決算額	10,897,820円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○各種開発事業の円滑な実施と埋蔵文化財の保護・活用の調整を図るため、適宜埋蔵文化財の分布・試掘・発掘の各種調査を実施した。</p> <p>○遠野東工業団地整備に伴う本発掘調査を実施し、発掘調査報告書を作成した。</p> <p>○調査記録や出土遺物の適正な管理を行いながら、公開活用に資するため、資料台帳の作成を推進した。</p>	評価	達成	

成果	<p>○各種開発行為に伴う埋蔵文化財の取扱いについて調整し、開発行為が遺跡に該当した8件について、試掘調査を行い円滑な事業の実施と埋蔵文化財保護に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡照会回答数 152件 ・試掘調査 8件 <p>○昨年度の試掘調査で陥し穴状遺構を検出した遠野東工業団地整備予定地の発掘調査を行い、発掘調査報告書を作成した</p> <p>○重要文化財千葉家の主屋の発掘調査を行い、千葉家の保存修理のための基礎情報を収集した。</p> <p>○公開活用を視野に、市内遺跡出土遺物のデータベース作成を進めるとともに、企画展「遠野に生きた縄文時代中期の人々」をまちなか・ドキ・土器館で開催し、調査成果を公開した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベース入力作業 1遺跡分 879件 <p>○「縄文土器作り教室」(参加者数：45人)、「勾玉作り教室」(参加者数：45人)の各文化財教室を開催するなど、埋蔵文化財に関する知識の普及啓発に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財教室 5回開催 参加者 延べ90人
----	--

事業費名	重要文化財千葉家住宅整備事業費	平成30年度 決算額	117,821,037円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○国指定重要文化財千葉家住宅を永久的に保存していくため、保存修理工事を実施した。</p> <p>○専門家委員会を開催し助言を得て、工事を円滑に進めた。</p> <p>○千葉家旧蔵の家財資料及び古文書資料等について整理を進めるとともに、整備事業の映像記録を行った。</p>	評価	達成	

成果	<p>○保存修理工事</p> <p>主屋の造作解体、前面石垣の解体（154.1㎡）、土蔵、石蔵の半解体工事を行った。重要文化財千葉家住宅保存活用委員会を2回、復原ワーキンググループを1回開催し、地盤及び構造補強について専門委員との工法協議を行いながら設計及び工事を進めた。また、修理工事の状況を公開するため見学会を8月5日に開催し、市内外から約120人が参加した。</p> <p>○完成後の活用の検討</p> <p>市民組織である重文千葉家の活用を考える会や高校生とともに、周辺地域の建物や馬の活用に関する調査を実施した。また、完成後の運営方法についての検討も行った。</p> <p>○千葉家旧蔵資料整理及び整備事業映像記録</p> <p>資料整理は非常勤の専任職員を配置して取り組んだ。千葉家から引き継いだ家財資料についてクリーニングし計測や写真撮影、繕いを行いながら台帳作成を進め、整理は概ね完了した。古文書等の資料は近代の建築改修記録の解読作業を集中的に行い、復原設計に必要な改修履歴を概ね把握することができた。また、整備事業全体について映像記録を委託して実施した。</p>
----	--

事業費名	文化的景観保存事業費	平成30年度 決算額	3,489,750円	
平成30年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○柳田國男の『遠野物語』を生み、人々が築き上げてきた当市独特の景観を将来に残していくため、国の重要文化的景観選定地域である土淵山口集落の保護を図った。</p> <p>○土淵山口集落については、平成24年に策定した保存計画を踏まえ、同集落を次世代へ継承し、伝統文化の理解が深まるような具体的な方針を定めるため、整備活用計画を策定した</p>	評価	達成	
成果	<p>地域住民とともにワークショップや景観点検を7回実施し、集落の望ましい整備と活用について検討を重ねた。</p> <p>また、「遠野の景観」保存調査委員会を3回開催し、計画のあり方や内容について協議を重ね、整備活用計画を策定した。</p> <p>計画を策定する過程で、整備や活用に向けた課題が明確になり、それらを解決するための事業をスケジュールや実施主体・体制などを含め、具体的に示すことができた。</p> <p>また、ワークショップには集落外からの参加もあり、地域住民以外からの視点も踏まえた計画とすることができた。今後は、この計画を基に、地域と行政による協働のほか、外部からの支援を得ながら事業を推進する。</p>			

事業費名	歴史文化基本構想策定事業費	平成30年度 決算額	3,187,562円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			

取組状況	<p>○指定・未指定を含めた文化財の悉皆的調査を実施・整理し、遠野市の文化的特性を明確にするとともに、文化財の保護活用の方針を構想としてまとめ、長期的視点に立脚した一貫性のもとに文化財行政を推進した。</p> <p>○関連部署と構想を情報共有することにより文化を活かしたまちづくりを推進した。</p>	評価	達成
成果	<p>○平成28年度から進めてきた市内の文化財現状把握調査の成果をまとめ、有識者によって構成される遠野市歴史文化基本構想検討委員会を4回開催して協議を重ね、遠野市歴史文化基本構想を策定した。</p> <p>○市内の文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための方針等を定めることで、文化財保護に関するマスタープランとしての役割を果たすことになり、文化財を活かしたまちづくりの推進に活用していく。</p>		

事業費名	遠野遺産認定事業費	平成30年度 決算額	999,035円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○市民から推薦される地域資源を「遠野遺産」として認定し、認定された遠野遺産の保護活用を支援することにより、市内にある文化的遺産、自然遺産を市民協働で次世代に守り伝え、活気ある地域づくりを推進した。</p> <p>○市民センター市民協働課との連携により、活動に対する補助金の適用、活動に対する助言等を行った。</p> <p>○新たに認定された遠野遺産の表示板を設置して啓発に努めるとともに、ガイドブックを発行して市内外に情報発信を行った。</p>		評価	達成

<p>成果</p>	<p>○新規の遺産7件（第151号 月山神社（旧胡四王薬師堂）、第152号 蘭場の山神神社（蘭場産神宮）、第153号 上宮守西風の石碑群、第154号 中斉駒形神社、第155号 上宮守神楽、第156号 湧水念仏、第157号 迷岡駒形神社と一里塚）を認定し、累計数157件となった。</p> <p>○遠野遺産推薦件数（まちづくり指標）</p> <p>目標値 157件 実績 157件 達成率 100%（達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦された新たな7件を遠野遺産として認定し、目標を達成した。 ・今後も、表示板の設置や公式ガイドブックの配布等により周知しながら、地区センターと連携した取組により、新たな遺産の掘り起こしに努め、文化的資産の保護を通じて郷土愛の醸成と地域づくりを推進していく。 <p>○遠野遺産表示板等の設置、ガイドブック作成、広報遠野へ掲載、視察・学習会対応を通じた周知・情報発信に努め、遺産保護活動が促進された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック作成 3,000部 <p>○みんなで築くふるさと遠野推進事業を活用した環境整備事業等7件（第25号 遠野南部ばやし、第56号 荒川駒形神社、第59号 青笹八幡宮、第60号 月山深山宮、第73号 小友町裸参り、第83号 八坂神社、第125号 柏木平の砥森神社）の保護事業が実施され、市民協働による地域づくりが推進された。</p>
-----------	---

基本方針	3 ふるさとの文化の継承・創造
施策の方向	(3) 郷土の文化を生かした地域創生
施策の展開	① 郷土文化の調査・研究の推進 ② 次世代へのふるさと文化の継承 ③ 市史編さん事業の推進

施策の展開に係る 全体総括	<p>地域文化に密着したテーマの学習活動を積み重ね、目標を達成することができた。遠野の文化を継承・発展する遠野こだわりの「語り部」を、小学校等と連携を図りながら発掘し、育成した。</p> <p>また、市史編さん委員会を開催して事業計画の審議等を行うとともに、現代編の刊行に向けて、制作委託業者の選定を行い、現代編部会や調査研究員会議などで具体的な原稿の調整作業を行った。市民の調査研究員と協働して資料収集や古文書解読作業を進め、市史編さん講座の開催など教育普及事業にも努めた。</p>
課題	<p>遠野の文化を広く発信し、郷土の文化を担う人材の育成を図る。遠野物語発刊110周年に向けた機運醸成と発信、事業の検討を行う。平成31年度現代編の刊行に向けて具体的な作業を進め、市史編さん事業を着実に推進していく。</p>

事業費名	遠野文化研究調査費	平成30年度 決算額	14,513,587円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	<p>○遠野の文化を多角的に解明するとともに、次代を担う「人づくり」と未来を見据えた「まちづくり」を推進するため、遠野の文化に関する調査・研究に努めた。</p> <p>○出版物の刊行やフォーラムの開催などにより、研究成果の公開や啓発を行った。</p>	評価	達成	
成果	<p>○遠野の文化を解明し、広く発信するための事業を実施し、多くの参加者等に遠野の文化を発信することができた。</p> <p>○遠野文化フォーラムの開催 日時：平成30年8月18・19日（土・日） 内容：遠野文化賞・佐々木喜善賞の表彰、遠野遺産・遠野こだわりの「語り部」認定証交付、遠野遺産事例発表、トークライブ「なぜ、遠野はカップパなのか?」、アニメ映画「河童のクウと夏休み」上映 参加者数：200人</p> <p>○市民講座 講座：遠野学講座、先人秘話講座、カップパ縁日、森林講演会、文化まちづくりネットワーク交流会ほか 開催回数8回、総参加者数597人</p>			

	<p>○遠野文化研究センター活動の参加者（まちづくり指標） 目標値 400人 実績797人 達成率199.3%（達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は博物館と連携した河童をテーマにした文化フォーラムや子供向けイベント「カッパ縁日」のほか、遠野市教育文化振興財団、遠野文化友の会、岩手南部森林管理署遠野支署と連携しながら講座を開催し、目標を達成することができた。 <p>○遠野文化研究センター活動の参加者満足度（11段階評価）（まちづくり指標） 目標値 6点 実績8点 達成率140.8%（達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠野文化研究センター活動の実施ごとに、顧客推奨度指数11段階評価のNPS（ネットプロモーター・スコア）による参加者アンケートを実施した結果、平均値8点の高い評価を得た。 <p>○出版事業 遠野学叢書：（『遠野のヨメ日記』300部、『遠野のザシキワラン』300部） 遠野文化フォーラム報告書：300部</p>
--	---

事業費名	遠野「語り部」1000人プロジェクト事業費	平成30年度 決算額	1,456,865円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			
取組状況	遠野の豊かな文化を継承・発展させるため、多様なジャンルの「語り部」を遠野の大切な人的文化資源と位置づけ、「昔話」「歴史」「郷土芸能」「食」「生業」の5ジャンルの「語り部」を育成し、遠野のにぎわい創りのきっかけとして、交流人口の拡大を図った。	評価	達成	
成果	<p>○平成30年度の認定者数54人（子ども語り部41人、歴史1人、食2人、郷土芸能9人、生業1人）で、累計者数は932人となった。</p> <p>○遠野こだわりの「語り部」認定者数（まちづくり指標） 目標値 900人 実績932人 達成率103.6%</p> <p>○語り部スクーリングを開催し、新たな語り部の発掘に努めることにより、計画値を上回ることができた。さらに、初心者向けの昔話教室や食、歴史、郷土芸能の語り部の研修を開催するなどして、認定者のフォローアップにも努めた。</p> <p>○中心市街地の空き店舗を利活用し、語り部スポットを2カ所開設して語りを披露するなど中心市街地のにぎわいの創出につなげることができた。</p>			

事業費名	「遠野市史」編さん事業費	平成30年度 決算額	12,786,902円	
令和元年度 事業所管課	市民センター文化課			

<p>取組状況</p>	<p>○『遠野市史』『宮守村誌』は、いずれも昭和50年前後の刊行で、発刊から40年以上が経過している。その後の市村合併を含め、市政の変遷をまとめた現代編や通史編の必要性が求められているとともに、歴史的資料や人々の暮らしに関わる資料の散逸、途絶なども懸念される。</p> <p>○「永遠の日本のふるさと遠野」として後世に引き継ぐべき資料を収集整理しながら遠野の歴史、文化を総合的にまとめるため、市史の編さんを行う。</p> <p>1 令和元年度 現代編刊行 2 令和8年度 通史編刊行 3 令和9年度 民俗編刊行</p> <p>遠野南部氏遠野統治400年イベントの開催</p> <p>※平成28年度～令和9年度 編さん委員会、資料調査、執筆作業、収集資料を活用した講座などの開催による人材育成を進める。</p> <p>※遠野南部家資料、収集資料を収めた「資料編」は、随時刊行する予定。</p>	<p>評価</p>	<p>達成</p>
<p>成果</p>	<p>○市史編さん委員会を年2回開催し、事業計画の審議等を行った。また、調査研究員等の協力のもと、資料収集や古文書解読作業を進めた。</p> <p>1 遠野市史編さん委員会 2回 2 資料調査等 (1) 遠野南部家資料調査 2回 (2) 通史編に関する調査 6回 (3) 遠野南部家所蔵『御用留書』解読会 23回</p> <p>○現代編の刊行に向けては、現代編部会で方針を協議するとともに、調査研究員会議等で具体的な原稿の調整作業を行った。</p> <p>1 現代編部会 5回 2 現代編担当調査研究員会議 7回 3 原稿読み合せ会 5回、個別事項の聞き取り調査 6回</p> <p>○人材育成として、市史編さん講座や古文書講座など、遠野の歴史や文化に触れる学習機会を提供し、参加者アンケート結果はどの講座も高評価であった。</p> <p>1 市史編さん講座 開催日：10/14 参加者：38人 2 古文書講座 (午前の部) 開催日：7/26、8/2、8/9 参加者：延べ31人 (夜の部) 開催日：11/13、11/20、11/27 参加者：延べ32人 3 古文書整理ボランティア活動 登録者15人、活動回数12回</p> <p>○広報活動 市広報、ホームページ等</p> <p>○市史編さん事業進捗率（まちづくり指標） 目標値 100% 実績100% 達成率100.0%</p>		

	<p>・事業進捗率を【①市史編さん委員会の開催、②資料収集・調査、③刊行のための実務作業、④教育普及・広報】の4項目をすべて実施した場合、100%（1項目あたり25%）と設定。</p>
--	--

基本方針	4 健康づくりの推進
施策の方向	(1) 健康づくり活動の推進
施策の展開	① 健康づくり総合プログラムの推進 ② スポーツの振興

施策の展開に係る 全体総括	年代や地域を幅広くカバーした教室を開催して運動機会の提供と習慣化に取り組み、スポーツ参画人口の拡大を図ることができた。 また、スポーツイベントの開催や、スポーツ団体の運営等を支援し、競技スポーツの普及とレベルアップに努めた。
課題	ジュニアスポーツへの育成支援を強化と、スポーツ合宿等による交流人口の拡大。

事業費名	健康スポーツプログラム推進事業費	平成30年度 決算額	2,918,274円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	市民センターと地区センターを会場として定期的に参加できる健康スポーツ教室を開催して運動するきっかけや機会を提供し、健康づくりへの取組意識の啓発と普及と、スポーツ参画人口の拡大を図った。	評価	達成	
成果	○市民センターでは水中ウォーキング、エクササイズ及びリズム体操の教室の実施、各地区センターでは地域から要望があったテーマに沿った教室を実施した。教室参加者数が前年は前年を上回り、健康づくりに取り組む市民の増加が図られた。 ・本校教室 112回 延べ 2,112人参加 ・サテライト校教室 130回 延べ 1,168人参加			

事業費名	子どもの体力づくりプログラム推進事業費	平成30年度 決算額	840,866円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	○児童運動能力アップトレーニング事業 児童の運動能力向上に結びつけるとともに、スポーツに対する意欲や関心を醸成するため、希望する市内小学校に外部講師を派遣した。 ○キッズ元気アップ応援隊事業 各保育園等を会場に、園児及び未就学児並びに保護者を対象としたリズム体操等の教室を開催し、バランス感覚や運動能力の向上を図った。	評価	概ね達成	

成果	<p>○児童運動能力アップトレーニング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳教室26回、スケート教室6回、陸上競技教室1回をそれぞれ実施した。 ・市内10校(33回) 延べ 1,303人参加 ・各種目の基礎や大会出場のための強化など専門的な指導を行い、児童の運動能力の向上に寄与した。 <p>○キッズ元気アップ応援隊事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内16保育園等(80教室) 延べ 1,530人参加 ・新たにこども園や幼稚園で実施したほか、子育て支援センターでの親子教室の開催を増やし、幼少期における運動能力の向上と、親子での運動機会の拡大に寄与した。
----	---

事業費名	競技・イベントスポーツプログラム推進事業費	平成30年度 決算額	16,906,123円	
令和元年度 事業所管課	市民センター生涯学習スポーツ課			
取組状況	<p>○多くの市民がスポーツを通じて健康増進と豊かなライフスタイルを実現できる環境の整備、充実を図った。</p> <p>○市体育協会やスポーツ少年団の運営を支援するとともに、専門的指導者によるジュニアスポーツのレベルアップを図り、競技力の向上に努めた。</p> <p>○各種スポーツイベントを開催し、交流人口の拡大を図った。</p>	評価	達成	
成果	<p>○第36回日本のふるさと遠野じんぎすかんマラソンでは、台北マラソンへの選手派遣やホップ収穫祭との連携により、参加者の拡大を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 2,512人(市内432人、市外2,080人) <p>○継走大会については、荒天のために中止とした。</p> <p>○種目別協会等で開催したジュニアスポーツレベルアップ事業に支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ団体運営等補助 6団体 ・スポーツ少年団全国大会出場 3単位団 <p>○市内スポーツ大会の開催や競技団体の育成を図るため、遠野市体育協会を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校サッカー選手権大会出場に係る寄付金 3,000,000円 			

基本方針	4 健康づくりの推進
施策の方向	(1) 健康づくり活動の推進
施策の展開	③ 食育の推進

施策の展開に係る 全体総括	<p>第2次遠野市食育推進計画とおのっこプランに基づき、ライフステージに合わせた食育講座や講演会を行った。</p> <p>特に、子どもから高齢者まで、生涯にわたり明るく充実した生活を送るため、食生活改善推進員と連携した事業活動を行った。</p>
課題	<p>小中学生の朝食の欠食率については、生活環境の改善の他、食に関する正しい知識と朝食を摂ることの大切さについて自覚できるような支援と環境づくりが必要。</p>

事業費名	ぱすぽる推進事業費	平成30年度 決算額	1,443,130円	
令和元年度 事業所管課	学校給食センター			
取組状況	<p>○子どもたちが明るく充実した生活を送るためには「食」が基本であることの認識に立ち、生涯にわたり健全な食生活が実践できるよう「食育5つの力」（①食べ物の味がわかる力 ②食べ物のいのちを感じる力 ③食べ物を選ぶ力 ④元気な体がわかる力 ⑤料理ができる力）を支援した。</p> <p>○食育推進の共同体である健康づくりサポーター（食生活改善推進員）の資質向上を図り、組織活動を支援した。</p> <p>○第2次遠野市食育推進計画「とおのっこプラン」推進のため設置した「遠野市食育推進ネットワーク会議」の事務局として、同会議の活動を支援した。</p>	評価	概ね達成	

成果

○ライフステージに合わせ調理実習を含む食育講座や講演会を開催した。

①小学生対象

ちびっこ栄養教室、親子の食育講座を通して、正しい食習慣やマナーを身に着ける機会となった。

・食育講座 小学生対象 18回開催、257人参加

②中・高校生対象

講演会や食育講座を通して、望ましい生活習慣と食事の重要性を学ぶ機会となった。

・食育講座 中学生対象 14回開催、559人参加

高校生対象 3回開催、213人参加

③成人・高齢者対象

減塩やバランス食等の食育講座を通して、食生活を見直す機会を提供した。

・食育講座

青年・親子対象 2回開催、9人参加 中高年対象 75回開催 延べ1,285人参加

○市民向け食育イベントの開催

食育推進ネットワーク会議との共によりで「ぱすぼる食育まつり」を開催し、食を通じた健康づくりへの関心を高めるとともに、食育の拠点である「総合食育センターぱすぼる」の活用が図られた。

・ぱすぼる食育まつり 1回開催 400人参加

○食生活改善推進員の組織育成支援

食生活改善推進員対象の研修会を実施し、活動に必要な知識や技術向上のための支援を行った。減塩弁当コンテストや脳卒中予防寸劇コンクールにおける入賞は、推進員の目的意識の向上につながった。

・研修会 42回実施 延べ582人参加

○遠野市食育推進ネットワーク会議の活動支援

遠野市食育協力店事業を立ち上げ、地産地消・栄養成分表示・食品ロス・郷土の食文化継承などの活動をする飲食店等を「食育協力店」として登録し、食育の普及啓発と情報発信を行った。

・食育推進ネットワーク会議 3回開催

○朝食をとる習慣のあるこどもの割合（まちづくり指標）

目標値 95.0%

実績値 91.1%（小学校 97.2% 中学校 86.6%）

達成率 95.9%（概ね達成）

中学生の数値が前年を大きく下回り、目標達成できなかった。

基本方針	5 子育て支援の推進
施策の方向	(1) 少子化対策・子育て支援
施策の展開	① 少子化対策・子育て支援総合プランの推進 ② 子育て支援の充実

施策の展開に係る 全体総括	<p>わらすっこプランに基づき、少子化対策・子育て支援施策の充実を図るため、子育て世代のニーズを踏まえた施策を推進した。</p> <p>病児等保育施設、児童館及び児童クラブ、ファミリー・サポート・センター事業の運営により、子育てと就労等との両立の支援を図った。</p> <p>子育て応援宣言のまち推進事業として、子どもが健やかに育つ環境づくりを普及・推進する活動団体に対しわらすっこ基金による助成金を交付したほか、出生のお祝いとして木製写真立てと予防接種等に使用できる「わらすっこ応援券」を交付した。</p>
課題	<p>建物の老朽化が進んだ児童館について、改築等の計画検討を進める必要がある。</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業の会員登録数を増加させるため、更なる周知を図る。</p>

事業費名	看護保育安心サポート事業費	平成30年度 決算額	13,761,989円	
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課			
取組状況	<p>保護者が就労している等の理由により、子どもが病気の際に自宅での保育が困難な場合に対応するため、遠野市病児等保育施設「わらっぺホーム」の運営を社会福祉法人遠野市保育協会に委託し、病気の子ども（小学6年生まで）を一時的に保育した。</p>	評価	達成	
成果	<p>○核家族化や両親の共働き世帯が増える中、病気の子どもを保育する「わらっぺホーム」の需要は高く、登録者数は増加傾向にある。</p> <p>○子育てと就労の両立を支援するための施設として、安心して子育てができる環境の維持に努めた。</p> <p>○利用実績等（平成27年度から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度（開設日数 241日） 登録者数 226人、年間利用者数延べ 591人（1日平均 2.45人） ・平成28年度（開設日数 244日） 登録者数 237人、年間利用者数延べ 553人（1日平均 2.29人） ・平成29年度（開設日数 242日） 登録者数 229人、年間利用者数延べ 631人（1日平均 2.61人） ・平成30年度（開設日数 241日） 登録者数 226人、年間利用者数延べ 623人（1日平均 2.59人） (実数155人) 			

事業費名	わらすっこの居場所事業費	平成30年度 決算額	110,666,000円		
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課				
取組状況	近年における女性の就業割合の高まりや核家族化の進行など、児童と家庭を取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後や夏休み等の長期休業時に児童が安心して生活できる居場所を確保するとともに、「わらすっこ」の健全な育成を支援した。	評価	達成		
成果	<p>○放課後等における児童の居場所づくりとして、社会福祉法人遠野市保育協会に児童館、児童クラブの管理運営を委託し、家庭と地域等との連携のもと発達段階に応じた遊びを提供し、児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣など、健全育成を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館指定管理料 83,352,000円 ・児童クラブ運営業務委託料 24,204,000円 <p>○親子行事や世代間交流事業等の様々な体験活動を実施する育成団体に対し、補助金を交付し事業の運営を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館及び児童クラブ育成団体等運営費補助金 3,110,000円 <p>○児童館・児童クラブ年間利用延べ人数（まちづくり指標）</p> <p>目標値 133,000人 実績 131,794人 達成率 99.1%（概ね達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の延べ利用者数は、目標数値に対して1,206人下回る結果であった。 ・児童館及び児童クラブが地域交流事業など特色ある活動に取り組んでいる一方、利用数が減少したことは、児童数の減少が影響していることも原因のひとつである。 ・今後も、児童の健全育成の場、子どもの居場所として、活動内容の充実や児童館施設の計画的な整備を図り、利用者のニーズに沿った管理運営に努める。 				

事業費名	子育て応援宣言のまち推進事業費	平成30年度 決算額	5,125,755円	
令和元年度 事業所管課	子育て応援部こども政策課			

<p>取組状況</p>	<p>○地域子育て応援推進事業 育児の援助を行いたい人と育児の援助を受けたい人を会員として組織化し、地域において会員同士が行う相互援助活動を支援し、児童の福祉の向上を目指し、地域での子育て支援機能の強化に向けた体制を構築した。</p> <p>○わらすっこ基金助成事業 遠野市わらすっこ基金助成要綱に基づき、地域社会で支え合う共助により子どもが健やかに育つ環境づくりの活動を充実し拡大することを目的として、遠野市わらすっこ基金を活用し、助成金を交付した。</p> <p>○わらすっこ応援券交付事業 市内に住所を有し、出生してから小学校就学前までの児童の親権を行う方、未成年後見人及びその他の方で、現に児童を監護し、かつ、扶養している方に対し、遠野市わらすっこ誕生応援事業実施要綱に基づき、木製写真立てと1万円分のわらすっこ応援券を贈呈した。</p>	<p>評価</p>	<p>達成</p>
<p>成果</p>	<p>○地域子育て応援推進事業 ファミリー・サポート・センターを開設し、育児を援助したい人（まかせて会員）と育児の援助を受けたい人（おねがい会員）をマッチングし、相互援助活動を支援することで、子育て支援の環境整備を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おねがい会員（援助を依頼） 80人 ・まかせて会員（地域で援助） 53人 ・事前打合せ会 15件 ・援助活動 45件 <p>○わらすっこ基金助成事業 子どもが健やかに育つ環境づくりの活動を普及・推進するため、活動団体に対し助成金を交付した。</p> <p>地域社会で支え合う共助により、市内全域に及ぶ子育てに寄与する事業となり、子どもが健やかに育つ環境づくりの活動の充実とさらなる拡大が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらすっこ基金助成金交付団体数 3団体 <p>○わらすっこ応援券交付事業 主任児童委員との連携により、遠野市在住の新生児164人に、出生のお祝いとして木製写真立てを贈呈するとともに、1万円分のわらすっこ応援券を交付した。</p> <p>わらすっこ応援券は、主に予防接種に活用されており、子育てにかかる経済的負担の軽減に寄与することができた。</p>		

IV 外部評価の実施

令和2年3月17日（火）に、「遠野市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況（平成30年度実施事業）の外部評価会議」を開催し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定により、学識経験を有する5名の外部評価員に、15ページから65ページまでの「Ⅲ 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況と点検評価の結果」の内容について、下記のとおり意見等をいただきました。

【外部評価員】

（敬称略）

氏名	役職
佐藤 健一	遠野市校長会（上郷小学校長）
石直 典高	遠野市民センター運営協議会会長
木下 敏子	主任児童委員
菊池 長悦	遠野市スポーツ少年団本部副本部長
菊池 圭一郎	遠野市PTA連合会副会長

【外部評価員からの主な意見、質疑等】

評価書ページ	事業費名等	主な意見、質疑等
16	就学前教育の充実 ②教育・保育の充実 「課題」部分	○補聴器や幼児ことばの教室について「拡大」とした根拠は。 →補聴器について、県の制度の対象とならない方にも対応できるように補助制度を見直し、対象者を増やしたい。 ことばの教室について、相談員を専属で配置しており、のびっこ、ジャンプ教室やことばの教室と併せて、広めていこうと考えている。
16	わらすっこの育ち療育支援事業費	○療育教室に至るまでの流れを知りたい。また、親の理解を得られるのか。 →保健師、療育センター、臨床心理士と親御さんを交えて見立てをし、市内の保育園等を巡回しながら、より早期に教室に関わると、解消につながるということを親御さんに理解いただけるよう活動をしている。相談員や介入の頻度を上げている臨床心理士でサポートしている。
24	学力向上対策事業費	○なぜこの部分だけ「概ね達成」なのか。 →小学校標準学力検査偏差値は100の目標に対して98.1。市の

		<p>掲げたまちづくり指標は 53.9 を目指しており、結果は 52.9 となった。全国平均 50 に比べて高くはなっているが、市の掲げた目標が高めであるため、目標には到達しなかったため「概ね達成」といえる。</p>
28	小学校大規模改善整備事業費	<p>○土淵小が終わり、次はどのような予定か。</p> <p>→校舎について、遠野市総合計画前期 5 ヶ年計画は令和 2 年度までの計画のため、令和 3 年度以降に改めて後期分を計画する。屋内体育館については、令和元年度に土淵小学校の設計をして、令和 2 年度（令和元年度補正予算）に設置するということが決まっており、国の内示も出た。</p> <p>平成 28 年 11 月の総合教育会議で話し合われた市内小中学校の環境整備プランで、次は小友小学校となっているが、まだ実施計画で確認されていないので、その方向で検討しているところ。</p>
32	学校給食事業費	<p>○地産地消率実績 70%とあるが、高いのか。</p> <p>→県内で上位の方になる。</p> <p>○農家は高齢化が進んでいるが、課題は。</p> <p>→生産者の高齢化はどの市町村でも問題になっている。「交流すまいる給食」で生産者や調理員が一堂に会して給食を食べ食育を推進しており、それを励みにしている方もいるので、引き続き産直連絡協議会等と連携しながら遠野の食材を使っていきたい。</p> <p>○給食への異物混入問題は最近どうか。</p> <p>→当然あってはいけないため充分注意しているが、細かいビニール片、髪の毛、食材付着の虫等、例年 10 件程度発生している。金属・ガラス片等の健康被害を起こすような物の混入は近年発生していない。</p>
36	育英事業費	<p>○滞納は増えているのか、減っているのか。</p> <p>→実際に、就職したてで給料が低く滞納される方も中にはいる。15 年間の期間内に自分で返済計画を組み立てでき、変更も可能。無利子というのもあって、他の利子がかかるものを先に払って、遠野市の無利子を後回しにという考えもあるが、極端に増えているわけではない。</p>

		<p>お子さんと保護者とどちらが払うかはっきりしていないケースなどもある。</p>
38	<p>学びのまちづくり推進費</p>	<p>○中学生の海外派遣について、9人より増やせないか。また、選考基準はあるか。</p> <p>→在校生の人数割りで最大9名。今年度は13名の申し込みがあった。</p> <p>選考については、目的、意欲、遠野のPR、勉強したいこと等を面接と作文で総合的に選考している。最近は英語能力よりも、積極的にコミュニケーションを図れる人材を選び送り出している。</p>
40	<p>放課後子どもプラン推進事業費</p>	<p>○大変良い事業だと思うが、継続できるか。</p> <p>→今年度は行っているが、震災関係の補助金ということもあり、令和2年度からはなくなる。</p> <p>遠野市内のみなし仮設住宅が無くなったので、補助の対象外になった、利用している子どもの数に大きな変動がない、多くの子は児童館を利用しているということが理由。</p>
40	<p>高齢者元気アップ活動事業費</p>	<p>○老人クラブの加入者数が目標に達しなかったために「概ね達成」なのか。各種スポーツ大会、その他の事業というのは老人クラブの事業か、それ以外も含まれているのか。</p> <p>→老人クラブ加入者数の達成率が94.3%だったため、「概ね達成」となった。</p> <p>○各種スポーツ大会、その他の事業というのは老人クラブの事業か、それ以外も含まれているのか。</p> <p>→老人クラブが主催等で実施している大会となる。</p> <p>○元気アップ活動をしている人たちもいるので、吸い上げて評価できるものにならないものか。加入数も大事だが、老人クラブのメンバーにも目を向けて達成にしてあげたい。</p>
42	<p>芸術文化振興事業費</p>	<p>○遠野物語ファンタジーなど、一生懸命頑張っている人もいる中「未達成」というのはかわいそう。目標値を下げる等、対応できないか。</p> <p>→確かに目標は高い。今年度は増えているので、継続して一体となって達成できるように努力していきたい。</p>

		<p>○市の芸術文化事業が自主事業としてやられているが、もう少し市民の要望等幅広く募ってもいいのでは。</p> <p>→それぞれ選考委員会があり、検討をしている。予算があれば様々な選択肢があるが現状は厳しい。市民の声を反映できるよう、総合的に検討していきたい。</p> <p>○分析があまりにも単純ではないか。もう少し中身を検討すべきでは。</p>
52	文化的景観保存事業費	<p>○土淵の保護活動の中には水車も入っているのか。</p> <p>→入っていない。景観保全に向けてのワークショップ点検等委員会、整備活用計画策定の方に使われているものになる。水車の管理等については、残っているデータがない。令和元年度は整備計画に基づいて集落内に案内板の整備をしているところ。</p> <p>○荒川高原や駒形神社の周辺が指定されているが、そちらの方はやっているか。</p> <p>→懸念事項になっている。令和2年度は実施が難しいため、次年度以降に保留となっている。</p>
50	埋蔵文化財発掘調査費	<p>○「縄文土器作り教室」や「勾玉作り教室」について参加者も多いようだが、どんな感じでやっているのか。事業として子供会などにも広げて実施できればもっと良いのでは。</p> <p>→子供会事業として参加されるチームもある。土器作りは個人と子供会のセットだが、勾玉作りの方は天候に左右されないためこちらの方が人気がある状況。今後もお子さんたちや親御さんに働きかけて継続していきたいと考えている。</p>
53	遠野遺産認定事業費	<p>○いい事業だと思っているが、認定された遺産の中でもハード面の遺産というのは修理が伴うことだが、その事業費は市がもっているものか、自己負担か。</p> <p>→「みんなで築くふるさと遠野推進事業」を活用している。100%というのではなく、地域でやっていただける部分は地域で手をかけていただいて、それ以外のものは補助を出しているという形になる。</p>

		<p>○これから修理が必要ということになってくれば、金額や件数が多くなっていき、事業自体が縮小されていく懸念もあり、遺産で使われる割合も多くなることも危惧されるため、整理をし事業が圧迫されることの無いような工夫も必要では。</p> <p>→認定したままの遺産について懸念している。推進事業費だけですべての遺産が守り切れるか、という懸念は持っている。他のやり方のモデルを探しながら遠野遺産の保全活動の次のステージに進む形で検討していきたい。</p>
60	競技・イベント スポーツプログラム推進事業費	<p>○スポーツ少年団について、少子化で団員数も減っているという課題を載せないで、取り組み状況と成果だけで「達成」となっている。そういう部分も載せるべきでは。</p> <p>→近年子どもたちが減ってきて隣の小学校区と統合した等聞くこともある。そういった素晴らしいことも含めて課題を認識して取り組んでいきたい。</p>
63	看護保育安心サポート事業費	<p>○素晴らしい事業なので、これからも継続していただければと思います。</p> <p>→利用人数が増えてきて、もう少し拡充してほしいという声もある。「わらっぺホーム」と併せて個人でも引き受けできるよう、ファミリーサポートというスタッフも加えて病後児の回復期の対応をしている。</p> <p>○働く職員の確保が大変になってくるのでは。</p> <p>→企業さんの方にも事情を汲んでもらい、休みやすい環境へのアプローチも必要。病状によって3部屋に分けてスタッフを入れなくてはいけないので、スタッフ不足というところも課題ではある。</p>
64	わらすっこの居場所事業費	<p>○児童館の利用数について、目標値についてなぜこの設定にしたのか。</p> <p>→登録は95%ぐらいにはいるが、実際の利用者は少なくなっている。子育て部分の目標設計は数ではなく、質を高めるという意味での指標として検討したいと考えている。</p> <p>○わらすっこ基金の助成金はどんな内容でどんな事業に出したのか。</p>

		<p>→子供やぶさめ大会など遠野ならではの伝統行事であるやぶさめの大会を披露するまでの練習をしたり、イベントや子育てサークル、NPO ではない実施団体への助成金となっている。</p> <p>「わらすっこ応援券」は産まれたときにその子供さんに1万円の助成券を出しているが、主に任意で行う予防接種に活用していただけるものになっている。</p>
--	--	---

実績報告書

第2次遠野市総合計画 前期基本計画
(H28～R2(H32))

まちづくり指標平成30年度実績概要

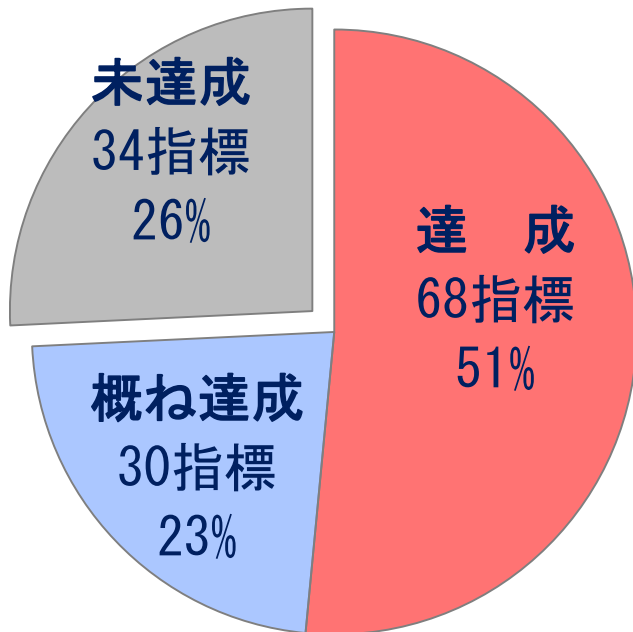
令和2年3月17日

遠 野 市



第2次市総合計画前期基本計画（平成28～令和2（平成32）年度）における毎年度の段階的達成目標として、まちづくり指標を設定しています。まちづくり指標は、毎年度、達成状況の実績を市民に公開します。

指標別割合



まちづくり指標の総数は**132**指標
平成30年度実績は

98指標(**74%**)が**概ね達成**
(平成29年度の実績は、130指標中104指標(80%)が概ね達成)

達成（達成率 100%以上）

68指標(**51%**)

概ね達成（達成率 90%以上100%未満）

30指標(**23%**)

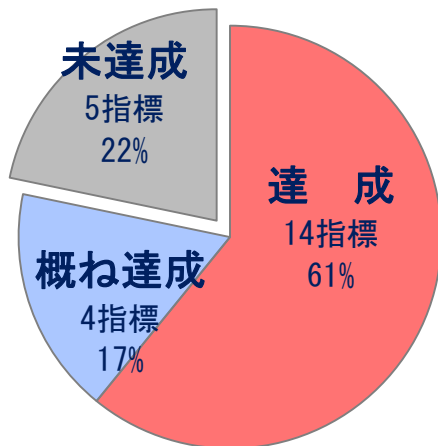
未達成（達成率 90%未満）

34指標(**26%**)

◆ 第1次市総合計画後期基本計画（平成23～27年度）の実績
141指標中：101指標（72%）が概ね達成（内訳：達成68指標（48%）、概ね達成33指標（24%）、未達成40指標（28%））



大綱 1 自然を愛し共生するまちづくり 23指標



達成
14指標

○市民環境団体登録数 ○小中学校等の環境学習および環境活動の実施
○公営住宅整備戸数 ○水道管路の更新延長 ○水洗化率 ○救急救命士の数
○自主防災組織活動支援数 ○消防水利の整備 ○応急手当講習会参加者数
○刑法犯罪発生件数 ○ケーブルテレビ加入率 ○防災関係講習会等の参加者数
○応急手当普及員養成人数 ○コミュニティ消防センターの更新整備

概ね達成
4指標

○市民一人1日当たりのごみの排出量 ○市道改良率
○市道舗装率 ○消防団員数

未達成
5指標

○快適住マイル応援事業申込戸数 ○消防ポンプの更新整備
○特殊車両の更新整備 ○小型ポンプ積載車の更新整備 ○交通事故発生件数

未達成指標の状況

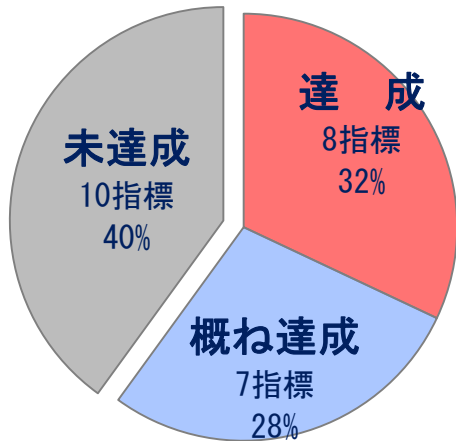
【達成率70%未満の指標】

- ▼ No. 5 快適住マイル応援事業申込戸数 0.0%
→ 当初の趣旨・目的を達成したとの判断からH29で事業終了のため。
- ▼ No. 14 消防ポンプの更新整備 33.3%
- ▼ No. 15 小型ポンプ積載車の更新整備 0.0%
→ 前年度、前々年度に先行更新済みのため。
- ▼ No. 16 特殊車両の更新整備 0.0%
→ 車両整備更新計画の見直しによる導入見送り。
- ▼ No. 22 交通事故発生件数 67.9%
→ 高齢者の自家用車による事故の発生の増加等のため。





大綱2 健やかに人が輝くまちづくり 25指標



達成
8指標

概ね達成
7指標

未達成
10指標

○1歳6ヶ月児健康診査の受診率 ○3歳児のむし歯罹患率
○麻しん風しん混合予防接種の接種率 ○健康スポーツプログラム参加者数
○スポーツ施設利用者数 ○高齢者体力アップ利用者数
○家族介護教室参加者数 ○妊娠・出産について満足している者の割合

○認知症サポーター数 ○老人クラブ加入者数 ○がん検診精密検査受診率
○生きがい活動支援通所事業利用回数 ○朝食を食べる習慣のある子どもの割合
○児童館・児童クラブ年間利用延べ人数 ○わらすっこ割合

○特定健康診査受診率
○家族介護者交流事業参加者数
○合計特殊出生率 ほか

未達成指標の状況

【達成率が80%以上90%未満の指標】

- ◆ No. 28 特定健康診査受診率 83.0%
→ 就労世代やかかりつけ医通院者の受診率低下のため。
- ◆ No. 30 特定保健指導改善率 88.7%
- ◆ No. 31 がん検診受診率 81.5%
→ 対象者の高齢化を背景とした受診率の低迷のため。
- ◆ No. 45 合計特殊出生率 89.1%

【達成率が70%以上80%未満の指標】

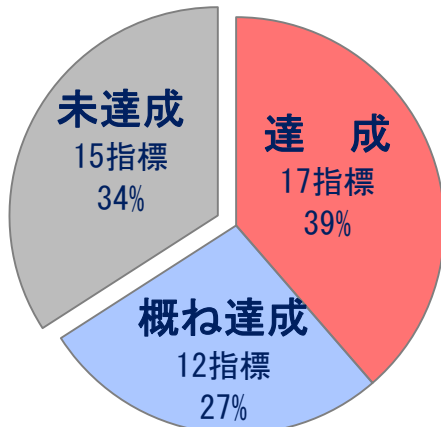
- No. 36 シルバー人材センター就業延人員 72.7%
→ 会員の減少に伴う就業延人員の減のため。
- No. 37 一人暮らし老人世帯等の見守り回数 73.5%
→ 利用者の減少による見守り回数の減のため。

【達成率70%未満の指標】

- ▼ No. 29 特定保健指導実施率 58.0%
→ 制度の理解が進まないこと等による対象者の減のため。
- ▼ No. 42 家族介護者交流事業参加者数 29.0%
→ 介護者の高齢化を理由とした事業参加者の減のため。
- ▼ No. 43 福祉施設から地域生活への移行者数 0.0%
- ▼ No. 44 福祉施設から一般就労への移行者数 50.0%



大綱3 活力を創意で築くまちづくり 44指標



達成
17指標

概ね達成
12指標

未達成
15指標

○青年就農給付金支給者数 ○家族経営協定数 ○農業生産額（畜産）
○農産物直売所売上高 ○6次産業化関連効果額
○就職希望の高校生の就職率 ○市内法人数 ○大学等研究機関との共同研究
○空き店舗利用件数 ○外国人観光客入込数
○連携交流推進事業参加者数 ほか

○水田の作付割合 ○担い手への水田の集積率 ○集落営農数 ○認定農業者数
○農業生産額（耕種）○特用林産物生産量（原木しいたけ）○日帰り旅行者数
○道の駅利用者を含む観光客入込数 ○定住者世帯数 ほか

○繁殖素牛頭数 ○乗用馬市場取引金額 ○森林整備面積
○中心市街地の観光施設入込数 ○宿泊客数 ○で・くらす遠野市民人口 ほか

未達成指標の状況

【達成率が80%以上90%未満の指標】

- ◆ No. 59 繁殖素牛頭数 88.9%
→ 畜産農家戸数の減少による飼養頭数の減のため。
- ◆ No. 60 和牛子牛市場出荷頭数 84.6%
- ◆ No. 69 森林整備面積（年間整備面積） 87.6%
→ 間伐施工事業体の育成に時間を要しているため。
- ◆ No. 85 道の駅みやもり入込数 89.8%
- ◆ No. 89 宿泊客数 86.6%
- ◆ No. 91 農家民泊戸数（累計） 85.0%
- ◆ No. 92 定住者世帯数（累計） 81.7%
→ 移住・定住希望者向け空家の確保等の課題のため。

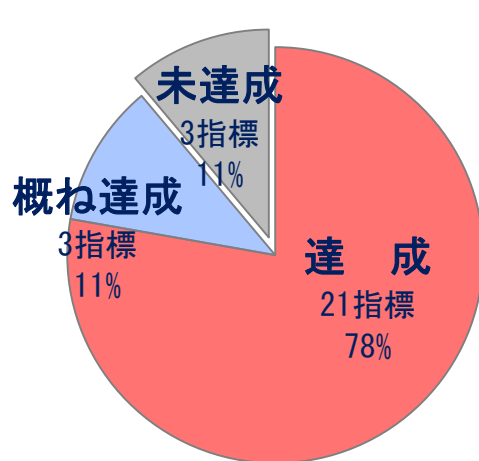
【達成率が70%以上80%未満の指標】

- No. 93 で・くらす遠野市民人口 77.0%
→ 新規会員が伸びなかったことによる。

【達成率70%未満の指標】

- ▼ No. 58 農業所得500万円以上の農家数 56.3%
→ 経営分離等による高収益農家の減少のため。
- ▼ No. 61 いわて遠野牛出荷頭数 68.5%
- ▼ No. 62 馬生産頭数 63.3%
→ 種付け頭数の減少、病気による流産発生のため。
- ▼ No. 63 乗用馬市場取引金額 47.4%
→ 好調であった2歳馬の売却の伸び悩みのため。
- ▼ No. 81 商店街街路灯LED化促進事業（累計） 16.7%
- ▼ No. 82 中心市街地の観光施設入込数 47.5%
- ▼ No. 83 中心市街地通行車両・歩行者数 57.4%
→ 調査日が荒天であったことによる通行量の減少による。

■ 大綱 4 ふるさとの文化を育むまちづくり 27指標


 達成
21指標

 概ね達成
3指標

 未達成
3指標

- 中学校標準学力検査偏差値
- 学校給食に使用する遠野産食材の割合
- 市民センター施設の利用者数（スポーツ施設を除く）
- 家庭教育講座等の延べ参加者数
- 博物館講座等の受講者数
- 図書館の利用者数
- 遠野遺産保護活用活動実施割合
- 遠野文化研究センター活動の参加者
- 遠野こだわりの「語り部」認定者数 ほか
- キッズ元気アップ教室参加者数
- 小学校標準学力検査偏差値
- 自主事業の顧客満足度
- 市民協働の芸術文化事業の参加者数
- 市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数
- 博物館入館者数

未達成指標の状況

【達成率が80%以上90%未満の指標】

- ◆ No. 109 博物館入館者数 89.3%
→ 団体観光客数の減少によるが、入館者数は前年を上回った。

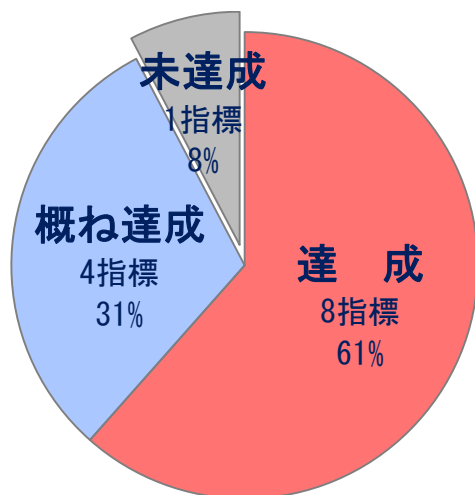
【達成率が70%以上80%未満の指標】

- No. 107 市民協働の芸術文化事業の参加者数 73.6%
→ 参加者の固定化及び高齢化傾向による参加者の減。
- No. 108 市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数 79.0%





大綱5 みんなで考え支えあうまちづくり 13指標



達成
8指標

- 道路環境整備参加者数
- みんなで築くふるさと遠野推進事業実施数
- みんなで築くふるさと遠野推進事業参画者数
- 経営改革大綱実行計画の達成率
- 市税等の収納率（現年分）
- 実質公債費比率（普通会計）
- 市民一人当たりの借入金残高
- 市職員数

概ね達成
4指標

- 各委員、協議会の女性参画率
- 市長と語ろう会参加者数
- 国土調査進捗率
- 経常収支比率（普通会計）

未達成
1指標

- 市内河川清掃参加者数

未達成指標の状況

【達成率が80%以上90%未満の指標】

- ◆ No. 123 市内河川清掃参加者数 89.1%
→ 高齢化が進み参加困難な世帯が増加傾向にあるため。



未達成理由は、天候の影響や交通事故発生件数などの外的要因が2指標（No. 22・No. 83）、市民等との連携や啓発等の取組不足などによる内的要因が32指標となっている。

達成率80%以上90%未満の指標 13 指標

■ 内的要因

No. 28	特定健康診査受診率	-----	83.0%
No. 30	特定保健指導改善率	-----	88.7%
No. 31	がん検診受診率	-----	81.5%
No. 45	合計特殊出生率	-----	89.1%
No. 59	繁殖素牛頭数	-----	88.9%
No. 60	和牛子牛市場出荷頭数	-----	84.6%
No. 69	森林整備面積（年間整備面積）	---	87.6%
No. 85	道の駅みやもり入込数	-----	89.8%
No. 89	宿泊客数	-----	86.6%
No. 91	農家民泊戸数（累計）	-----	85.0%
No. 92	定住者世帯数（累計）	-----	81.7%
No. 109	博物館入館者数	-----	89.3%
No. 123	市内河川清掃参加者数	-----	89.1%

達成率70%以上80%未満の指標 5 指標

■ 内的要因

No. 36	シルバー人材センター就業延人員	-	72.7%
No. 37	一人暮らし老人世帯等の見守り回数		73.5%
No. 93	で・くらす遠野市民人口	-----	77.0%
No. 107	市民協働の芸術文化事業の参加者数		73.6%
No. 108	市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数		79.0%

達成率70%未満の指標 16 指標

■ 外的要因

No. 22	交通事故発生件数	-----	67.9%
No. 83	中心市街地通行車両・歩行者数	--	57.4%

■ 内的要因

No. 5	快適住マイル応援事業申込戸数	--	0.0%
No. 14	消防ポンプの更新整備	-----	33.3%
No. 15	小型ポンプ積載車の更新整備	---	0.0%
No. 16	特殊車両の更新整備	-----	0.0%
No. 29	特定保健指導実施率	-----	58.0%
No. 42	家族介護者交流事業参加者数	---	29.0%
No. 43	福祉施設から地域生活への移行者数		0.0%
No. 44	福祉施設から一般就労への移行者数		50.0%
No. 58	農業所得500万円以上の農家数	---	56.3%
No. 61	いわて遠野牛出荷頭数	-----	68.5%
No. 62	馬生産頭数	-----	63.3%
No. 63	乗用馬市場取引金額	-----	47.4%
No. 81	商店街街路灯LED化促進事業（累計）		16.7%
No. 82	中心市街地の観光施設入込数	---	47.5%

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
1 自然を愛し共生する まちづくり (23指標)	1	市民一人1日当たりのごみ排出量	g/人・日	883	目標値	850	842	834	826	818	概ね達成	91.0	事業系等可燃ごみ有料化前の駆込み排出や住宅等の片付け意識の表れなどから、可燃ごみ排出量が増加したことなどが要因となり、昨年度比で総排出量が234t、一人1日当たりのごみ排出量が44g増加した。引続き市公衆衛生組合連合会と連携し、環境学習会や遠野テレビCMなどの啓発活動や資源集団回収奨励事業の普及に取り組むとともに、有料化による排出量抑制効果の最大化に努め、ごみ減量と適正分別を推進する。	環境課
					実績	860	872	916						
	2	市民環境団体登録数	団体	68	目標値	68	68	68	68	68	達成	105.9	市公衆衛生組合連合会等で資源回収の推進を図った結果、資源集団回収団体が昨年より2団体減り、53団体となったものの、目標を達成することができた。このほか、環境保護団体4団体、子どもエコクラブ15団体が登録を継続している。今後も区長会への説明や広報遠野を活用した周知等、加入促進を継続して行い、登録団体の増加を図っていく。	環境課
					実績	71	74	72						
	3	小中学校等の環境学習および環境活動の実施	回	76	目標値	77	78	79	80	81	達成	127.8	小中学校水生生物調査13回、子どもエコクラブの活動83回、清養園クリーンセンター・岩手中部広域行政組合への見学が5回、合計101回実施し、目標を達成することができた。河川の水質を判断する水生生物調査は学校・児童館・児童クラブの夏の事業として定着してきている。天候に恵まれず実施を見合わせた団体については、座学による水生生物教室を実施して調査の意義・環境保全意識の醸成を図った。今後も引き続き子どもたちへの環境学習の機会を企画・提供し、各団体の活動を支援していく。	環境課
					実績	100	103	101						
	4	公営住宅整備戸数	戸	—	目標値	—	—	10	12	5	達成	160.0	東日本大震災で住宅を失った被災者の居住の安定を図るため、穀町団地に災害公営住宅16戸を整備し、平成30年度から管理を開始した。令和元年度において、稲荷下団地に災害公営住宅5戸整備し、管理を開始する予定である。また、平成30年度において、市営住宅の「整備」及び「管理」に関する計画「遠野市営住宅等長寿命化計画」の変更を行い、整備戸数、整備時期等の見直しを行った。今後、新たな団地整備に向けて、具体的な検討を図っていく。	建設課
					実績	—	—	16						
5	快適住マイル応援事業申込戸数	件	74	目標値	75	75	75	75	75	未達成	0.0	平成20年秋のリーマンショックによる世界的な景気悪化情勢にあって、個人消費や住宅投資が減少しているなか、県内市町村の取組情報を取り入れ、市としても内需喚起のため、平成22年度に3年程度を目安に始めたものである。平成29年度まで8年間で518件の申請があり、助成額が7,300万円余、補助対象工事を含む関連工事費は約24億円余に上り、利用者はもちろん、市内の工事関係者、商品券に関わる業者まで、広く経済波及効果があった。県内他市町村の状況を見ると、現在では、リフォーム全般に助成をする事業は終了してきており、開始から8年が経過し、当初の趣旨・目的は達したと判断し、平成29年度をもって終了している。	まちづくり推進課	
				実績	89	77	0							
6	水道管路の更新延長 (5年間の延長18,660m)	m	2,916	目標値	4,460	1,200	4,430	3,250	5,320	達成	123.1	水道管路の更新延長は、目標値4,430mに対して実績5,455mで目標を達成することができた。要因は、平成29年度に漏水事故が多発した宮守町岩根橋地区ほか2工区の配水管布設替工事（1,227m）を新規に追加して実施したことや、東工業団地造成に伴う配水管布設工事（744m）により施工延長が延びたことがあげられる。今後も水道ビジョンに基づき計画的な管路の更新に努めていく。	上下水道課	
				実績	6,500	2,642	5,455							
7	水洗化率	%	55.3	目標値	60.4	62.0	63.7	65.4	67.2	達成	101.7	平成30年度は、下水道排水設備計画の確認申請が70件（個人48件、法人等22件）、個人住宅設置の浄化槽が47基増加した。住民基本台帳に基づく平成30年度末の総人口26,899人に対し、水洗化設備を使用している人口は前年度実績から197人増加して17,424人となり、水洗化率は目標値を上回った。また、公共下水道未接続世帯・事業所を対象とした文書による周知啓発、各町の民生児童委員を対象とした説明会の開催、市産業まつり・躍進みやもり祭での啓発ブースの設置、広報遠野による浄化槽整備事業補助金制度の周知を実施し、さらなる水洗化の促進を図った。今後も、公共下水道及び農業集落排水への未接続者に対する啓発活動を推進するとともに、個人住宅への浄化槽の設置に係る補助金制度を継続し、水洗化率の向上に努めていく。	上下水道課	
				実績	60.2	62.6	64.8							
8	市道改良率	%	48.5	目標値	48.5	48.5	48.6	48.6	48.6	概ね達成	99.4	平成30年度は、市道光興寺上の山線他2路線792mを改良し、全延長1,301Kmのうち、全改良済延長628kmとなった。今後も「生活に身近な道づくり事業計画」に基づき、市道改良工事を促進していく。	建設課	
				実績	48.2	48.3	48.3							

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課			
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率		
9	市道舗装率	%	44.9	目標値	44.9	45.0	45.0	45.0	45.1	概ね達成	99.6	平成30年度は、市道光興寺上の山線他2路線961mを舗装し、全延長1,301kmのうち、全舗装済延長583kmとなった。 今後も「生活に身近な道づくり事業計画」に基づき、市道舗装工事を促進していく。	建設課			
				実績	44.7	44.8	44.8									
10	自主防災組織活動支援数	団体	26	目標値	5	5	5	5	5	達成	220.0	各町の自主防災組織に対する防災研修会を開催し、地域防災力の強化を図ったほか、避難所等に関する意見交換を行った。 自主防災組織は、90行政区中89行政区が結成済みである。未結成の行政区については、引き続き結成を促していく。	消防総務課			
				実績	11	11	11									
11	救急救命士の数	人	16	目標値	16	16	16	16	16	達成	118.8	救急救命士の資格取得のため、救急救命士養成所へ職員1名を派遣し、救急救命士1名を増員することで、救急救命体制の強化を図った。 また、気管挿管病院研修及び生涯研修としての病院実習を行い、救急救命士としての知識及び医療技術の向上を図った。	消防総務課			
				実績	17	18	19									
12	防災関係講習会等の参加者数	人	450	目標値	500	500	500	500	500	達成	369.6	総合防災センターで開催したチャレンジ防災スクール、遠野わらすっこまつり&消防フェアを通して、児童生徒及び市民への自助・共助意識の醸成を図った。 自主防災組織への防火防災講習会では、昨今の台風等による被害を踏まえ、土砂・浸水ハザードマップを活用し、大雨時の避難行動等を市民に啓発した。	消防総務課			
				実績	472	791	1848									
13	消防水利の整備（累計）	箇所	計 1,031	消火栓 880	目標値	881	883	885	887	889	達成	100.5	遠野市水利計画に基づき、消火栓2基、防火水槽（耐震性貯水槽）2基を新設して消防水利の充実を図った。 ・新設消火栓 小友町高坪、青笹町糠前 ・新設防火水槽 土淵町土淵、附馬牛町上附馬牛（小出） 今後も、水利不便地域及び消防水利の充足率向上を図るため、自然水利や防火水槽及び消火栓設置状況を考慮し、計画的に整備を進めていく。	消防総務課		
				実績	884	886	888									
				防火水槽 151	目標値	153	153	153	153	155						
				実績	153	153	155									
				目標値	1,034	1,036	1,038	1,040	1,044							
				実績	1,037	1,039	1,043									
14	消防ポンプの更新整備	台	消防団 3	目標値	1	—	3	1	3	未達成	33.3	消防団車両整備計画に基づき、消防団消防ポンプ自動車1台の団車両更新（第1分団第3部（新穀町））を図った。小型消防ポンプ2台は令和元年度に更新整備を行う。 今後も、地域防災力を低下させないように、更新整備を進めていく。	消防総務課			
				実績	3	2	1									
15	小型ポンプ積載車の更新整備	台	消防団 4	目標値	—	—	3	—	3	未達成	0.0	消防団車両整備計画を見直し、28年度と29年度に小型ポンプ積載車2台、小型ポンプ軽積載車2台を更新したことから、平成30年度の導入は見送りとした。 ・28年度 第2分団第3部（綾織町山口）、第4分団第2部沢ノ口分所（附馬牛町沢ノ口） ・29年度 第7分団第5部（青笹町沢田）、第4分団第2部大萩分所（附馬牛町大萩） 今後も地域防災力を低下させないように、更新整備を進めていく。	消防総務課			
				実績	2	2	0									
16	特殊車両の更新整備	台	消防本部 0	目標値	1	1	1	—	1	未達成	0.0	消防本部車両更新整備計画の見直しにより、更新を行わなかった。救助工作車1台を、次年度以降の整備に向けて進めていく。	消防総務課			
				実績	0	1	0									

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
	17	コミュニティ消防センターの更新整備	箇所	消防屯所 0	目標値	—	1	—	1	—	達成	100.0	コミュニティ整備計画に基づき、平成29年度の繰越事業であった松崎町第4区コミュニティ消防センターと水防倉庫を整備した。消防防災施設をコミュニティ化したことで、防災拠点としての機能が加わったことから、地域防災力の向上に努めていく。	消防総務課
	18	応急手当講習会参加者数	人	1,862	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	達成	262.8	福祉及び保育施設職員、全小学校のPTA（353名）、民泊等の宿泊施設関係者を対象とした講習会の開催により、救命率向上に向けた態勢整備を図った。次年度に開催されるラグビーワールドカップ釜石大会に向け、サービス業等の受講率の向上に努めていく。	遠野消防署
	19	応急手当普及員養成人数	人	37	目標値	40	40	40	40	40	達成	132.5	応急手当普及員資格者の40名体制を維持していくため、平成30年度は講習会を開催し、新たに2名の普及員を養成した。また、応急手当普及員が救命講習の講師として普及活動にあたることで、市民の救命率向上に貢献した。今後も、応急手当普及員の養成を図り、救命率向上に努めていく。	遠野消防署
	20	消防団員数	人	928	目標値	935	935	935	935	935	概ね達成	94.2	近年、就業構造の多様化、就業場所の広域化など地域活動への参加意欲の低下により、消防団員の確保が困難な状況にある中、各分団を通じた勧誘などにより、基本消防団員、機能別消防団員を合わせて、入団者26人を確保したが、退団者は37人であった。消防団員の確保には、新入団員確保が不可欠であり、若い世代に入団してもらうには、消防の仕事を理解してもらうことが重要であることから、各種会合の場を利用した説明会の実施について、今後検討を進めていく。	遠野消防署
	21	市内における刑法犯罪発生件数	件	58	目標値	57	56	55	54	53	達成	157.1	関係団体、警察署等と連携し、防犯パトロールや特殊詐欺被害防止の街頭啓発活動、鍵かけモデル地区を指定し、鍵かけ運動推進を図った。また、消費生活相談員による出前講座を実施し、特殊詐欺防止運動にも努めた。目標値は達成したものの、依然として高齢者を狙った特殊詐欺電話、重大事件に発展しかねない子どもへの声かけ事案、無施錠による盗難事件等が発生していることから、今後も引き続き、各町（地区）防犯協会をはじめとした防犯団体や警察署等の関係機関と連携を図りながら、犯罪の未然防止と市民の安全意識の醸成に努めていく。	市民協働課
	22	交通事故発生件数	件	42	目標値	40	39	38	37	36	未達成	67.9	高齢者の自家用車による事故、児童と自動車の接触事故の発生があった。今後も幼稚園保育園の子ども向けや高齢者向けの交通安全教室、小中学生への自転車の交通安全教室を実施し、交通事故防止に努めていく。また、引き続き警察署をはじめ交通安全対策協議会や交通安全協会等の関係団体と連携しながら、交通安全意識の啓発と交通事故防止活動の強化を図っていく。	市民協働課
	23	ケーブルテレビ加入率	%	84.0	目標値	84.2	84.4	84.6	84.8	85.0	達成	101.1	市民生活に根ざした事業展開及び多様なニーズに応えるため、新BS4K放送視聴環境の提供、インターネット通信環境の改善、防災アプリのリリースなどを行った。その結果、新規転入による加入金減免制度の活用などにより新規加入世帯が42件、新築等に伴う一般加入が32件で、合計74件の加入となった。一方、市外転出や使用者不在などから解約が74件あり、遠野テレビの加入世帯数に増減はなかったが、加入率は、目標を0.9ポイント上回る結果となった。人口減少の影響は解約の世帯数にも現れているが、今後も引き続き、テレビ加入金や使用料の減免制度及びインターネット宅内配線工事費補助金制度による加入促進を図るとともに、インターネットサポートアドバイザーによるサポートを充実させ、加入推進に努めていく。	ICT担当

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績						30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況	達成率		
2 健やかに人が輝くまちづくり (25指標)	24	1歳6か月児健康診査の受診率	%	99.5	目標値	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	達成	103.1	母子保健法により、市は1歳6か月児に対して健康診査を行う義務があり、対象者へは個別通知を行い、さらに未受診者に対しては早期に受診勧奨を実施し、健診受診率100%を達成した。今後も健康診査について周知、受診勧奨し全員受診を目指す。	母子安心課
					実績	100.0	100.0	100.0						
	25	3歳児のむし歯罹患率	%	34.7	目標値	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	達成	154.6	生後6か月から3歳6か月までの半年毎に、各種健診や相談事業において、歯科衛生士が保護者へ個別に歯科保健指導を行った結果、3歳児のむし歯罹患率は減少し改善傾向にある。今後も、乳児期からのむし歯予防指導を継続し、さらにむし歯罹患率の減少を目指す。	母子安心課
					実績	28.9	26.0	19.4						
	26	麻疹風しん混合予防接種の接種率	%	95.3	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	達成	101.3	麻疹及び風しんは、幼児期に特に予防が必要な特定感染症であり、予防接種によって発病及びまん延を防止している。流行を抑制するため、国の指針において接種率目標は95%以上と定められており、接種期限内に接種できるよう周知・指導している。未接種者に対しては個別に接種勧奨を行い、目標値を上回る接種率を達成できた。今後も、個別通知とともに相談や健診事業において積極的に接種勧奨を行い、95%以上の接種率を維持するよう努めていく。	母子安心課
					実績	98.5	95.2	96.2						
	27	朝食をとる習慣のある子どもの割合	%	94.8	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	概ね達成	95.9	講演会や調理実習を中心とした食育講座を、小中高生に延べ38回（1,029人）行い、料理ができる力、食べ物を選ぶ力を身につけ、小学生の「望ましい食習慣の定着」、中・高校生の「自立に向けた食生活の基礎づくり」を支援した。小中学生の「朝食をとる子どもの割合」は、91.1%と昨年度の95.1%から4.0ポイント後退し、年々減少傾向にある。引き続き朝食の大切さを訴え、簡単な料理の作り方指導など小中学生への働きかけだけでなく、大人（特に子育て世代）にも働きかけていく。	総合食育課
					実績	96.8	95.1	91.1						
	28	特定健康診査受診率	%	50.2	目標値	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	未達成	83.0	自覚症状がなく多忙である就労世代や定期的にかかりつけ医へ通院している者の受診率が低く、達成には至らなかった。しかし、県内でも同様の状況にある中、一昨年、昨年と比較し受診率は微増しており、県内14市の中では1番目、33市町村では7番目に高かった。受診者拡大に向け、法定の検査項目へ市独自の項目を追加し、また、健診結果票をわかりやすくするなど、健診の充実及び受診者の満足度の向上に努めた。併せて、健診の土曜・日曜・夕方及び冬期の追加日程を実施し、人間ドックを受診した国保被保険者へは助成額の上乗せを行うなど受診環境の整備を図っている。引き続き受診率向上に向け、第2次遠野市国保データヘルス計画に基づき、市医師会や商業組合、関係団体等との連携を推進していく。また、国保担当課と連携を図り、被保険者に対し雇用者保険から市町村国保への移行時などの機会を捉え制度理解の推進と受診勧奨を進めていく。	健康長寿課
					実績	49.4	49.6	49.8						
	29	特定保健指導実施率	%	30.3	目標値	50.0	60.0	60.0	60.0	60.0	未達成	58.0	特定保健指導実施率は、前年度比で7.6ポイント増加し、県内では7番目、14市中で5番目の実施率となった。健診対象者（国保被保険者数）の減少に伴い特定保健指導対象者も年々減少傾向にある中、保健指導利用者の固定化や多忙等を理由に指導を拒否するなど、制度の理解が得られないなどの課題があり、目標実施率を下回っている。実施率向上のため、事業実施前に従事者全員でPDCAに基づき指導の方向性の共有や指導プログラムの検討、効果的な勧奨などについて検討・再構築を行った。生活習慣病リスク（所見）の優先順位に基づく参加勧奨、健診会場での事業周知、対象者の都合に応じ訪問指導を積極的に実施した結果、前年度比7.6ポイントの上昇へとつながった。今後も引き続き、生活習慣病改善の必要性を伝えていくとともに、指導者のスキルアップを図りながら、住民の心に届く、効果的な保健指導を実施していくよう努めていく。	健康長寿課
					実績	25.8	27.2	34.8						
30	特定保健指導改善率	%	21.0	目標値	25.0	30.0	30.0	30.0	30.0	未達成	88.7	特定保健指導改善率は前年度の特定保健指導による翌年度の特定保健指導対象者の減少割合をみたもので、今年度は前年度比3.2ポイント増加した。改善率は、保健指導内容を基に、対象者が生活習慣の改善を続け、その結果を1年後に評価する仕組みであるため、いかに継続させ行動変容につなげるかが課題である。参加者の動機付けや改善内容の「見える化」によるモチベーションの維持等を目的に体組成計を導入し、初回・中間・最終評価の面接時に計測を行い、参加者自身がより客観的な評価ができ、継続して生活習慣の改善に努めることができるよう支援した。また、初回面接後の集団支援（健康教室型）の回数を前年度より増やすなど、プログラムの再編なども改善率の向上につながったと考える。なお、改善率の向上につながる効果的な指導ができるよう、特定保健指導に従事するスタッフにおいても、研修などの研鑽を重ねスキルアップを図っていく。	健康長寿課	
				実績	28.0	23.4	26.6							

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況		
31	がん検診受診率	%	33.5	目標値	35.0	38.0	40.0	45.0	50.0	未達成	81.5	保健推進委員等による個別通知や地域単位での受診勧奨、遠野すずらん振興協同組合と提携した検診等受診ポイント事業の継続、土曜・日曜・夕方、冬期間の追加日程等による受診機会の拡大、ケーブルテレビ音声告知放送を利用した検診周知などを行い、受診者数の増（受診率の向上）に努めた。また、冬季の各種がん検診追加日程前に、主に就労世代に対し受診勧奨の個別再通知を行い受診者の拡大を図った。がん検診別受診率を見ると、胃・肺・大腸がん検診は1%未満の減少、乳がん・子宮頸がんの受診率は前年度比より上昇した。 年々進む高齢化に伴い、胃がん検診等においては安全面から、敢えて検査の受診を断るケースも増えてきており、対象者の高齢化を背景とした受診率の伸び悩みが生じている現状にある。若年者や一部がん罹患率が高い就労年代へは、早期発見のための検診の重要性についての理解を一層図り、積極的に受診勧奨をしていく。	健康長寿課
				実績	34.5	33.1	32.6						
32	がん検診精密検査受診率	%	87.9	目標値	90.0	93.0	95.0	98.0	100.0	概ね達成	94.0	検診機関と連携し、各がん検診の精密検査の未受診者全員に対し、保健師及び看護師が電話や訪問等により受診状況の把握並びに早期受診の勧奨を実施した。未受診者への受診勧奨が精密検査の受診へつながる場合も多く、勧奨は受診率の向上へつながっている。 各種がん検診別に精密検査の受診状況を見ると、胃がん及び大腸がん検診の受診率が90%を下回っており、他のがん検診よりも低い。精密検査内容が他の検診に比べ心身への負担が大きい検査内容であること、また、精密検査対象者に比較的高齢者が多く含まれることが、受診率に影響していると考えられる。 今後も、早期治療による重症化防止、QOL（生活の質）の維持のためにも、検診受診時から精密検査の重要性を説明し、理解を求めていくことに努めていく。精密検査の未受診者に対しては、早期受診の勧奨の強化及び精密検査の受診状況の全把握を行っていく。	健康長寿課
				実績	88.9	88.2	89.3						
33	健康スポーツプログラム参加者数	人	1,938	目標値	2,000	2,100	2,100	2,100	2,100	達成	156.2	市民センターでは水中ウォーキング、エクササイズ及びリズム体操教室の実施と、各地区センターでは地域から要望があったテーマに沿った教室を実施した結果、教室参加者数は前年を上回り、健康づくりに取り組む市民の増加が図られた。 今後もスポーツ参画人口の拡大を図るため、定期的に参加できる健康スポーツ教室を開催し、運動するきっかけや機会を提供していく。	生涯学習スポーツ課
				実績	3,066	2,969	3,280						
34	スポーツ施設利用者数	人	204,435	目標値	205,000	205,200	205,400	205,600	205,800	達成	106.4	スポーツ合宿の誘致や、国体開催後のスポーツ施設の利用促進により、スポーツ施設全体の利用者数は目標を上回ることができた。また、市民サッカー場は人工芝の張り替え以降、年間4万人を超える利用者数となり、リニューアルオープンした宮守体育館の利用者は約7,600人と、改修前より増加した。 今後も、施設の利用促進を図るとともに、老朽化が進む施設についても修繕等を行いながら、施設の有効活用に向けていく。	生涯学習スポーツ課
				実績	225,056	217,336	218,463						
35	老人クラブ加入者数 (累計)	人	2,753	目標値	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	概ね達成	94.3	市老人クラブ連合会と連携し、各種スポーツ大会や文化活動等を通じ会員拡大に取り組んだことにより、目標を概ね達成することができた。 ただし、壮年部（60歳代）の会員数が伸び悩んでいることから、市老人クラブ連合会とともに新規加入者の増加に努めていく。	生涯学習スポーツ課
				実績	2,564	2,438	2,424						
36	シルバー人材センター 就業延人員	人日	15,045	目標値	17,000	17,500	18,000	18,000	18,000	未達成	72.7	平成30年度は、前年度に比べ8人多い32人が入会したが、加齢による体力低下等で42人が退会となり、合計会員数は10人減の207人となった。そのため、就業延人員においても前年度に比べ728人日の減少となり、目標達成には至らなかった。 目標値には達しなかったが、家庭等の軽易な修繕や一般作業、市としても軽度生活援助事業など地域に密着した就業機会の提供を行い、就業率100%と高齢者の生きがいの充実と福祉の増進を図った。 また、県内初となる厚生労働省の高齢者就労施策モデル事業により創設された「遠野市生涯現役いきいき促進協議会」と連携を図り、高齢者がセンター事業に参画するよう推進した。 今後も、働く意欲のある高齢者を会員として取り込むとともに、新規受託事業の拡大に向け取り組んでいく。	健康長寿課
				実績	14,540	13,812	13,084						
37	一人暮らし老人世帯等 の見守り回数	回（見回対象世帯数）	5,896	目標値	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080	未達成	73.5	配食サービスの利用者に対し、見守りや声がけを4,470回実施した。配食サービスは市内に住所を有する65歳以上の単身世帯、高齢者のみの世帯で傷病等の理由により調理が困難な者、栄養状態の改善が必要な者等に対し食の提供を行っており、利用者が減ったことから見守り回数も減少した。 定期的に訪問を行うことで、高齢者世帯が住み慣れた地域で安心して生活を送れる環境を整えることにつながった。 今後も、民生児童委員や在宅介護支援センターと連携し、見守りが必要な世帯に対し支援を行っていく。	健康長寿課
				実績	5,155	4,997	4,470						

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
	38	高齢者体力アップ利用者数	人	1,349	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	達成	108.0	生活機能評価の結果、運動機能の低下がみられた高齢者を対象に、短期間に集中して運動機能を向上させるための効果的な筋力トレーニング及びバランス訓練を行う教室を開催した。参加者からは、教室参加の効果を実感している声が多数聞かれた。また、仲間づくりが図られ、参加者は楽しみながら参加している。今後は、高齢者が住民主体で行う体操等の支援と併せて、気軽に筋力トレーニングを行える場の提供機会を拡大し、介護予防につなげていく。	健康長寿課
	39	生きがい活動支援通所事業利用回数	回	6,368	目標値	6,300	6,400	6,400	6,400	6,400	概ね達成	93.8	平成30年度は、新規利用者が39人あったが、体調不良や要支援・要介護の認定を受けるなど利用廃止となる者が55人あった。新規利用者の約半数が80歳以上であり、加齢により外出機会や交流機会が少なくなった高齢者にとって、貴重な活動や交流の場となっている。今後も、多くの高齢者が参加できるよう、各地区の在宅介護支援センター等を通じて、対象者の把握に努め参加を呼び掛けていく。	健康長寿課
	40	認知症サポーター数	人	324	目標値	200	200	200	200	200	概ね達成	95.0	地域住民や学校等の協力のもと「孫世代のための認知症講座」として生徒等を対象に認知症サポーター養成講座を開催することで、参加者の認知症についての正しい理解と「認知症の方を地域で支えていく」という意識の醸成が図られた。養成講座には小学生から高齢の方まで幅広い年齢層の方が参加し、認知症を正しく理解することで、認知症の方やその家族への支援につながった。今後も、各種団体や学校等に対して継続した働き掛けをしサポーターの養成につなげていく。	健康長寿課
	41	家族介護教室参加者数	人	353	目標値	260	270	270	270	270	達成	122.6	遠野市社会福祉協議会に事業を委託し、高齢者を介護している家族や近隣の援助者を対象とした教室を21回開催した。介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等についての知識、技術の習得、情報交換の場として活用され家族介護力の向上につながった。また、認知症高齢者を介護している家族等を対象に、「認知症の人と家族の会」の代表者を招き定期的な交流会を6回開催した。今後は、増加が予測される認知症高齢者やその家族が安心して生活できるよう、地域住民や関係機関等に様々な機会を通じ、家族介護教室や交流会への参加について更なる普及活動を実施していく。	健康長寿課
	42	家族介護者交流事業参加者数	人	96	目標値	100	100	100	100	100	未達成	29.0	遠野市社会福祉協議会に事業を委託し、高齢者を介護している家族を対象とした交流会を、宿泊型1回、日帰り型を1回開催し、延べ29人が参加した。参加者からの希望により1泊2日から2泊3日の行程で宿泊型交流会を開催したが、日程の都合がつかない、介護者自身が高齢であるなどを理由に、参加数が減少し、目標達成には至らなかった。介護者を一時的に介護から解放することにより、心身のリフレッシュが図られ、介護者間の情報交換や介護者相互の支援機会の確保につながったことから、今後は、より多くの介護者が参加できるよう、周知方法や開催曜日、開催方法を調整・検討し、民生児童委員、在宅介護支援センター及び介護支援専門員等の協力も得ながら家族介護者に参加を呼び掛けていく。	健康長寿課
	43	福祉施設から地域生活への移行者数	人	2	目標値	2	2	2	2	2	未達成	0.0	平成30年度については、施設及び病院から在宅等の地域生活へ移行することができず、目標を上回ることができなかった。4人の施設及び病院の入所者が地域生活への移行を希望しているが、相談支援事業所及び各施設等のケースワーカーが受け入れ先となる家族と面談等の支援を行ってきたが、受け入れる家族の都合や本人の身体や精神状態の不良などにより、地域生活の移行に至らなかった。今後も、障がいのある人がそれぞれの能力や適正に合わせて、地域で自立した生活が営むことができるよう、関係団体等との連携を密にするとともに、利用者意向を確認しながら地域移行に向けた体制の整備を図っていく。具体的には、生活や日中活動の場の確保や地域住民の障がいや障がいのある人に対する理解に向けた取組、地域定着のための相談支援体制の充実を図っていく。	福祉課
	44	福祉施設から一般就労への移行者数	人	2	目標値	2	2	2	2	2	未達成	50.0	遠野市地域自立支援協議会就労支援部会内で対象者を把握し、ハローワーク、岩手中部障がい者就業・生活支援センター及び支援学校等構成員の情報共有と個々への支援を行い、新たに1人の方について一般就労につなげることができたが、目標を上回ることができなかった。障がい者就職相談会を、市内の企業等10社の参加により開催した。16名の福祉施設利用者が相談に訪れたが、いずれも就労につながらなかった。今後も、就労者への職場定着支援を含め、新たな就労につなげられるよう障がい者雇用制度の周知や就労支援を行う。	福祉課

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
	45	合計特殊出生率	—	1.90 (H25実績)	目標値	1.90	1.92	1.92	1.94	1.94	未達成	89.1	「子育て応援宣言のまち推進事業」として、新たにわらすっこ条例応援事業所を11カ所認定したほか、市内で開催されるイベント等に乳幼児のおむつ交換台や授乳を行うためのスペースとして、「移動式赤ちゃんの駅」を貸し出しするなど地域や事業所ぐるみで子育てを応援する環境の充実を図った。 指標である合計特殊出生率については、目標数値と比較して0.21下回っているが、昨年度と同様の数値を維持しており、子育て世代を応援する環境の充実を図った施策の成果といえる。 今後も、「子育てするなら遠野」として、地域や事業所を巻き込みながら、市民協働による子育てを応援するまちづくりを推進するとともに、少子化対策の一環として「とおのスタイル結婚応援事業」を実施し、男女の出会いから結婚、妊娠、出産、子育てと切れ目のない支援をさらに展開していく。	こども政策課
					実績	1.64	1.71	1.71						
	46	妊娠・出産について満足している者の割合	%	87.2	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	達成	112.7	出産後の母親の身体的回復と精神的安定を促し健やかな育児を支援するため、助産師による産前・産後サポート事業や産後ケア事業を実施している。 特に母親の不安が高まりやすい産後、退院してから1か月程度の期間において、「助産師や保健師から十分なケアを受けることができたか」についてアンケート調査を行った結果、「適切な支援を受けることができ満足している者」の割合は95.8%（144人中138人）であり、目標値85%を大きく上回った。 今後も、助産師による産前・産後サポート事業や産後ケア事業の充実を図り、対象者のニーズに合わせた支援を実施していく。	母子安心課
					実績	93.9	92.7	95.8						
47	わらすっこ割合	%	14.02	目標値	14.02	14.02	14.02	14.02	14.02	概ね達成	95.2	遠野わらすっこプラン推進事業として、様々な新規事業に取り組んできたところであるが、さらに、放課後等デイサービス事業、特別支援学校送迎バス運行など、療育に関する支援にも力を入れたことにより、子育て世代が安心して働くことのできる環境の充実が図られた。 指標であるわらすっこ割合（年度末における、18歳以下の人口の割合）については、目標値と比較して0.67ポイント下回ったが、地域や事業所ぐるみで子育て世代を応援する環境を充実させたことにより、出生数は2年連続で増加している。 今後も、「子育てするなら遠野」の第2ステージとして、地域や事業所を巻き込みながら、市民協働による子育てを応援するまちづくりを目指して施策を展開していく。	こども政策課	
				実績	13.71	13.52	13.35							
48	児童館・児童クラブ年間利用延べ人数	人	136,814	目標値	137,900	138,400	138,950	139,450	140,000	概ね達成	94.8	平成30年度の延べ利用者数は、目標数値に対して7,156人下回る結果であった。 児童館及び児童クラブの活動内容の充実化によって利用者数の増加を図るため、補助金を交付したものの、児童数の減少や放課後の過ごし方の多様化により、利用数が減少したものと考えられる。 今後も、児童の健全育成の場、子どもの居場所として、活動内容の充実や児童館施設の計画的な整備を図り、利用者のニーズに沿った管理運営に努めていく。	こども政策課	
				実績	135,305	132,123	131,794							

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課							
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率						
3 活力を創意で築くまちづくり (47指標)	49	水田の作付割合	%	89.7	目標値	89.8	89.9	90.0	90.0	90.0	概ね達成	95.6	経営所得安定対策等の制度を有効に活用しながら、需要に応じた作物の作付を推進した。 高齢化等により自己保全管理農地とする農家も増えてきており、不作付地は前年度比で30haの増となったことなどから、概ね達成という状況となった。 平成30年度産から米の生産数量目標が廃止されたことにより、担い手を中心に主食用米の増産に取り組む農家も出てきている。今後も引き続き農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積のほか、経営所得安定対策制度を活用した適切な作付誘導を図り、不作付地の解消を進めていく。	農林課						
					実績	87.3	86.7	86.0												
	50	担い手への水田の集積率	%	49	目標値	52	55	58	60	65	概ね達成	91.4			認定農業者数は農業従事者の高齢化及び後継者不足等により、平成30年度において321人（前年比▲11人）となった。一方で、集落営農組織においては1組織が解散したが、新たに2組織が設立されたことにより、目標値は下回ったものの、農業の担い手への農地集積が進んできている状況にある（新設の2組織は令和元年度産から営農開始）。 今後は、新規就農者や若手農業者を中心に認定農業者の確保・育成を進めるとともに、集落営農組織の経営強化に向けた支援を継続しながら、農地中間管理事業などの各種制度を活用して水田の集積に努めていく。	農林課				
					実績	48	54	53												
	51	集落営農数	組織	20	目標値	21	22	22	23	24	概ね達成	95.5					集落営農アドバイザーの配置により、各集落営農組織の巡回指導、組織化に向けた支援活動を実施した。 集落営農組織においては1組織が解散したが、新たに2組織が設立されたことにより、目標値は下回ったものの、集落営農に対する理解が深まってきている。（新設の2組織は令和元年度産から営農開始） 今後も、集落営農組織の経営の体質強化、法人化への誘導支援、新たな集落営農組織の設立に向けた支援を継続していく。	農林課		
					実績	20	20	21												
	52	認定農業者数	経営体	363	目標値	350	345	340	335	330	概ね達成	94.4							担い手支援アドバイザーを配置し巡回相談を行ってきたが、農業従事者の高齢化及び後継者不足等により、前年比11人減の321人となり、目標達成に至らなかった。 今後も、認定農業者制度の周知、各種研修会を実施し認定農業者の確保、育成に努めていく。	農林課
					実績	345	332	321												
53	青年就農給付金支給者数	経営体	14	目標値	14	14	14	14	14	達成	142.9	若い新規就農者を増加させるための国の制度であり、給付を受けるために関係機関が協力し、支援体制を整え、計画策定時からきめ細かな支援を行った。 その結果、平成30年度中に1名が受給期間満了となり、2名が新たに受給を開始した。 今後も引き続き、新規就農希望者に関係機関と連携して、就農相談及び就農に至るまでの計画策定支援を行っていく。 また、経営が軌道に乗るまで継続した支援を行い、今後の地域農業の担い手として育成していく。	農林課							
				実績	15	19	20													
54	家族経営協定数（累計）	組	238	目標値	241	244	247	250	253	達成	110.1			経営管理の充実と就業条件改善が期待される家族経営協定を、「家族経営協定推進アドバイザー」11名が中心となり農業委員会全体で推進した結果、11世帯の新規締結に結び付けた。 今後も、担い手の経営支援を図るため締結を推進していく。	農業委員会					
				実績	255	261	272													
55	野生鳥獣による農作物被害額	億円	1.35	目標値	1.15	1.05	0.95	0.90	0.85	達成	102.2					電気牧柵を中心とした防除体制及び鳥獣被害対策実施隊による捕獲体制の強化によって、前年度より被害額が増加したものの目標値を達成できた。 今後も、駆除、防除、人材育成対策を継続して、効果的な対策を実施するため、わなの購入や電気牧柵の助成等を実施していく。	農林課			
				実績	0.97	0.79	0.93													
56	多面的機能支払事業取組農地の割合	%	46.9	目標値	58.4	59.2	60.1	61.0	61.9	概ね達成	98.8							多面的機能支払い制度を積極的に周知し、地域住民が一体となった環境整備や農道・水路の維持補修など地域活動に対し支援してきた。 今後も、農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るため制度の周知、研修会を実施しながら、多面的機能支払い事業取組農地の拡大を図っていく。	農林課	
				実績	61.4	58.5	59.4													

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況		
57	中山間地域等直接支払事業取組農地の割合	%	21.1	目標値	22.9	22.9	22.9	22.9	23.4	概ね達成	93.0	中山間地域等直接支払い制度を積極的に周知し、取組地域を組織化してきた。今後も、中山間地域等農業生産条件が不利な地域の生産活動を継続するための支援を行い、耕作放棄地の発生防止や多面的機能の確保を図るため、取組農地の面積を維持していく。	農林課
				実績	21.4	21.3	21.3						
58	農業所得500万円以上の農家数	経営体	13	目標値	14	15	16	17	18	未達成	56.3	重点品目を中心とした支援、関係機関団体と連携した技術指導会や研修会を開催するとともに、省力化・低コスト化を図るための農業機械導入支援を実施してきたが、経営分離等により高収益農家が減少し、目標値を上回ることができなかった。今後も、流通販売や生産技術指導体制の充実を図り、重点的な支援策を実施し、高収益農家の拡大を推進していく。	畜産園芸課
				実績	13	12	9						
59	繁殖素牛頭数	頭	2,517	目標値	2,550	2,640	2,730	2,810	2,900	未達成	88.9	肉用牛増産対策として、優良素牛導入支援事業費補助金を交付しているものの、年々、飼養頭数が減少しているのは、畜産農家戸数の減が大きな要因と考えられ、目標達成に至らなかった。今後は、肉用牛増産対策として、畜産クラスター事業等の導入を検討し具体的な増頭を進めながら、新規就農者の確保と担い手育成に取り組み、増頭を支援していく。一方、増頭による堆肥処理の課題について、検討していく必要がある。	畜産園芸課
				実績	2,984	2,549	2,427						
60	和牛子牛市場出荷頭数	頭	1,735	目標値	1,760	1,820	1,880	1,940	2,000	未達成	84.6	肉用牛増産対策として、優良素牛導入支援事業費補助金を交付しているものの、繁殖素牛が減少しているため出荷頭数が伸びず、目標達成に至らなかった。一年一産とすることで、生産性の向上と農家の収益確保ができるように、関係機関と協力し進めていく。市場の出荷頭数は、繁殖素牛頭数に比例するため、増頭対策を支援していきたい。	畜産園芸課
				実績	1,714	1,716	1,590						
61	いわて遠野牛出荷頭数	頭	1,247	目標値	1,200	1,300	1,400	1,500	2,500	未達成	68.5	肥育素牛導入支援対策事業補助金を交付し、導入経費を支援しているものの、平成26年頃から、和牛子牛市場で取引価格が上がりはじめ、平成28年度が最高値だったため肥育素牛の導入を控えたことにより、出荷頭数が伸びず、目標達成に至らなかった。今後も、肥育素牛導入支援対策事業を継続し、遠野産肥育素牛の市外への流出を抑え「いわて遠野牛」の出荷頭数増を支援していく。	畜産園芸課
				実績	1,074	1,081	959						
62	馬生産頭数	頭	39	目標値	30	30	30	30	30	未達成	63.3	生産に要する種付け料や預託料などの経費に対する支援を行ったが、生産者の高齢化に伴う種付け頭数の減少及び馬鼻肺炎の発生による流産などから、平成30年度の馬の生産頭数は、19頭と目標値を上回ることができなかった。生産に要する経費の支援を継続するとともに、遠野馬の里越冬放牧施設の利用を促進させるなど、冬期間の飼養負担軽減を図り生産しやすい環境を整え、生産頭数の確保に努めたい。また、新規生産者の確保につなげる具体策を示せるよう関係団体と協議を重ねていく。馬鼻肺炎については、予防接種の徹底を促し、同じような事故が続かないよう防疫活動を強化していく。	畜産園芸課
				実績	33	30	19						
63	乗用馬市場取引金額	万円	2,152	目標値	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	未達成	47.4	購買者の増加による市場活性化を図るため、遠野馬の里のホームページ上に特設サイトを作成し、宣伝強化に努めたが、第45回遠野市乗用馬市場の売上げ総額は、1,115万円と目標値を下回り、売却率37.9%であった。これまで、好調であった2歳馬の売却が伸び悩んだことが要因である。販売増には、購買者ニーズの把握、さらなる新規購買者の開拓が必要であることから、市場開設者である遠野市畜産振興公社と連携し、アンケート調査の実施、インターネットツールを活用した宣伝強化などに取組ながら、購買者のニーズに応えられる市場を目指し、市場が活性化するよう努めていく。	畜産園芸課
				実績	1,994	1,820	1,115						
64	農業生産額（耕種）	千万円	277	目標値	276	278	279	280	282	概ね達成	95.7	アスト加速化事業を活用し、地域特性を活かした園芸品目（野菜や花き）、工芸作物、特用林産物等の新規導入や生産面積拡大等に対する支援を行った。平成30年度は、耕種品目は販売価格が高単価で推移したため、前年を上回ることができた。特に、重点推進品目である「ピーマン」においては、単一品目で販売額1億円を達成し、産地として活性化の兆しが見えてきている。今後も、生産者の維持、栽培面積の確保に向け、アスト加速化事業を活用し、農家所得の向上に努めていく。	畜産園芸課
				実績	266	247	267						

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況		
65	農業生産額（畜産）	千万円	374	目標値	356	355	361	367	429	達成	113.3	市の畜産振興策として、優良素牛導入支援事業費補助金や肥育素牛導入支援対策事業補助金を交付し、目標は達成したものの、昨年度より4億5,000万円の減収となった。これは、平成29年度から和牛子牛市場の取引価格が下がってきていることと、子牛市場への出荷頭数、いわて遠野牛出荷頭数及び養豚の出荷頭数の減によるものと捉えている。 今後も、出荷頭数を増やす取組を検討・実施し、生産額の確保に努めていく。	畜産園芸課
				実績	464	454	409						
66	農業生産額（特用林産）	千万円	27	目標値	28	29	29	29	30	達成	106.9	菌床しいたけにおいては、事業導入により周年出荷体制が確立してきており、安定的なしいたけの販売が確立されてきている。 また、原木しいたけにおいては、東日本大震災の影響により平成24年5月から流通が規制されており、しいたけが発生する都度検査を実施する厳しい運用が求められている。現在は31名の集荷制限一部解除にとどまっている。引き続き、市内原木しいたけの安全性確保に努めるとともに、県、生産者との情報交換を密に行い、生産量の向上を目指す。 今後は、畑わさびや山菜類においても、生産組合や関係機関と協力し、生産者の確保や面積拡大を推進していく。	畜産園芸課
				実績	33	32	31						
67	農産物直売所売上高	千万円	55	目標値	56	57	58	59	60	達成	101.7	産直連絡協議会が中心となったリーフレットの更新や、定期的な情報交換会の開催によって、各産直の活性化に取り組んだ結果、目標を上回ることができた。 各直売所において販売スペースをはじめ環境整備や誘客イベント等について趣向を凝らし取り組んだことにより、販売額を維持することができた。 東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通により、売上が減少に転じることも予想されるため、遠野市産直連絡協議会の取組を通じて、直売所個々の改善の実践研修に取り組んでいく。	畜産園芸課
				実績	61	59	59						
68	6次産業化関連効果額	億円	16.5	目標値	17.0	17.2	17.3	17.4	17.6	達成	105.2	地域再生推進法人の指定を受けている遠野ふるさと公社をコーディネーターとして配置し、市内事業者とともに商談会、物産展への出展など、国内の販路拡大に努めた。 海外への販路開拓においては、地方創生推進交付金実施計画（とおのもの・こころ海外経済交流プロジェクト）として、台湾の裕毛屋企業股份有限公司において遠野物産展開催やアメリカ食品スーパーと連携した商談、販売会を開催し六次産業関連効果額が増加した。 〔六次産業関連効果額〕 ・製造品出荷額（食料品）4.0億円（ただし、H30公表前のため推計値） ・加工品出荷額 1.9億円 ・特産品販売額 6.3億円 ・農産物直売所売上額 6.0億円 （合計） 18.2億円（ただし、一部公表前の数値を含むため推計値）	商工労働課 六次産業室
				実績	17.1	17.4	18.2						
69	森林整備面積（年間整備面積）	ha	494	目標値	490	509	547	585	585	未達成	87.6	民有林については、国の森林整備事業を活用しながら森林整備の推進を図った。そのうち、私有林については、森林組合が森林所有者に働きかけ、事業量を増やしたことにより、昨年度に比較し森林整備面積は増加したが、間伐を行える事業体の育成に時間を要しているため、目標値を達成することはできなかった。 森林整備事業実施面積 479.38ha【市有林 38.11ha（植栽、下刈、忌避剤、間伐）＋県有林 54.30ha（間伐）＋私有林 363.60ha（植栽、下刈、除伐、間伐、忌避剤）＋森林環境税 23.37ha（間伐）】 私有林については、市独自事業として①市の嵩上げによる90%補助、②山林からの木材運搬に対する補助を行っており、森林整備をより推進していく。	農林課
				実績	408	475	479						
70	民有林再造林面積	ha	42.7	目標値	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	達成	131.7	市単独の嵩上げ支援制度などを制定し、再造林を促してきたことにより、目標を達成することができた。 伐採後の再造林を推進するため、遠野地方森林組合と連携し、植栽に係る経費の約90%の補助を受けられることを森林所有者にPRしてきた。 今後は、遠野地方森林組合とともに事業周知を行い、さらなる再造林面積の増加を図っていく。	農林課
				実績	69.6	46.4	55.3						
71	木工団地事業体の売上高	億円	17	目標値	17	17	18	18	18	概ね達成	96.1	団地全体の売上高は前年度（29年度）と比較して2億3,234万円の増となった。しかしながら、売上を伸ばしても当期では赤字となった者、売上が減少したにもかかわらず、当期の利益が増益となった者、ここ4～5年の繰越損による累積赤字が膨らんでいる者、売上、当期利益を毎年着実に伸ばしている者など様々であるが、全体がまとまって増収増益に向かっていくための組織力が低下していると考えられる。「森林のくに遠野・協同機構」の協力も不可欠であるが、各社若手職員による協働的な商品開発を推進したい。 市としては「森林のくに遠野・協同機構」と連携し、各組合等の販売力の強化、木質バイオマス関連事業の推進などに取り組んでいく。	農林課
				実績	19	15.4	17						

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況		
72	松くい虫被害木駆除材積量	m3	600	目標値	600	600	600	600	600	達成	105.0	被害地域が西側から拡大してきている中、本市は被害の先端地域に位置することから、被害木については、東側を優先して徹底防除に努めている。 県森林病害虫防除員、遠野地方森林組合及び市内林業事業者との連携により防除体制を強化し、市内全域での被害の早期発見・早期駆除の徹底を図っており、この取組が功を奏し、被害を遠野市内で抑え込んでいる状況である。 引き続き、被害拡大を抑制するため関係機関と連携して取り組んでいく。	農林課
				実績	612	616	630						
73	特用林産物生産量（原木しいたけ）	t	0.0	目標値	1.8	2.3	3.5	4.6	4.6	概ね達成	91.4	遠野産の原木しいたけは、東日本大震災の影響により平成24年5月から流通が規制されている。国や県が示すガイドラインに沿った栽培管理の徹底により、ほだ木の調達時やきのこの収穫時に、その都度検査を受けるなど、生産者にとっては厳しい取組が求められる中、現在31名が集荷制限一部解除となっている。 引き続き、市内原木しいたけの安全性確保に努めるとともに、県、生産者との情報交換を密に行い、生産量の向上を目指す。	農林課
				実績	1.6	1.7	3.2						
74	市内従業者数	人	10,775	目標値	—	10,780	—	—	10,785	/	/	従業者数は、経済センサス活動調査の公表をもって、実績値を把握する。次回調査は、令和元年6月現在の従業者数について、令和元年経済センサス基礎調査で調査が実施される予定である。	商工労働課
				実績	10,546	—	—						
75	就職希望の高校生の就職率	%	100	目標値	100	100	100	100	100	達成	100.0	高校生就職支援関係機関情報交換会、新規高等学校卒業生職業紹介連絡会議や、とおの就職ガイダンス、企業見学会、インターンシップの開催など、高等学校、公共職業安定所、県、市が連携した取組を行うことで、就職希望者の就職率100%を達成することができた。 高卒者の採用状況としては、市内企業からの求人数123人に対し就職者数が26人で充足率が21.1%（前年比△7.5%）にとどまっている。 今後も引き続き、関係機関との連携により、就職希望の高校生に対し、市内企業の情報提供をきめ細かく行っていく。	商工労働課
				実績	100	100	100						
76	市内法人数	社	634	目標値	637	640	643	646	649	達成	101.7	緩やかな回復基調が続く国内経済動向を背景に、遠野市内への法人進出・法人設置の動きが促進され、目標値を上回る法人数となった。 今後は、創業支援等事業計画を変更し、事業環境の変化に対応した創業支援を行うとともに、遠野商工会と連携し、既存企業の事業継続力の強化を支援し、充実化を図っていく。	商工労働課 税務課
				実績	648	647	654						
77	製造品出荷額	億円	403	目標値	404	405	406	407	408	/	/	平成28年の製造品出荷額は、578億円となっており、基準年の平成26年と比べると、175億円（43.4%）の増となっている。 （平成30年の製造品出荷額は、平成30年工業統計調査の公表をもって、実績値を把握する。緩やかな回復基調が続く国内経済動向を背景に、市内企業等の聴き取り調査などからも、目標値の406億円を超えるかと推測される。）	商工労働課
				実績	578	—	—						
78	年間商品販売額	億円	317	目標値	—	320	—	—	325	/	/	平成30年3月公表の平成28年経済センサス活動調査では、遠野市の年間商品販売額が360億円となっており、基準年の平成26年と比べると、43億円（13.6%）の増となっている。	商工労働課
				実績	360	—	—						
79	法人資産総額	億円	350	目標値	358	361	364	367	370	達成	106.0	市内企業の設備投資が減少傾向にあるとみられ、法人資産総額が対前年度比で2年連続の減少となっている。 人口減少による人手不足や働き方改革に対応するためにも、市内企業の生産性向上を図るための設備投資の促進を引き続き図るため、ハンズオン支援体制の充実を図っていく。	商工労働課
				実績	404	394	386						

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況		
80	大学等研究機関との共同研究	件	1	目標値	1	1	1	1	1	達成	100.0	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の一環として、岩手大学と共同して、畑わさびの葉の有効利用に関する研究を行った。研究成果は、岩手大学産学官連携研究センターで発表された。今後も引き続き、ハンズオン支援による技術向上、新分野開拓に係る企業ニーズ及び研究機関側のシーズのマッチングを図っていく。	商工労働課
				実績	2	2	1						
81	商店街街路灯LED化促進事業(累計)	団体	2	目標値	2	4	6	8	10	未達成	16.7	平成30年度からの予算措置により、市内の商店街組合1団体の街路灯LED化整備を支援した。今後は、商店街組合との協議・調整を行った上、毎年1団体の街路灯LED化の促進に努めていく。	商工労働課
				実績	0	0	1						
82	中心市街地の観光施設入込数	人	64,726	目標値	80,000	90,000	100,000	100,000	100,000	未達成	47.5	指標施設は博物館、とおの物語の館、城下町資料館となる。目標達成には及ばなかったが、大震災以降減少傾向となっていた入込数を堅持し、減少傾向に歯止めがかけられた。とおの物語の館へテナント入居した店舗の集客が順調なことから、施設本体への入込へ好影響が見られる。また周辺からまちなか施設への誘客のため、博物館特別展等へのソフト事業と道の駅風の丘との連携を試行した。今後は施設周辺で実施されるイベント等が定着していることやテナント入居店舗の集客力を活かし、本体施設の入込増へつなげること、東北横断自動車道釜石秋田線の全通を契機に、隣接市町村からの新たな客層の獲得へ向けたソフト事業の実施に取り組む。博物館の入館者数は、前年度比112.3%と増加に転じており、今後も魅力的な特別展を実施し、PRを強化して目標の達成に努めていく。	観光交流課 まちづくり推進課、文化課、商工労働課
				実績	49,430	46,331	47,450						
83	中心市街地通行車両・歩行者数	人	3,610	目標値	3,716	3,822	3,928	4,034	4,141	未達成	57.4	中心市街地の通行量については、中心市街地5か所で毎年9月に調査している。当日の気象条件により左右される傾向にあり、平成30年度は風雨となり大幅に減少した。本庁舎周辺地点での一部増、指標外であるが、平日車両通行量は増加傾向がみられる。今後はまちなかの回遊の起点となり周辺通行量に影響する駅周辺の活用について、関係機関と機能の見直しを行っていく。	商工労働課 まちづくり推進課
				実績	3,271	3,690	2,256						
84	空き店舗利用件数	件	2	目標値	2	2	2	2	2	達成	350.0	中心市街地の空き店舗利用件数は、商工会の創業支援塾との連動もあり順調に推移し、目標を達成することができた。今後も創業支援計画に基づき、引き続き行政・商工会・金融機関が連携して、新規出店者の掘り起しや営業継続のための支援を実施する。また、空き店舗の調査を進め利活用の可能性のある物件を探索し、家賃及び改修費の助成事業により新規出店を引き続き支援していく。	商工労働課 まちづくり推進課
				実績	6	2	7						
85	道の駅みやもり入込数	人	321,440	目標値	327,910	331,180	334,500	337,840	341,220	未達成	89.8	道の駅みやもりの入込数は、5年目を迎えたSL銀河運行により、めがね橋への誘客が図られたことや、隣接する商業施設に29年度からホームセンターが出店したプラスの効果もあったものの、目標を下回る結果となった。今後もソフト面での施設の充実を図りながら、魅力ある施設として、活性化に向け取り組んでいく。	商工労働課 まちづくり推進課
				実績	296,350	304,055	300,329						
86	観光客入込数(道の駅を含まない)	万人	52	目標値	54	55	56	57	58	概ね達成	92.9	観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、特に観光キャラバン、セールス活動については、団体間の連携と、戦略を持った取組の重要性に意識が向けられてきている。観光推進協議会では、構成団体それぞれの機能を明確化し、今後2年間の重点的取組を示した「アクションプラン」を平成30年度に作成した。市は、総合計画に基づく事業の推進を図りながら、観光推進協議会のアクションプランや、それに基づいた事業の進行管理を行いながら、観光推進協議会と一体となって観光客入込数の増加に向け、連携を強化していく。	観光交流課
				実績	45	43	52						
87	道の駅利用者を含む観光客入込数	万人	184	目標値	185	186	187	188	189	概ね達成	91.4	観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、特に観光キャラバン、セールス活動については、団体間の連携と、戦略を持った取組の重要性に意識が向けられてきている。平成30年度は「道の駅遠野風の丘 創業20周年」の取組や、国道340号立丸峠トンネルの完成、東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通など、観光推進協議会が年間を通じてイベントを実施したことから、観光入込者数が増加した。今後は、総合計画に基づく事業の推進を図りながら、観光推進協議会が取り組む事業の進行管理を行い、観光推進協議会と一体となって観光客入込数増加に向けた取組を促進していく。	観光交流課
				実績	163	157	171						

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
	88	日帰り旅行者数	万人	175.4	目標値	177.2	178.0	178.8	179.6	180.4	概ね達成	91.4	観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、特に観光キャラバン、セールス活動については、団体間の連携と、戦略を持った取組の重要性に意識が向けられてきている。 平成30年度は「道の駅遠野風の丘 創業20周年」の取組や、国道340号立丸峠トンネルの完成、東北横断道自動車道釜石秋田線の全線開通など、観光推進協議会が年間を通じてイベントを実施したことから、観光入込者数が増加した。 今後は、総合計画に基づく事業の推進を図りながら、観光推進協議会が取り組む事業の進行管理を行い、観光推進協議会と一体となって観光客入込数増加に向けた取組を促進していく。	観光交流課
	89	宿泊客数	千人	86	目標値	78	80	82	84	86	未達成	86.6	観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、特に観光キャラバン、セールス活動については、団体間の連携と、戦略を持った取組の重要性に意識が向けられてきている。 平成30年度は「道の駅遠野風の丘 創業20周年」の取組をはじめとして、国道340号立丸峠トンネルの完成、東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通など、年間を通じたイベントを実施したこともあり、特に旅館の入込が前年度より114%の伸びとなったが、事業者の事情により、事業を休止及び廃止した事業者もあったことから、全体的に伸び止まりとなり、目標に達することができなかった。 今後は、総合計画に基づく事業の推進を図りながら、観光推進協議会が取り組む事業の進行管理を行い、観光推進協議会と一体となって宿泊者数増加に向けた取組を促進していく。	観光交流課
	90	外国人観光客入込数	人	1,208	目標値	1,800	2,100	2,400	3,000	3,500	達成	118.0	観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、特に、東北観光復興対策交付金を活用した海外プロモーション事業については、団体間の連携と、戦略を持った取組が図られた。 今後は、ラグビーワールドカップ2019釜石大会への対応や、東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、本市を訪れる外国人は今後も増加する見込みであるため、受入環境の整備を促進させるとともに、市の総合計画に基づく事業の推進を図りながら、観光推進協議会が取り組む事業の進行管理を行い、観光推進協議会と一体となって、観光客入込数増加に向けた取組を促進していく。	観光交流課
	91	農家民泊戸数（累計）	軒	141	目標値	150	155	160	165	170	未達成	85.0	平成30年度は、8校680人の教育旅行の受入れをしたが、農家民泊登録戸数は、高齢等の理由により減少傾向にあり、目標値を上回ることができなかった。 今後は、特定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークと連携し、受入れ農家を支援しながら、交流による産業振興と地域の活性化に努めていく。	観光交流課
	92	定住者世帯数（累計）	軒	61	目標値	85	100	120	140	160	未達成	81.7	平成30年度の移住・定住に向けた相談件数は延べ35件（29人）で、うち6世帯11人が移住・定住した。 首都圏での移住相談会への参加や県南広域振興局、県南地域他市町と連携した移住者向けセミナーを実施し、「移住・定住ワンストップ窓口」として関係機関と情報共有しながら対応することで、相談件数は増加したが、依然、移住・定住希望者向けの空き家の確保が課題である。 今後も、リフォーム事業助成金の利用促進、市内の不動産業者との連携を進めて物件確保のうえ、遠野の魅力でPRし、更なる定住促進を図っていく。	観光交流課
	93	で・くらす遠野市民人口	人	300	目標値	300	300	300	300	300	未達成	77.0	平成30年度は、友好都市・愛知県大府市を中心とした支援の継続や遠野郷人会の協力、交流事業で友好都市の方々へPRを行ったが、新規会員の加入が伸びず、目標値を上回ることができなかった。 制度開始からの延べ会員数は3,100人を超え、特に、中京地区本部においては延べ1,100人達成セレモニーを挙行することができた。 今後は、会員特典の変更など制度の見直しを行い、新たな魅力を創出しながら会員の加入促進に努めていく。	観光交流課
	94	連携交流推進事業参加者数	人	3,035	目標値	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	達成	127.9	平成30年度は、菊池市・西米良村との交流20周年記念事業や住民相互交流、武蔵野市民ツアーの受入等を実施し、友好都市の多くの人々と交流を深めることができた。また、武蔵野市・三鷹市・大府市・福崎町のイベントに出店し、遠野市及び特産品をPR販売し、人とモノの両面での交流が図られた。 今後も、友好都市・交流市町村と交流を継続し絆を深め、交流人口の拡大をはかり、地域の活性化につなげていく。	観光交流課
	95	中学生の海外派遣数	人	9	目標値	9	9	9	9	9	達成	100.0	姉妹都市であるアメリカ合衆国テネシー州チャタヌーガ市へ、市内の中学生9名を派遣した。 現地ではホームステイや学校生活等を経験し、文化の違いに触れる、多様性への理解を深める等、国際的感覚を持った人材育成を図ることができた。 今後も、受入先、各中学校や関係機関・団体と連携を図り、事業を継続実施し、計画的に派遣者数を維持していく。	生涯学習スポーツ課

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
4 ふるさとの文化を育むまちづくり (27指標)	96	キッズ元気アップ教室 参加者数（延べ人数）	人	1,573	目標値	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	概ね達成	98.7	市内13保育園と子育て支援センター「まなざし」を会場に、園児及び親子を対象とした教室を平均5回開催したほか、新たに私立こども園と私立幼稚園でも開催した。目標にはあと一步届かなかったものの、幼児期における運動機会の提供により、運動意欲の向上や習慣化による体力向上に寄与した。今後も教室内容を工夫し、参加者の拡大に努めていく。	生涯学習 スポーツ課
					実績	1,239	1,301	1,530						
	97	小学校標準学力検査偏差値	偏差値	53.8	目標値	53.8	53.8	53.9	53.9	53.9	概ね達成	98.1	平成30年4月に実施した小学校学力調査の結果は、目標値には1ポイント届かなかったものの概ね達成している状況であり、前年度同様に全国平均を上回る状況となっている。 平成25年度から始まった学力向上の取組成果に基づき、「遠野市学力向上アクションプラン」を作成し、全教員で共通認識を図りながら、中学校区毎に小中学校が連携した学力向上を推進した。また、日々の取組実践をデータベース化し、活用を図っている。 平成30年度は、中学校区毎の小中学校が連携した取組開始から6年目であることから、この6年間の取組を検証し、望ましい授業の姿を「遠野市授業づくりスタンダード」として整理した。これを全教員で共有するとともに、日常実践につなげることで、授業改善の取組を継続させていく。	学校教育課
					実績	52.8	52.8	52.9						
	98	中学校標準学力検査偏差値	偏差値	48.4	目標値	48.5	48.5	48.6	48.6	48.6	達成	101.9	平成30年4月に実施した中学校学力調査の結果は、目標値を0.9ポイント上回り、目標を達成することができた。全国平均までは、あと0.5ポイントの状況となっている。 各教科ごとの結果をみると、5教科中「国語」「数学」「社会」の3教科で前年度を上回り、国語と理科は全国平均を上回る結果となった。また、課題となっている「数学」において伸びがみられることから、特定教科集中対策事業の取組を充実させることにより、更なる成果につなげていきたい。 平成30年度は、中学校区毎の小中学校が連携した取組開始から6年目であることから、この6年間の取組を検証し、望ましい授業の姿を「遠野市授業づくりスタンダード」として整理した。これを全教員で共有するとともに、日常実践につなげることで、授業改善の取組を継続させていく。	学校教育課
					実績	47.9	49.8	49.5						
	99	学校給食に使用する遠野産食材の割合	%	65.3	目標値	65.5	65.8	66.1	66.4	66.6	達成	105.9	遠野産の食材を積極的に活用し、地産地消の推進及び消費拡大を図った。納入業者への衛生管理指導も徹底し、安心安全な給食提供に努めた。また、栄養教諭による指導では、「朝ごはん」を題材とした授業を行い、食育推進を図った。 交流すまいる給食では、生産者や関係者等と共食することで、感謝の気持ちと食の大切さを培う機会となったほか、郷土食の継承及び国内外の食文化に触れる機会となった。 今後も、納品業者及び産直等と連携し遠野産食材の消費拡大に努めていく。	学校給食センター
					実績	67.6	66.0	70.0						
100	市民センター施設の利用件数（スポーツ施設除く）	人	4,657	目標値	4,050	4,050	4,050	4,050	4,050	達成	100.9	屋内消火栓ポンプや空調機器の更新等を実行的に行い、利用者が安全かつ快適に利用できる環境づくりに努めた。 目標は達成したものの、昨年度と比較すると利用件数が減少しており、中でも市民会館、勤労青少年ホームの利用件数の減少が顕著となっている。 今後も指定管理者と協力しながら、ホームページ等でPRを実施し、よりよい環境づくりと利用促進に努めていく。	市民協働課	
				実績	5,187	4,745	4,088							
101	市民センター施設の利用者数（スポーツ施設除く）	人	186,011	目標値	108,000	108,000	108,000	108,000	108,000	達成	110.0	屋内消火栓ポンプや空調機器の更新等を実行的に行い、利用者が安全かつ快適に利用できる環境づくりに努めた。 大ホール等を利用したイベントなどの利用が増えていることもあり、利用件数の減少とは一転して利用者数は増加傾向となった。 今後も指定管理者と協力しながら、ホームページ等でPRを実施し、よりよい環境づくりと利用促進に努めていく。	市民協働課	
				実績	120,311	114,368	118,820							
102	全講座における継続的講座数	講座	5	目標値	5	5	5	5	5	達成	200.0	高齢者を対象にした講座や、ICT関連講座等を継続的に開催することができた。 今後も対象を成人（高齢者や女性）や青少年等々に焦点化した講座を開催するなど、多様な学びの場を提供していく。	生涯学習 スポーツ課	
				実績	10	10	10							
103	市民センター・地区センター生涯学習講座の延べ受講者数	人	4,911	目標値	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	達成	104.9	市内全域を対象にした民間活力の活用による生涯学習講座と、地区ごとの特色ある講座を開催し、生涯学習の推進を図ることができた。 特にも、多くの地区公民館主催講座を開催し、市民へ学びの機会を提供することができた。 今後も、多様化する市民ニーズの把握に努め、市民が気軽に参加できるような講座を開催していく。	生涯学習 スポーツ課	
				実績	4,308	4,284	5,033							

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況		
104	家庭教育講座等の延べ参加者数	人	1,558	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	達成	107.6	市内全小中学校を会場とした家庭教育講座等と、市内全域を対象とした「家庭教育講演会」を開催した。保護者や教職員などの教育関係者のみならず、児童・生徒や地域関係者等の多数の参加を得て、平成30年度は、地域の教育課題である「情報メディアとの上手な付き合い方」をテーマとした講座開催を奨励するとともに、家庭内のコミュニケーションや読書など幅広い家庭教育や地域の教育課題の解決に資する講演会を行い、家庭教育力の向上に取り組むことができた。家庭教育は教育の原点であり、地域における子育て意識の醸成の基盤であることから、PTAや地域関係団体と連携した講座の実施と参加者の確保に努めていく。	生涯学習スポーツ課
				実績	1,313	1,192	1,291						
105	青年団体加入者数（累計）	人	76	目標値	80	80	83	85	85	達成	136.1	各青年団体において、それぞれの会員確保に積極的に取り組んだことから、加入者数（累計）増につながり、目標を達成することができた。今後も、各青年団体がそれぞれの目的達成に向けた独自の取組を尊重しながら、活動に対する助言や会員確保に向けた周知等の支援に努めていく。	生涯学習スポーツ課
				実績	97	105	113						
106	自主事業の顧客満足度	%	85.0	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	達成	116.0	市民センターでは「めざましクラシックsin遠野」を、宮守ホールでは「昭和の歌コンサート」を開催し、鑑賞者を対象にアンケートを実施した。その多くが、自主事業に満足しているということで、目標を達成することができた。今後も、多くの市民が文化芸術に触れる貴重な機会として、対象を明確にした自主事業を開催するなど、工夫しながら、鑑賞者が満足できるような自主事業の企画・立案に努めていく。	生涯学習スポーツ課
				実績	83.5	85.0	98.6						
107	市民協働の芸術文化事業の参加者数	人	1,771	目標値	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	未達成	73.6	市民芸術祭や遠野物語ファンタジー等の芸術文化事業参加者は、固定化・高齢化傾向にあり、目標値を達成することができなかった。今後は、より一層関係機関・団体と連携しながら、子どもたちを対象にした芸術文化事業を企画し、長期的に芸術文化事業に携わることができるように取り組んでいく。	生涯学習スポーツ課
				実績	1,357	1,341	1,399						
108	市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数	人	9,792	目標値	8,770	8,770	8,770	8,770	8,770	未達成	79.0	市民芸術祭や遠野物語ファンタジーなど、市民センター等を会場とした芸術文化事業を開催・支援したものの、目標値を達成することはできなかった。今後は、芸術文化団体が主催する事業をより支援することに加え、市としても、より多くの市民が興味関心を持ち鑑賞するような芸術文化事業を企画していく。	生涯学習スポーツ課
				実績	8,223	8,350	6,929						
109	博物館入館者数	人	19,613	目標値	20,000	20,200	20,400	20,600	20,800	未達成	89.3	特別展「遠野物語と河童」など来館者のニーズに合わせた特別展を開催、情報発信を積極的に行い集客に努めた。また、遠野町家のひなまつりに合わせた特別展「遠野のひな人形」を開催し、商工会と連携して中心市街地への集客に貢献した。すべての事業を計画通りに実施し、前年度比112.3%の入込となったが、団体観光客の減少の影響もあり、指標は未達成となった。近年続いている中心市街地への入込減の中、博物館の入館者数は増加に転じており、今後も魅力的な特別展を実施し、PRを強化して目標の達成に努めていく。	文化課
				実績	16,349	16,230	18,226						
110	博物館講座等の受講者数	人	944	目標値	950	950	950	950	950	達成	203.8	特別展開催に合わせた講座、ワークショップ、ギャラリートークの開催、児童生徒を対象とした博物館教室等を計画通りに実施し目標を達成した。また、土淵地区センターにおいて移動展を開催し、地域のニーズに応えた。今後も、郷土の歴史、文化、民俗などの学習機会を提供し、学校等と連携した事業の開催に努めていく。	文化課
				実績	1,131	1,292	1,936						
111	図書館の利用者数	人	17,008	目標値	16,300	16,000	15,800	15,500	15,300	達成	107.7	本に親しむ場所の提供に配慮して、図書館内での季節ごとの図書の本の企画展、映画会、図書館講座、ボランティア等による読み聞かせの活動を行いながら、利用者拡大を図った。視聴覚ライブラリーを活用しての図書館教室、図書館講座、影絵の講演会を開催し利用拡大に努めた。今後も、館内での企画展等やレファレンスサービスの充実にも努め、利用しやすい、親しみやすい環境づくりに努めていく。	文化課
				実績	17,972	17,568	17,018						

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
	112	市民への図書貸出冊数	冊	65,905	目標値	65,200	67,200	71,100	74,400	76,500	概ね達成	95.1	利用者の声を反映させ、図書の選書の充実、使用しやすい配架、展示案内に配慮しながら広報等を活用して読書情報を提供し、読書推進に努めた。 今後も、利用者のニーズに対応した図書の選書や広報活動による本の紹介を継続し、利用しやすい環境づくりに努めていく。	文化課
				実績	68,528	67,945	67,606							
	113	移動図書館車の貸出冊数	冊	11,526	目標値	11,200	11,300	11,300	11,400	11,400	達成	105.0	移動図書館車を利用されている方の声を伺いながら、巡回場所、日程、回数のあり方に配慮するとともに、また、利用者の図書のリクエストに応じながら貸し出しの拡大に努めた結果、利用者の利便性を図ることができた。 今後も、巡回場所、回数の利用状況を把握しながら、貸し出しの拡大及び読書の普及に努めていく。	文化課
				実績	11,899	11,355	11,864							
	114	学校図書館・児童館への貸出冊数	冊	20,930	目標値	20,900	21,100	21,200	21,400	21,500	達成	104.4	学校の図書室との連携を図りながら、図書の選書、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の協力など、読書活動の充実を図った。 小中学校及び児童館への図書貸出を行い、読書推進を図ることができ、小学校 13,250冊、中学校 2,880冊、児童館 6,000冊の貸し出し実績となった。また、児童館への図書の配架を増やし利用拡大を図った。 今後も、連携しながら図書の充実、読書の推進に努めていく。	文化課
				実績	20,930	21,130	22,130							
	115	指定文化財説明板設置件数（累計）	基	88	目標値	90	91	92	93	94	達成	104.3	市指定文化財説明板新設2基（鞍迫観音堂算額、山谷観音堂経筒・鰐口）により目標を達成した。新たに写真を加え、分かりやすく劣化しにくい指定文化財説明板を設置し、市民の文化財に対する理解と保護啓発に努めた。 今後は、老朽化した説明板更新を行うとともに、未設置となっている指定文化財の説明板を新設し、周知と啓発に努めていく。	文化課
				実績	93	94	96							
	116	民俗芸能の映像記録件数（累計）	件	22	目標値	24	25	26	27	28	達成	100.0	郷土芸能の保存継承のため、「第26回遠野郷神楽共演会の映像記録」を計画通り製作し、目標を達成した。 これまでに記録した資料を適切に管理保存していくとともに、未記録の郷土芸能について映像記録製作を継続し、保存継承に努めていく。	文化課
				実績	24	25	26							
	117	遠野遺産推薦件数	件	141	目標値	144	145	146	147	148	達成	107.5	推薦された新たな7件（第151号 月山神社(旧胡四王薬師堂)、第152号 蘭場の山神社(蘭場産神宮)、第153号 上宮守西風の石碑群、第154号 中斎駒形神社、第155号 上宮守神楽、第156号 湧水念仏、第157号 迷岡駒形神社と一里塚)を遠野遺産として認定した。 今後は、表示板の設置や公式ガイドブックの配布等により周知しながら、地区センターと連携した取組により新たな遺産の掘り起こしに努め、文化的資産の保護を通じて郷土愛の醸成と地域づくりを推進していく。	文化課
				実績	149	150	157							
	118	遠野遺産保護活用活動実施割合（実施団体数／認定件数）	%	—	目標値	60	60	60	60	60	達成	166.7	遠野遺産157件の推薦団体及び地区センターなどからの保護活動に関する報告により、全ての遠野遺産で保護活動が行われ、認定後も地域の宝として保護されていると確認された。 今後は、保護活動を見守るとともに、地域学習などの活用に対し地域と連携して取り組んでいく。	文化課
				実績	100	100	100							
	119	遠野文化研究センター活動の参加者	人	768	目標値	400	400	400	400	400	達成	199.3	平成30年度は、遠野の先人を紹介する市民向け講座のほか、河童をテーマとした遠野文化フォーラム「なぜ、遠野はカッパなのか」や、子ども向けワークショップ「かっぱ縁日」を開催し、遠野の民俗文化に対する関心を高めることができた。また『遠野物語』発刊110年の機運醸成と市内文化関係団体の交流を図る「遠野物語超会議」を開催した。このほか地区センターを会場にした地域講座（2回）や森林管理署遠野支署と連携した森林の歴史講演会を開催するなど、地道な学習活動を積み重ね目標を達成することができた。 今後は、遠野の文化を広く発信し、人材育成を図っていく。	文化研究センター
				実績	827	616	797							

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
	120	遠野文化研究センター活動の参加者満足度 (11段階評価)	点	—	目標値	6	6	6	6	6	達成	140.8	受講者の満足度を高めるため、遠野文化研究センターでの講座のほか、出前講座や各種イベントを企画し、開催した。それらの遠野文化研究センター活動の実施毎に、顧客推奨度指標11段階評価のNPS（ネット・プロモーター・スコア）による参加者アンケートを実施した結果、平均値8.45点の高い評価を得た。 これからも、市民のニーズを反映した参加者からの高い満足を得られる活動を展開し、郷土の文化を担う人材の育成に努めていく。	文化研究センター
		実績	8	9	8									
	121	遠野こだわりの「語り部」認定者数	人	710	目標値	800	850	900	950	1000	達成	103.6	認定者数の拡大のため、認定に向けたスクーリングを6回開催した結果、平成30年度は子ども語り部41人、歴史1人、食2人、郷土芸能9人、生業1人の合計54人を認定し、目標を達成することができた。 特に、子ども語り部については、学校との連携を図りながら取り組むことができた。このほか、郷土芸能の語り部の研修の機会として「町家で楽しむ女子神楽」を開催し、研修の機会と場を提供するとともに、中心市街地活性化に寄与した。 今後も、学校や地域団体などと連携しながら語り部の認定を行い、研修の機会と場を提供しながら、遠野の「語り」の文化を次代に継承していく。	文化研究センター
	実績	837	878	932										
122	市史編さん事業進捗率 (①市史編さん委員会開催、②資料収集・調査、③刊行のための実務作業、④教育普及・広報)	%	—	目標値	100	100	100	100	100	達成	100.0	遠野の歴史・文化を総合的にまとめるため市史編さんを行う。令和9年度の事業完了を目指し、各年度の事業進捗率を①市史編さん委員会開催、②資料収集・調査、③刊行のための実務作業、④教育普及・広報の4項目をすべて実施した場合、100%（1項目25%）と設定した。 ①市史編さん委員会を2回開催し、全体的な事業計画や編さん方針について審議を行い、編さん事業の円滑な推進を図った。 ②遠野南部家資料調査や古文書の解読作業を実施し、今後の編さん活動に向けた基礎資料の蓄積が図られた。 ③令和元年度の「現代編」刊行に向け、現代編部会や現代編担当調査研究員会議、原稿読み合せ会等を重ねながら編目案の検討、原稿調整などの実務作業を進めた。 ④市史編さん講座を1回、古文書講座を6回開催し、また、市広報や市ホームページで活動を周知することにより、遠野の歴史に関する教育普及を図った。 以上の4項目を実施したことで、平成30年度は事業進捗率100%を達成した。これからも、市民協働で市史編さん事業を着実に進めていく。	市史編さん室	
	実績	100	100	100										

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績					30年度		成果・評価	担当課	
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況			達成率
5 みんなで考え支え合 うまちづくり (13指標)	123	市内河川清掃参加者数	人	7,590	目標値	7,540	7,470	7,400	7,320	7,250	未達成	89.1	地区センターや区長を通じた住民への河川清掃参加の呼びかけや、遠野テレビを活用した住民への周知を行ったが、高齢化の影響もあり昨年度より327人減少となった。（一般：252人減、児童生徒：75人減）高齢化が進み参加困難な高齢者のみの世帯が増加傾向にあり、一般参加者は減少したが、地域活動への参加意識は高く児童生徒も積極的に参加し、多くの住民の協力により実施することができた。今後は草刈機の貸出しなどを行い、多くの若い方が積極的に参加できるような体制づくりに努めていく。	環境課
					実績	7,148	6,924	6,597						
	124	道路環境整備参加者数 (延べ人数)	人	14,465	目標値	12,950	12,950	12,950	12,950	12,950	達成	126.4	地区センターや区長を通じた環境整備参加の呼びかけなどの取組により、目標値を3,421人上回る参加者数となった。市道の草刈作業、道路沿いの花壇の整備、冬季間の除雪作業のほか、小中学生によるごみ拾いなど多岐にわたる環境整備活動を実施し、住民協力のもと地域環境美化への取組が行われた。今後も、多くの住民に参加してもらえるよう広報等で周知・啓発活動に取組んでいく。	環境課
					実績	17,646	18,000	16,371						
	125	みんなで築くふるさと 遠野推進事業実施数	事業	63	目標値	65	65	65	65	65	達成	218.5	今年度から全11地区が300万円を上限とする地区まちづくり一括交付型補助事業に取り組み、地域ごとに独自の資源や文化を生かした特色ある取組が進められた。全地区が参加する報告会や各地区で視察研修を行うことで、目標を大きく上回る事業に取り組むことができた。今後も、地域住民の意見要望等を取り入れつつ、地域課題解決に向けた事業創出に取り組んでいく。	市民協働課
					実績	67	93	142						
	126	みんなで築くふるさと 遠野推進事業参加者数	人	1,654	目標値	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	達成	232.3	「地区まちづくり一括交付型事業」を全11地区で取り組んだことに伴い、新たな参加者が加わり目標を達成することができた。また、平成30年度は新たに3地区で「地区まちづくり計画」が策定され、地域課題を「住民が自ら考え、判断し、実践・解決する」住民自治の取組意識が醸成された。今後も、地域課題解決に向け地域住民の意見要望等を取り入れつつ新たな取組が進められるよう、参加者の拡大に取り組んでいく。	市民協働課
					実績	1,977	2,323	3,717						
127	各委員、協議会の女性 参画率	%	27.0	目標値	27.6	28.2	28.8	29.4	30.0	概ね達成	97.6	各審議会等の委員改選において女性委員の登用割合が減少したことにより、前年度の実績と比較し、登用率が減少した。今後は、各審議会における女性委員の参画率が伸びるよう働きかけを行うとともに、「男女共同参画」意識の啓発に努めていく。	生涯学習 スポーツ課	
				実績	28.4	29.0	28.1							
128	市長と語ろう会参加者 数	人	0	目標値	300	300	300	300	300	概ね達成	98.3	遠野スタイルによるまちづくりを推進することを目的に、「小さな拠点による地域づくり」をテーマに、市内11地区を会場に地区別懇談会を開催した。「小さな拠点による地域づくり」の市の考え方について広く周知する機会となったとともに、地域づくりに対する市民の不安や、新たな取組に対する疑問点についての率直な意見を聞く機会となった。今後も、幅広い年齢層と懇談できるよう努めていく。	政策担当	
				実績	370	0	295							
129	経営改革大綱実行計画 の達成率	%	77.1	目標値	80.0	80.0	90.0	90.0	100.0	達成	106.3	市民、行政、第三セクター・企業等がそれぞれに役割を担うことで課題を解決する「地域総合力」の強化を図るため、「行政内部の体制と業務の見直し」「第三セクター等の経営体強化」「人づくり」に視点を置き取り組んだ。「第三セクター等の経営体強化」には、行政を含めた関係団体の連携と戦略的な展開が必要であるため、外部専門家等の意見を取り入れ、今後段階的に改革を実行していく。また、「人づくり」には継続が必要であり、特に、話し合いと実行の繰り返しによる地域づくりの実践者の育成や、児童・生徒への地域の理解や市政への参画の場の提供による地域の担い手育成を行っていく。	政策担当	
				実績	88.0	87.0	95.7							
130	国土調査進捗率	%	84.21	目標値	85.90	86.29	86.50	87.34	88.23	概ね達成	100.0	計画面積1.93km ² に対して、内示額による調整を行い実施面積1.30km ² の上郷町佐比内地内の現地調査を実施した。単年度では計画面積を実施できなかったが、長期計画ではフォローできるように、内示額で実行できる最大面積の現地調査を実施していく。今後も、第6次国土調査事業10か年計画の目標達成に向けて、境界が不明確になりつつある山間部を優先した現地調査の推進に努めていく。	建設課	
				実績	85.90	86.24	86.47							

第2次遠野市総合計画前期基本計画（H28～R2（H32）年） 平成30年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状 (26年度)	年度別目標と実績						30年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	達成状況	達成率		
131	市税等の収納率（現年分）	%	97.46	目標値	97.48	97.49	97.50	97.51	97.52	達成	100.2	遠野市市税等収納対策本部本部員会議で決定した「収納対策プロジェクトの取組」である公金担当関係課による催告書の共同発送、共同発送の翌月を徴収強化期間として電話催告や訪問催告の実施、また、税務課窓口の納付啓発ディスプレイやチラシ・広報配布に加え、市税で平成28年度から開始したコンビニ収納を通じた納税機会の拡大・納税者の利便性確保により、目標値を0.16ポイント上回ることができた。今後も、引き続き公金担当関係課での情報共有及び連携しながら、時期を捉えた催告に日ごろからの啓発を交えた活動と積極的な滞納処分に取り組み、より一層の収納率の向上に取り組んでいく。	税務課	
				実績	97.60	97.88	97.66							
132	経常収支比率（普通会計）	%	83.2	目標値	87.0	87.0	87.0	86.9	86.8	概ね達成	99.8	財政の健全化を示す「経常収支比率」は、前年度よりも0.8ポイント低い87.2%という結果となった。同比率を導き出す経常的経費に係る一般財源（歳入）は、地方交付税のうち普通交付税で2億8,701万円、臨時財政対策債で3,010万円減となった。一方、歳出経常一般財源では、除排雪経費を含む維持補修費1億2,877万円、公債費1億1,705万円、人件費4,083万円となったことから、同比率を縮小することができた。今後も厳しい財政事情が続く見込みであるが、予算編成等における経費削減を徹底しながら、これまで以上の対策を講じていく。	財政担当	
				実績	92.6	88.0	87.2							
133	実質公債比率（普通会計）	%	11.2	目標値	13.0	13.0	12.7	12.0	12.0	達成	100.8	本市の財政規模に対し、地方交付税による国からの支援分を差引いた実質的な借入金返済の負担割合を示す「実質公債費比率」は、前年度よりも0.7ポイント低い12.6%となった。平成14年度の中心市街地核店舗創成事業に係る一般単独事業債や平成19年度の「永遠の日本のふるさと遠野基金」への積立て等に係る合併特例債の償還が終了したことなどによる元利償還金の額が約127,000千円減少したことや第3次遠野市健全財政5カ年計画に基づき、借入額を償還額未満とするプライマリーバランスの黒字化に努め、総借入金残高を減少させたことが要因として挙げられる。令和元年度の返済額は予算ベースで約1億2,400万円減額しているが、借入額は約4億4,200万円増額しているため、今後も目標値を達成できるよう、適正な財政運営に努めていく。	財政担当	
				実績	13.5	13.3	12.6							
134	市民一人当たりの借入金残高	千円	477	目標値	507	476	447	419	407	達成	105.2	第3次遠野市健全財政5カ年計画に基づき、借入れるお金よりも返済するお金を多くした結果、市民一人当たりの借入金残高は、目標値よりも2万2,000円低い42万5,000円（前年度比△2万6,000円）となった。分母となる人口も減少したものの投資的事業の選択と集中により借入額を抑制し、総借入金残高を減少させ、市民一人当たりの残高は前年を下回る結果となった。なお、ソフト事業や財源を補てんするための借入金を除いた建設事業充当借入金残高の総額は114億2,583万円となっている。実績値は、この残高を平成31年3月末現在の住民基本台帳人口26,899人で割り返した数値である。	財政担当	
				実績	443	451	425							
135	市職員数	人	373	目標値	363	360	356	353	351	達成	105.0	第3次定員管理計画（平成28年度～令和2年度）の確実な実行により、計画より17人前倒しとなる職員数の縮減となっている。今後も、定年退職者数の推移をみながら、職員採用を行うとともに、業務の一部について外部委託する方策の検討を進め、第3次定員管理計画に基づいた適正な定員管理に努めていく。	総務課	
				実績	351	344	339							